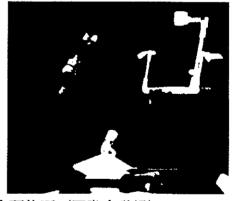
平成17年度 派遣現職教員派遣前研修 報告書







平成17年4月12日 JICA国際協力総合研修所(国際会議場) 平成17年4月13日 筑波大学附属学校教育局

平成18年2月

筑波大学教育開発国際協力研究センター(CRICED) 文部科学省拠点システム構築委託事業 派遣現職教員支援課題 註:本研修は、国際協力機構(JICA)青年海外協力隊(JOCV)、文部科学省(MEXT) ,及 び筑波大学教育開発国際協力研究センター(CRICED)、の共催で行われた。 文部科学省と国際協力機構による平成 17 年度派遣現職教員派遣前研修を 2005 年 4 月 12 日、13 日に実施させていただくことができました。この報告書は、そこでなされた研修内容を収めています。

研修は、国際理解教育・開発教育研修、帰国隊員との派遣経験の共有研修、拠点システム成果共有研修、ICT 活用研修などで構成されました。関係者のご尽力により、お陰さまで、これから派遣されようとする派遣現職教員の生き生きした眼差し、笑顔がこぼれるすばらしい研修会になりました。それも本派遣前研修のためにご尽力下さった関係者のお力によるものです。改めてお礼申し上げます。

本年度で 3 回目を迎える派遣前研修ですが、派遣現職教員のみを集めて行う研修としては、今回が初回となります。過去 2 回の派遣前研修は、協力隊の訓練所で、一般の隊員に対するプログラムと同じ性格のもとで、2~3 時間を上限に実施してきました。その実績の評価を通して集団研修の必要が認められ、お陰さまで今年度より、独立した一つの研修として実施することができるようになりました。この研修の実現までに、ご尽力下さった関係の皆様に深くお礼申し上げます。

本課題は、この派遣前研修を経て任地で活躍する派遣現職教員を継続的に支援してきています。この 2 日間の派遣前研修は、私どもにとりましても派遣現職教員と絆を作るこれまでにない貴重な機会となりました。このような絆を得る上でも、この派遣前研修はなくてはならない行事となっています。

本研修プログラムは、これまでの反省と懸案を鑑みて計画されたものです。 今後もよい研修を実現するために研修内容を改定していく所存でございますの で、今後とも貴重なお考えをいただけますよう、またこの研修制度の発展のた めにご高配下さいますよう、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

2006年2月10日

文部科学省 拠点システム構築委託事業 派現現職教員支援課題 代表者 礒田正美

プログラム				*********	•
学校教育に 礒田			₹ (筑波大学教育開発国際協力研 	・・・・・・・・・・・ ピセンター)	:
開発教育セ	s +				,
		/ (B /) 幸	『年海外協力協会)		
			ま十一年		
	**	(JICA国P			
帰国隊員に。	よる報告:	숲			11
右田	真樹子	(15-1,	ホンジュラス,小学校教諭)	* * * * * * * * * * * * * * * * * * * *	11
森(保	(14-1,	エルサルバドル,理数科教師)		29
永月	明子	(15-1,	パラグアイ,音楽)	• • • • • • • • • • • •	41
秋山	久美子	(14-1,	エクアドル,養護)	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	45
関野	貴之	(15-1,	バヌアツ,小学校教諭)	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	49
鳥潟	正司	(15-1,	ラオス,理数科教師)	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	57
牧野	智恵子	(15-1,	ベトナム,養護)		67
横山	かおり	(14-1,	エクアドル,小学校教諭)	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	95
五味	房子	(15-1,	南アフリカ、理数科教師)	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	105
鈴木	圭	(15-1,	エチオピア, コンピュータ技術)	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	111
複式学級と指	受業研究			• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	113
礒田	正美	(筑波大学	学教育開発国際協力研究センター)		
アーカイブ〜	への成果	登録の方法	ŧ		123
小原	豊 (3	筑波大学教	(育開発国際協力研究センター)		
アーカイブ」					127
清水	由紀(:	お茶の水女	(子大学)	••••••	127
鎌田	亮一(筑波大学教	(育開発国際協力研究センター)	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	131
小百	典 (4	始油大学数			120

ICT 能力拡充研修		141
青山和裕,茅野、公穂,宮川健		
(筑波大学教育開発国際協力研究センター)		
・スカイプ	•••••	143
・ネットミィーティング		149
ブログ		159
・ホームページ	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	167
電子掲示板		
・VTR 編集	•••••	181
資料		
速報つくば 2005 年 09 号	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	193
平成 17 年度「派遣現職教員派遣前研修」の成果と課題		195



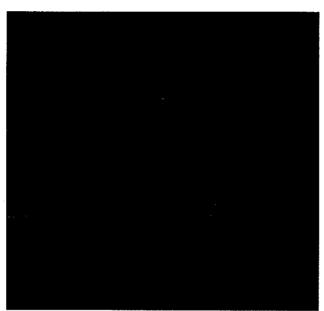
平成17年度 青年海外協力隊 現職教員特別研修

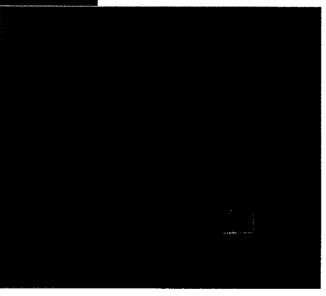
12 日(火)	於 JICA 国際協力総合研修所(国際会議場)
13:30~14:00	受付
14:00~14:20	研修開始挨拶
	(1) 文部科学省 大臣官房国際課 国際協力政策室
	(2) 青年海外協力隊事務局 国内グループ
14:20~14:30	各種連絡等
14:30~15:00	学校教育における国際理解教育
	筑波大学教育開発国際協力研究センター
15:00~15:20	休憩
15:20~17:20	開発教育セミナー
17:20~19:00	帰国隊員による報告会
19:00~20:30	懇親会

13日(水) 於 筑波大学附属学校教育局				
09:00~09:30 2 日目受付 PCセッティング等準備				
09:30~12:30 A 班 (ICT 経験者)	09:30~12:30 B 班 (ICT 未経験者)			
09:30~10:10 複式学級と授業研究	ICT能力拡充研修			
10:10~10:30 アーカイブへの成果登録の方法	09:30~09:50 *e-mail アカウント取得			
10:30~10:50 休憩	09:50~10:10 *Skype 取得			
10:50~12:30 アーカイブ上の拠点システム成果活	10:10~11:00 *NM 実施技能			
用実習	11:00~11:20 休憩			
	11:20~12:30 *簡単 HP 作成			
12:30~13:30 昼食				
13:30~17:00 A 班 (ICT 経験者)	13:30~17:00 B 班 (ICT 未経験者)			
ICT能力拡充研修 目的別研修	13:30~14:10 複式学級と授業研究			
<u>コンテンツ班</u> *HP 作成技能 (up 技能など)	14:10~14:30 アーカイブへの成果登録の方法			
*BBS 作成技能	14:30~14:50 休憩			
通信技能班 *NM 実施技能 *Skype 使用	14:50~17:00 アーカイブ上の拠点システム成果			
*VTR 編集技能	活用実習			
17:00~17:10 研修終了挨拶				

学校教育における国際理解教育

礒田 正美, 小原 豊 (筑波大学教育開発国際協力研究センター)





平成17年 4月12日 於 国総研

ì



青年海外協力隊 平成17年度1次隊 派遣前研修



国際理解教育の勧め:

現職派遣教員ならではの活躍に向けて

小原 豊(Yutaka OHARA) CRICED, University of Tsukuba



はじめに

- 派遣現職教員に期待されていること
- 国際理解教育の勧め
- インターネットライブ授業とは何か(事例1)
- 国際交流授業とは何か(事例2)
- おわりに:今日から始められること



派遣現職教員に期待されていること(1)

途上国において、言語・文化の壁等を乗り越え、教育協力を実践をすることにより 教員の質が向上し、日本の教育現場においても様々な効果が期待される。

コミュニケーション能力の向上



こう説明すれば、分かってもらえるよね!

分かりやすい授業の実施

概念化能力の 向上



じゃあ、こういう顕著にはこうにアプローテしてみたらどう?

問題解決的な

学習活動への対応

派遣現職教員に期待されていること(2)

日本の教育 の再認識



ふむ。ここは、こんなやり方でやってみようか!

他国の教育経験に照らした 日本の教育の質向上

異文化理解 の向上



油上屋では、こんな生活をしているんだよ。何ができるかな?

「内なる国際化」の実現 (数額、児童・生徒含む)

₱₩URL (http://www.mest.co.npix memuliokasas/consbib.c/c50307/41.pdf)



派遣現職教員に期待されていること(3)

〈任地での現実〉

- ●要請された内容を粛々と行っていく
- → 役務提供者としてしか活動できないのか? 現職のアドバンテージは活かせないのか?

<派遣現職教員のアドバンテージとは何か>

- ●日本での豊富で良質な教育経験
- ●経験豊かさからくるリーダーシップ
- ●日本の教育現場とのつながりをもつ



経験の共有に向けて

〈日本で準備しておくこと〉

- ●日本の文化・生活を任地に紹介できる資料収集 ⇔ eアーカイブに集積した拠点システム成果の利用
- 〈任地で準備しておくこと〉
- ●任地での文化・生活を日本に紹介できる資料収集 派遣中:日本への定期的な発信(ex. 〇×国便り)
- 帰国後:国際交流授業での利用
- ⇔ ICT能力拡充研修による情報集積・発信技能獲得



国際理解教育の勧め

<国際理解教育とは>

我が国の文化と伝統を大切にし、郷土を愛する心を培うとともに、諸外国の人々の生活や文化に対する理解を深めこれを尊重する心を養うことによって、進んで国際社会に貢献できる能力の伸長を図る教育。

- ■学校における「総合的な学習の時間」において
- ■学外における地域でのワークショップにおいて



インターネットライブ授業とは?

- ◆リアルタイムで途上国とわが国の教室の子どもたちの 対話の実現を通して鮮明な異文化体験の機会をつくり 出す授業。
- ◆派遣現職教員の蓄えた経験、培った語学力、得た教訓 をもってはじめて実現できる。



インターネットライブ授業の特徴

- ◆世界の学校の様子をパソコンとインターネットを使用して 同学年の児童・生徒が対話できる。
- ◆同年齢の外国人との出会いを face to face の コミュニケーションで楽しむことができる。
- ◆例えば、お互いの国のどんなことに興味があるのか、 どんな夢をもっているのかなどを子どもたちが伝え合う ことによって、グローバルな視野をもつ機会が提供できる。



長野県小諸市ーカンボジア・ バッタンバン州 インターネットライブ授業(1)











長野県小諸市ーカンボジア・ バッタンバン州 インターネットライブ授業(2)





授業者:14年度カンボジア派遣 小諸市立美南が丘小学校教諭・中山晴美先生 15年度カンボジア派遣 ワットカンペイン小学校・阿部康裕先生

#MURL (http://www.criced.isukuba.ac.ip/jocy/interpetlive.html)



ライブ授業の問題点

- ◆任地の情報利用環境が必要なこと (JICA Net など JOCV事務局による協力)
- ◆勤務校との調整、必要な機材調達とセッティング (筑波大学CRICEDによる全面パックアップ)
- ◆ライブで進めるのなら、日本と派遣国の時差が 前後5時間くらいがリミットとなる。
- ⇔ 映像を web上にVTRを保存して、授業時間に 視聴する形でのコミュニケーションも可能。



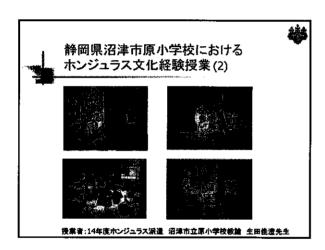
国際交流授業とは何か?

- ◆青年海外協力隊OVや派遣国関係者を招いて懇談の 形で異文化交流を進める授業(主として帰国後の活動)。
- ◆近接の大学や研究機関、あるいは高等学校などで 交換留学生として学んでいる学生や協力隊OVが、 希望校を訪問し、自国(派遣国)紹介のプレゼンなど の形で授業に参加する。
- ◆web上でのやりとりではなく、人間対人間の生身の 国際交流が実現できる。



静岡県沼津市原小学校における ホンジュラス文化経験授業(1)

- ◆ホンジュラス国立演劇学校長 文化庁招聘研究生 Jose Luis Recinos氏を招いての異文化交流
- ◆外国との比較の視点を取り入れた地域学習 合言葉「私たちのふるさと 原 のよさをみつけよう」
- ◆帰国隊員による通訳と意思疎通に欠かせない配慮
- 参照URL(http://www.criced.tsukuba.ac.m/jocy/project/ikuta.pdf)







おわりに:今日から始められること

- ◆ 学校現場(自分の勤務先)との連携を強化すること
- ◆ eアーカイブを通して必要な情報を獲得すること
- ◆ 情報収集・加工・発信に必要なICT技術を習得すること



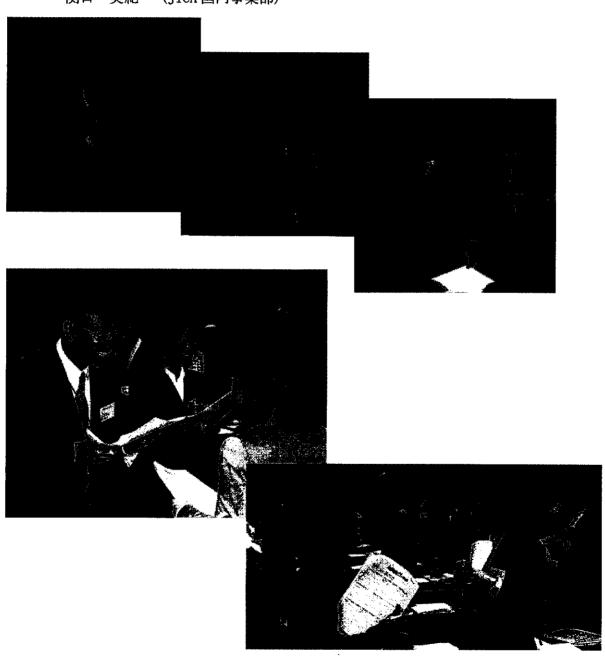
おわりに

1年9ヶ月間の派遣期間を得て、 更にプロフェッショナルになられた先生方が 日本と途上国の教育現場を 広い視野から架橋して下さることを 心より期待しています。

開発教育セミナー

土橋 ((財)青年海外協力協会) ((特活)開発教育協会) (JICA 国内事業部) 中村 絵乃

関口 美紀



開発教育とは

1)開発教育という名称

Development Education

(De - envelop) (封を開いて中身を取り出す)

2)始まりと展開

1960年代~ ヨーロッパの開発NGOから始まる

1970年代~ 世界の相互依存関係、格差の構造

1980年代~ 日本での展開「国際協力教育」

1990年代~ 「開発」のありかたを考える教育活動

3)ねらい 「共に生きることのできる公正な社会」をつくること

●学習理念

- 1) 競争の原理から「共生の教育原理」へ
- 2) 異文化理解から 「多文化共生(地域や国内での共生)」へ
- 3) 情緒的理解から 「共感的理解と構造的理解」へ
- 4) 現状維持から 「自己・社会変革」へ

c.f.「ユネスコ国際勧告(1974)」「平和の文化を築くこと」をめざし、地球的諸問題に焦点を当てている

4)学習目標

- ・多様性の尊重 (人権を尊重し、さまざまな文化・生活から学ぶ)
- ・開発問題の原因と構造(国内外の格差や貧困の現状とその背景を学ぶ)
- ・地球的諸課題の関連性(環境・人権・平和などの関係性を学ぶ)
- ・世界と私たちとのつながり(衣・食・住など身近なところからつながりに気づく)
- ・私たちのとりくみ(足元からできることを考える)

5)学習方法・プロセス(参加型学習)

- ・知る→考える→行動する(問題発見・解決型)
- ・社会参加のための参加型学習
- ・方法はメッセージを持つ

6)開発教育協会(DEAR)の活動

- ・ ネットワーク組織
- ・ 全国の担い手を支援
- 政策提言
- · 情報収集・発信
- 調査研究

■参考文献:

『開発教育ってなあに?開発教育Q&A集 (改訂版)』(DEAR、2004) 『開発教育実践ハンドブック』(DEAR、2003)

■ (特活)開発教育協会

〒112-0002 東京都文京区小石川 2-17-41-3F TEL: 03-5844-3630 FAX: 03-3818-5940

Email:main@dear.or.jp web:http://www.dear.or.jp

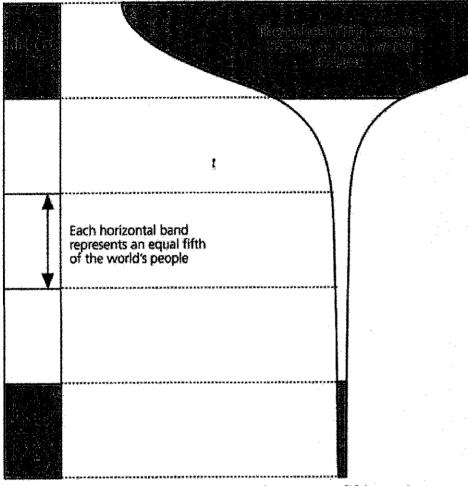


質問しよう!

- ■下の問いを、すべて違う人に聞いてみてください。
- ■答えてくれた人の名前と、答えを書いて下さい。

·	②日本で話されている日本語以	③熱帯雨林から来ているもの
物	外の言語	
【答え】	【答え】	【答え】
	, 	
		!
	名前:	<u> </u>
④海外で活動するNGO	⑤最近あったうれしかったこと	⑥あなたが大好きな外国の料理
【答え】	【答え】	【答え】
		 A7 = 11 .
名前:	名前:	名前:
⑦あなたが着ている日本製でな	8最近新聞やテレビで気になって	②アフリカ出身の有名な人
いもの	いるニュース	(a) 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
ひらの 【答え】	【答え】	【答え】
La.C.		
 名前:	 <u>名前:</u>	 <u>名前:</u>
HELL		

Distribution of income

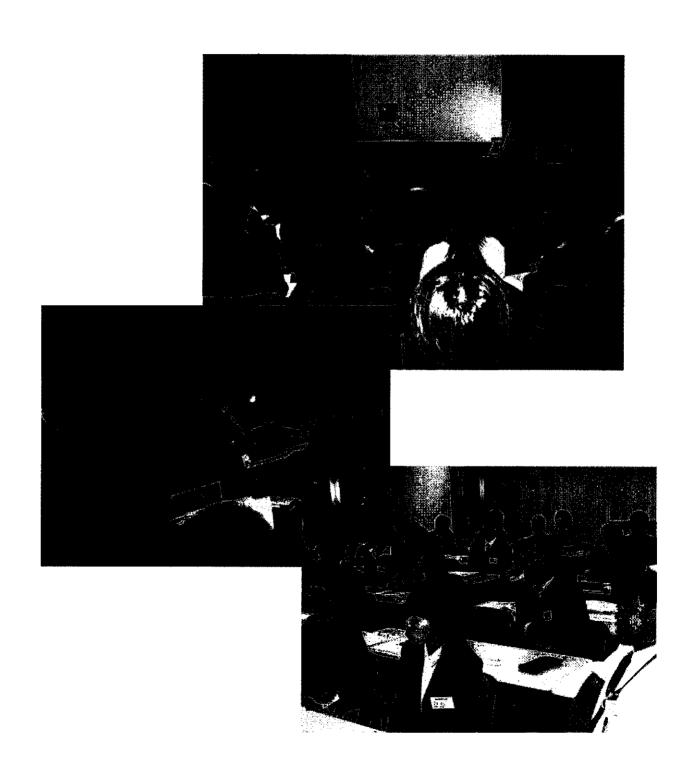


The poorest fifth receives 1.4% of total world income

The cover design shows the global distribution of income. Therichest 20% of the world's population receives 82.7% of the total world income while the poorest 20% receives only 1.4%. Global economic growth rarely filters down. The global income distribution by quintile is as follows:

World population	World income
Richest 20%	82.7%
Second 20%	11.7%
Third 20%	2.3%
Fourth 20%	1.9%
Poorest 20%	1.4%

帰国隊員報告会



ホンジュラス PROMETAM (算数指導力向上プロジェクト) 隊員活動報告

平成 15 年度 1 次隊 ホンジュラス 小学校教諭 右 田 真 樹 子



ホンジュラス PROMETAM (算数指導力向上プロジェクト) 隊員活動報告

右田 真樹子 (ホンジュラス)

Į

写真 0. PROMETAM (算数指導力向上プロジェクト) 宣伝用看板

ホンジュラスでは現在、義務教育での留年・退学率の多さ=国の教育力の低さが国家的な課題となっている(特に、算数・国語=スペイン語での留年率が多い)。現在、教育省が大きな教育改革に取り組んでいるが、算数分野においては、13年以上前から行っている協力活動が認められ、JICAに任された。PROMETAMでは、現職教員の算数指導技術を向上させることを目的として、専門家と隊員が互いに連携・協力しながら活動している。

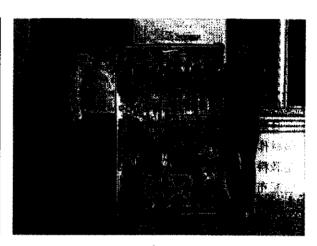


写真0

写真1. 配属先:INICE (ホンジュラス国立 教育研究所)

日本の援助で建てられた、教職員の研修施設。 PROMETAM 本部が置かれている。隊員の配 属先となっているが、実際には各地域の教育 委員会に所属(出向する形)なので、首都で 講習会の事前・事後の会議がある時や、専門 家による中核講師講習会等が行われる際に出 かけていったり、授業や教材のヒントとなる 資料・本などを探しに行ったりするのが中心。 (普段の本部とのやりとりはメールが主。)



写真1

写真 2. PROMETAM 感謝会

専門家・シニア隊員・隊員・現地スタッフ・ JICA 関係職員など、PROMETAM が沢山の 人たちの協力で成り立っていることが分かる 一枚。

写真2

写真3. 教師用指導書

日本の教科書の『赤刷り』をイメージして、 教材作成部が作成した物。ホンジュラスの国 定教科書に指定され、今年(2005年)中に全 国配布される予定。隊員が行う講習会では、 このテキストで扱う指導法の意味や効果,指 導の実際や指導時のポイントなど、ホンジュ ラスの先生方の指導技術向上を目指した授業 を行う。(実際のところ、それ以前の知識面の 補完も重要な内容となっているが。)



写真3

写真4. 受講生卒業式(短大課程)

受講生は現職の教員。旧制度下では高校卒業で教員免許が取得できたため、教育制度で、大学を卒業しないと免許が取力にで、大学を卒業しないと免許が導力になったのに伴い、現職教員が行われて、現職教員が行われて、現職教員が行われて、現職教員が行われて、現職教員が行われて、現職教員が行われて、現職教員が行われて、日本の研修は単位制になって、当年生業には、大学教授として『算教科教育法』の講習を終了する。講習を終了すると、受講とのできないる。講習を終了することで、受講生のも高い。

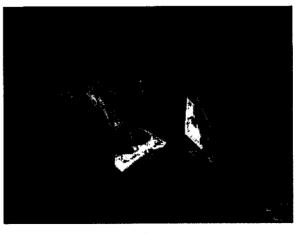


写真4

写真 5. オコテペケ地区、受講生 (1クラス、 30名弱)

隊員より年上のベテラン先生も沢山いる。 が、算数の知識・指導技術については 知らないことも多いため、何を分かっていて、 何を分かっていないかレディネスをとらえ て、彼らのニーズに合った授業内容・展開で 講習をしていくことが大切。

Ī



写真5

写真6~7.授業風景

みんな真剣に学んでいます。



写真6



写真 7

写真8~9. 休み時間風景

疑問点について、休み時間に質問に来る熱 心な先生も。

オコテペケ地区はエル・サルバドルに近い 山がちな地域で、人々の気質もカリブ海に近 い人たちとはまた異なり、どちらかといえば おとなしく、勤勉なのが特徴です。講習会で もその様子をうかがい知ることができる。





写真8

写真9

写真 10~12. 授業風景

わり算の筆算法は今までのやり方から日本と同じやり方に変わった(指導要領の改訂に伴い) ため、受講生の先生達自身が沢山問題を解いて馴れることが大切。新しいやり方を導入する際 には、『日本式』『ホンジュラスのやり方には合わない』といって抵抗感を示す先生もちらほら いたが、『子ども達がわかりやすく勉強するためにこのやり方をホンジュラスの教育省が選ん だ』ということや、そのやり方の良い点を実感として理解してもらえるよう留意して指導した。 平面・立体図形は、子どもの頃にきちんと習っていない先生方が多く、苦手な人が多いため、 特徴に基づいて仲間分けをする活動や、模型を作る活動などを通して、実際に体験しながら学 ぶことが大切。

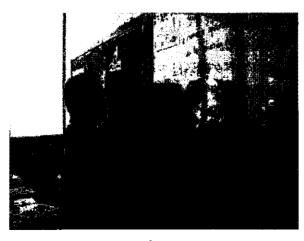


写真 10

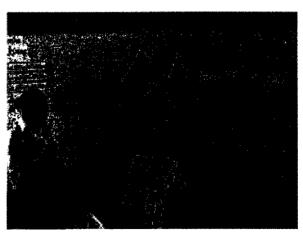


写真 11



写真 13

写真 13~14. グループワーク風景

ホンジュラスの授業を見ていると、一斉授業で暗記すべきことを繰り返し唱えていたり、子ども一人ひとりに問題を解く時間を与えずに、先生やできる児童が応えるのをただ聞いているだけ・・・というような様子(問題解決に対して教え込み、というべきか?!) も時々目する。これは先生たち自身が算数の理論や問題解決学習の大切さを学んできておらず、グループ学習の経験もないからである。そこで、問題解決や模擬授業の準備の場面で、グループの中で一緒に考えたり、教え合ったりする機会を設け、先生たち自身にグループ学習の手法や効果について経験してもらうことも取り入れている。



写真 13



写真 14

写真 15. 講義後・・・評価

講義が終わってほっとするのもつかの間。 大学の授業として講義を行っているため、単位認定のための評価をすることも要求される。最終試験や小テストだけでなく、授業への参加意欲・態度や『板書したことがノートにきちんと書かれているか』(ノート指導の習慣を彼らにつけて欲しいため)なども評価項目に入れているので、講義後も宿題やノートのチェックに忙しい。



写真 15

写真 16~18. 受講生のノート

ホンジュラスでは、子どもたちが授業でつまづいたときに参考にしたり、その日に学んだことの要点を最後に振り返ったりできるような板書の工夫やノート指導をきちんと行っている先生はごくまれである。とても大切なこの指導技術を受講生にも意識して、身につけて欲しいと言うことから、講習会では板書をノートに必ず写すように指導している。(欲を言えば、ただ写すのではなく、ポイントには自分の言葉で注意書きを入れたり、自分に必要なことを書き足したりできるようになって欲しいのだが、それはまた一つ上の段階になるので将来的にということで・・・)はじめは板書を"丸ごと"ノートに写す習慣のなかった先生たちだが、馴れて来るにつれて、丁寧な字で、美しくノートを写せるようになってきた。

数式の意味を図で示すことが子どもの理解を助けるということや、自分の間違いを消してごまかしてしまうのではなく、間違いに×を付けて残し、横に改めてもう一度解きなおしたり正しい答えを書いたりして、『なぜ間違えたのか』『二度と間違えないようにするにはどうしたらよいか』ということを振り返ることがいかに大切かを学んで欲しいと思いながら、ノート指導をしていた。

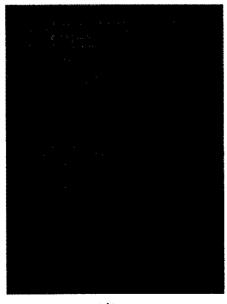


写真 16

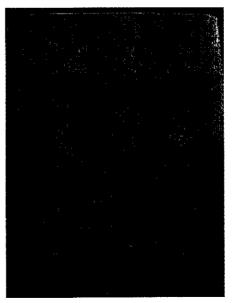


写真 17

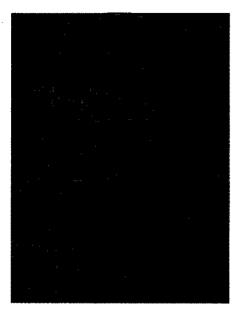


写真 18

写真 19~21. 教材の実際の使用法

指導書には、子どもの理解を助けるための道具として様々な教材が登場する。

講習会では、宿題などでこれらを作成するとともに、使用する際の留意点やその効果的な使用法について、私達講師が使用して講義をすることで理解してもらったり、受講生に模擬授業で使用してもらってから、講師がアドバイスをしたりといった方法で教えていった。教材は、その地域で簡単に(安価で)手に入る物を使い、少し加工することでなるべく長く使ったり、作り足すことによって単元や学年をまたがって流用したりすることができるよう、色や形もよく考え、工夫して作ると良い。(あまり懲りすぎるよりも、シンプルで使い回しがきくものが便利である。また、地域に親しまれている物を題材にすると、先生にも子どもにも受けがよく、楽しく勉強してもらえる。)使用法や効果的な見せ方については、講習会前に同じ任地の隊員間でリハーサルをして研究することも。

写真 19

・数直線

整数・小数で使用。目盛りの大きさや範囲により、3種類くらい用意。

・位取り表

タイルとも数カードとも使え、水性ペンで書き込んだ後消したり、一度貼ったテープをはがしたりしやすいよう、透明テープでカバーしてある。これは一桁ずつ増やせるよう別々になっているが、2桁、3桁がくっついている物もある。



写真 19

写真 20

・具体物・・・果物など

マンゴは地域でよく食べる。裏返すとオレンジ色で、いろいろな文章題に使えて便利。先生たちには大受けだった。10の合成分解の学習にも使える。これも両面透明テープでカバーしてある。

・スマイリー (パックマン?!)

もともとは、等号・不等号の記号の意味 を覚えてもらうための教材として作った物 (多い方に口を開く)だが、ひきざんの文 章題でも活躍。



写真 20

写真 21

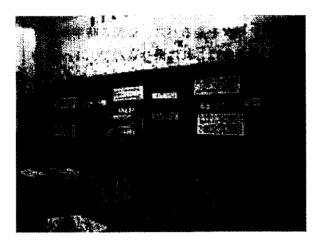
- 時計
- ・時間の数直線

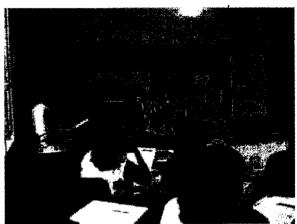
『時刻』と『時間』をしっかり区別して教えられていないため(子どもの頃に)、先生方自身がごちゃ混ぜにして子どもたちに教えてしまっているので、『点』と『線・もしくは面(つながりのあるもの)』ということで視覚的にとらえて、はっきりと区別して教えられるように教材を工夫して作った。時計が家庭にない児童も多く、分数との絡みも出てくるので、混乱する子どもたちが多い単元だと思われる。視覚に訴える教材の有効性が際立つ単元。



写真 21

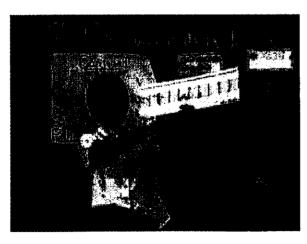
ダンリ事前研修会の様子

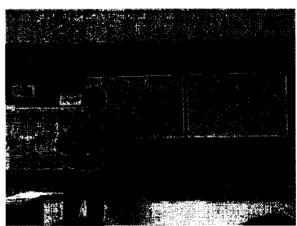












PROMETAM 隊員の主な活動は、次の二つ。

- 1. 大学の授業として『算数科教育法』の講 義をする
- 2. 受講生の学校を訪問し、実際の授業を見て助言・評価をする

そのなかの2つめの授業観察活動での写真が、以下の写真です。

写真1,2

オコテペケを走るバス。毎朝5時半から6時頃、先生方はこれに乗り込んで、1~2時間揺られて山奥の学校まで出かけて行く。



写真1

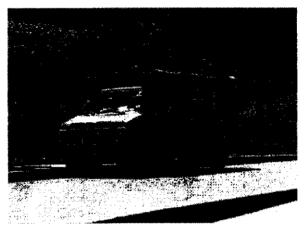
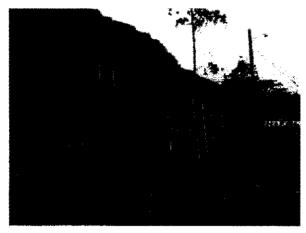


写真2

写真3~12

一般的な学校の校舎と教室の様子。ここは中学も併設している大きな学校だが、校舎が古く、 4の教室は明かりとりの窓がないためとても暗い。

6は職員室のはずだが、部屋が足りず、整理整頓もしていないため、すっかり倉庫になってしまっている。8,10はFHISという建造物建築のプロジェクトによって建てられた校舎。9は幼稚園教諭をしている受講生の教室の掲示物。11左奥はトイレ、手前は『ピラ』と呼ばれる洗濯板付きの水場。12は、教室が足りず、校庭前のステージで学習している様子



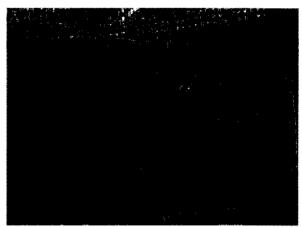


写真3 写真4







写真 6



写真 7

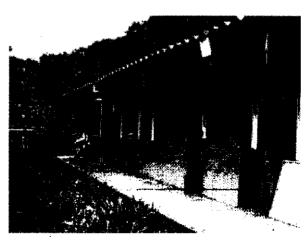


写真 8



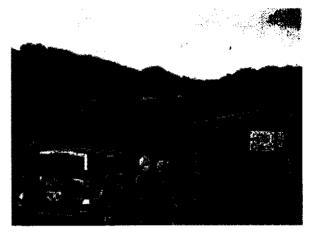
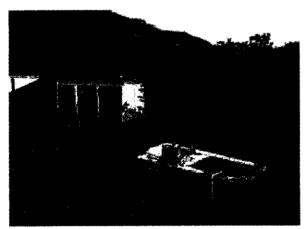


写真9

写真 10





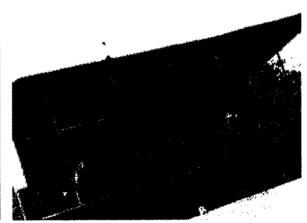


写真 12

写真 13~16

メリエンダ (おやつ) と呼ばれる、日本で言う給食 (配給?!) のための物資と、それを配る先生や保護者。世界各国からの支援で送られた食材を、各家庭が持ち回りで調理して、メリエンダの時間 (学校によるが、だいたい 10 時から 11 時ぐらいの間) に学校まで届ける。お皿やコップは児童が各自で用意してくるが、時々自分で用意できない子もいる。朝ご飯を食べる習慣がなく、食料も栄養も不足しがちな山間部や地方の学校の子どもたちには欠かせない、大切な食事。だが、地域の協力が得られず打ち切りになってしまう学校もあるそうだ。オコテペケでは都心部の一部の学校 (裕福な子どもが多く、必要性が薄い) をのぞき、県内の 98%の学校で実施されている。



写真 13

写真 14



写真 15



写真 16



学校の始まりと終わりの時間にしかバスが 通らないという地域が多く、帰りは長い距離 を歩いて大通りまで山を下ることも。また、 吊り橋を渡らないとたどり着けない学校もあ る。



写真 17



写真 18

写真 19~20

山の上にポツンと立っている民家、この一室を借りて、学校として授業が行われている。この学校には、PROMETAM の前進となる算数プロジェクトで、地元に密着し地域の人々とともに熱心に協力活動を行った一人の元協力隊員の名前が付けられている。この学校ができたおかげで、この子どもたちははるばる山をふもとまで降りて、帰りは登って(片道1時間以上?!)という労力や危険をおかさずに学校へ通えるようになった。



写真 19



写真 20

写真 21

のどかな風景。車道を堂々と牛が通っていく。 バスは牛がどいてくれるのを待つのみ。

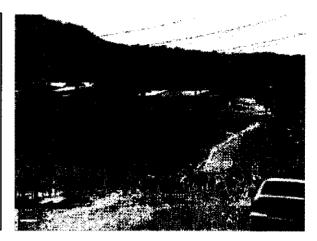


写真 21

写真 22~26

受講生が講習会の中で作った教材の数々。

22: チャパス (瓶やペットボトルの蓋)

具体物を数えたり、まとまりにするのに利用。からの数図カードとともに、10の合成・分解の学習に使うのも効果的。

23: 九九表、時計模型、さいころ、計算カー ドなど、いろいろな教材がまとめておいて ある"算数コーナー"

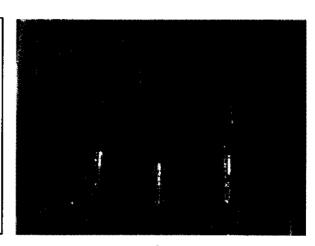


写真 22



写真 23

24:パヒーヤス (ストロー/数え棒として使用) 数図カード (2という記号と、具体物の個数と、『に』という名前を統合させて覚えるためのカード)

位取り表ならぬ、位取りの箱(9までしか入らず、10集まると次の箱へ・・・という十進法を視覚的に見せるという点では表と同じ。個人的には、彼らの使い方を見ていると、具体物の操作や見せ方が難しいように思えるが・・・。)



写真 24

25: 上皿てんびん

重さの学習で使用するために作成された 物。身辺材をうまく使っている。

26: 立体模型

角錐や円錐、角柱、円柱など、町の大工 さんに頼んで作ってもらったそう。

棚の下に写っているのが古い国定教科

書。



写真 25



写真 26

写真 27~29

古い国定教科書で使っていたかけ算筆算の手順。教科書ではきちんと位がそろえて書かれているが、教室では位がずれるがために不正確になることが多かった(教師が位をそろえるということに留意して指導していなかったこともあるが、そう指導してもどうしてもずらして書いてしまう児童もいた)ため、指導要領改訂に伴って日本と同じやり方が採用された。



写真 27

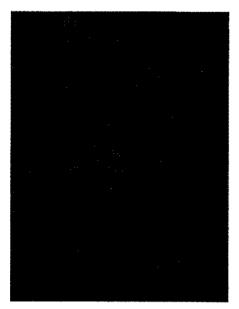


写真 28



写真 29

写真 30

古い国定教科書で使っていたわり算の筆算の手順。日本も昔、このやり方を採用していた時代もあったとか。このやり方だと、わりきれずに商が小数まで続いた場合に、計算の補助として割られる数に0を書き加えると、元々書いてあったる数と重なってしまったり、小数のわり算のときの商やあまりの小数点の位置がわかりづらくなったりするため、同じく指導要領改訂に伴って日本と同じやり方が採用された。

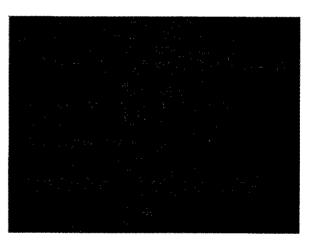
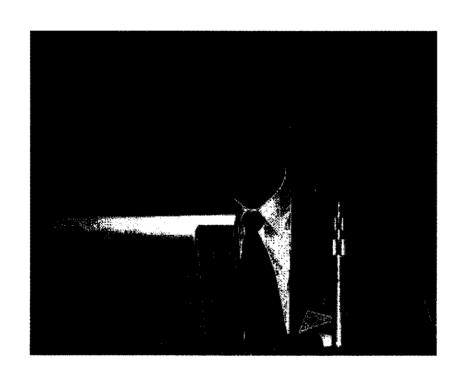


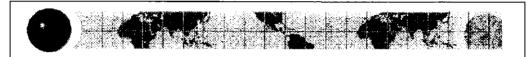
写真 30

エルサルバドル共和国での教育活動とその課題

平成 14 年度 1 次隊 エルサルバドル 理数科教師 森 保

£



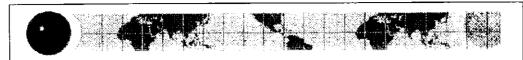


出発以前に心配に思っていたこと

- ・語学(スペイン語で授業など出来るのか?)
- ・任国の学校のレベルはどの程度なのか?
- 何が必要なのだろうか?
- ・人間関係は大丈夫?(現地の人と隊員と)

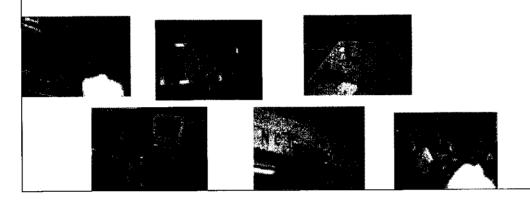
出発以前に漠然と不安に思っていたことはたくさんありました。その中でも仕事に関わることでこんな事(画面上の4項目)を心配していました。 結局は何とかなるのですが、出来るだけ良いスタートをきって、充実した活動をやれる準備だけはしておくべきだと思います。

現職で参加される人にとって大変有利なのは現場で行う授業は勿論ですが、それ以上の学校運営上の雑用のような仕事を何でもこなしてこられていると言うことです。たとえば駒ヶ根に来て、毎日自分の事だけを考えて、自分の為だけの勉強をすればよいこの環境をとても幸せだと感じられているはずです。ところが、新卒やあまり働いたことのない候補生は規則が厳しいだの忙しいだのと愚痴を言っているはずです。任国へいってからも同様で、仕事が生徒や先生に教えることだけに絞られるので、中身は大変なのですが、日本で多くの種類の雑務に追われている先生稼業から考えれば天国のようなものなのです。でも、他の経験の浅い隊員にはそれが理解できずに不平ばかりということになったりするようです。



語学(スペイン語で授業など出来るのか?)

- ・3ヶ月から6ヶ月で耳が慣れて日常生活には困らない
- ・授業に関しては追いつけない部分は視覚に訴える。



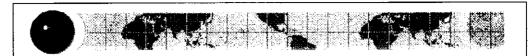
語学については英語圏以外の人は始めはとにかく苦労します。スーパーの買い物でもレジで聞かれるネセシータエルチケットオラファクツーラが聞き取れませんでした。20代の人は3ヶ月くらいで、それ以上の人は半年ぐらいで耳が慣れて聞き取れるようになります。聞き取れるようになるとある程度の会話が出来るようになり、日常生活には不自由しません。しかし、仕事となると、専門用語もありますし、独特の言い回しも必要になって、なかなか指導をするとか授業をスムーズにやるとかは難しいものがあります。そこで、何らかの工夫が必要になります。語学の勉強はとにかくある程度出来るようになっても地道に文法書など読むことを続けていくべきですし、さらに仕事の上での工夫が必要です。私の場合は視覚に訴えるようにすると言うのを一つのテーマにして乗り越えました。実験道具を作る、コンピュータとプロジェクターを買って貰って、視聴覚教材を充実させる等を行いました。これは私だけではなくアフリカの隊員でも似たようなことをやっている人がいたようで、金子局長がプロジェクターを使った授業は言葉のハンデのある隊員達には有効な手段だと何かの報告で書いてあるのを読みました。



任国の学校のレベルはどの程度なのか?

- ・前任者および同国隊員の報告書を読む
- ・インターネットで調べる。 http://uk.dir.yahoo.com/Regional/Countries/
- 目指しているものは日本とあまり変わらない。

任国のレベルがどの程度なのか、あまりに低いのか、逆に私の能力では先生達に教えることなど何もないかもしれないと心配に思ったりもしました。皆さんもすでに読まれたと思いますが、報告書を前任者のものはもちろん、同国、または隣国の同職種のものについても読む必要があると思いました。漠然とどの程度かつかめると思います。後、インターネットでもある程度調べることは可能ですが、現地の現地の言葉による教育精度などのHPは語学が出来るようになってからでないと完全理解は難しいものだと思います。相対的に言えるのはめざしているレベルは日本と変わらないと言うことです。なぜなら、そのカリキュラムは結局はどこかの先進国のものを取り入れたものがほとんどだからです。ただ、その途中の方法論として、算数の能力が欠けているとか、教え方を知らないとか、お金がなから教材が買えないとかがあるだけで、日本の先生達と変わらないと思います。日本の先生や生徒でもいろんなレベルの人がいるのと同じだと思います。



何が必要なのだろうか?

- ・コンピュータ(情報収集には欠かせない)
- ・参考書・問題集(持てるだけ持って行く)
- ・今学校で使っているプリントやテキスト
- ・日本学校の全ての写真、授業の動画







パソコンとデジカメは必需品です。大概の首都はパソコンを売っているので、 日本から持って行く必要は無いかもしれませんが、高性能なものを必要とする場合やノートパソコンは日本から持っていった方が良いと思います。ノートパソコンを日本から持って行きましたが、働きはじめて持ち運びが嫌だったので、職場用に1台デスクトップを現地で買いました。また理科の実験室用には事務所に買って貰いました。つまり合計3台のパソコンを使い分けていました。今は全世界的にインターネット環境が整っているので、メールのやり取りHPからのデータ等のダウンロードも支障なくできるはずです。

参考書や問題集は出来るだけ持って行った方が良いと思います。迷ったものは配達できるように準備だけして、誰かにあずけておくと良いと思います。現地で必要だと思ったときにすぐに送って貰えるようにしておくべきです。一つ下のものも用意しておく、高校ならば中学の資料、中学ならば小学校、小学校ならば幼稚園という風にです。前の段階から欠けていることがあるので、基礎からやり直させるために必要になります。

日本の学校で普段使っているテキストやプリント、特に自作のものが大変役に 立つと思います。自作のものであれば、日本語の部分を簡単に翻訳してそのま ま使えますし、手慣れたものほど現地の人にも説明しやすいものです。

後、現地の先生は勿論生徒にも日本の学校を理解してもらえる資料は重要です。後から同僚に送ってもらうことも可能ですが、出来れば自分で準備して、自分で持って行くのがよいと思います。授業風景や学校の様子、学校行事の様子などの写真が良いと思います。



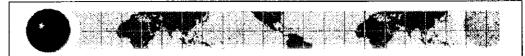
人間関係は大丈夫?(現地の人と隊員と)

- ・日本の職場と同じである。
- ・隊員とは適度な距離が大事
- ・事務所との関係は良好に

今人間関係が良好で働けている人は現地に行っても問題ないと思います。逆に日本の学校で人間関係が難しくてと言う人はやっぱりどの国に行っても同じだと思います。日本の学校社会と同じように働き者もいれば人に仕事を押しつける人もいます。そういう人たちとどうやって付き合っていくかは日本の時と全く同じだなと思いましたので、現職の皆さんは心配することなく日本での時と同じようにやっていけばいいと思います。

隊員どうしとのつきあいはとても楽しいので、仕事や語学の上達に支障をきた さないように自分でブレーキをかけて、ある程度距離を置くようにしました。

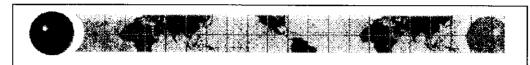
事務所との関係、特に調整員との関係は大事だと思います。はっきり言うと社会経験や仕事を進めていく手だては現職教員の方がよくわかっている場合があると思います(調整員は日本でちゃんと働いた経験をあまり持たない人が多いようです)。調整員の仕事は担任の仕事と同じようなもので、生徒である隊員の面倒も見つつその他の雑事にも追われるという状況です。教員から見ると優先すべきごとが違うんじゃないと思うこともありますが、でも、そこはぐっとこらえて、あくまで協調路線で、援助を引き出すようにすべきです。



活動報告

- ・国立技術工業高校での活動
- ・学校外での活動
- ・私生活上での活動
- ・旅行

では、実際にやってきた活動を画面のように3つに分けて報告します。



国立技術工業高校

生徒1200名 職員100名 教養科、機械科、自動車科、電気科、電子科 首都サンサル中心地近く





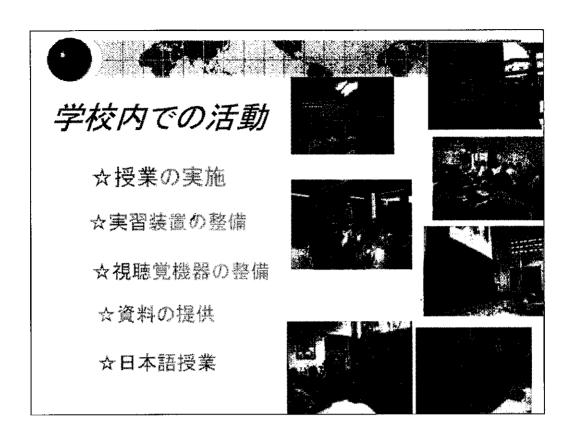




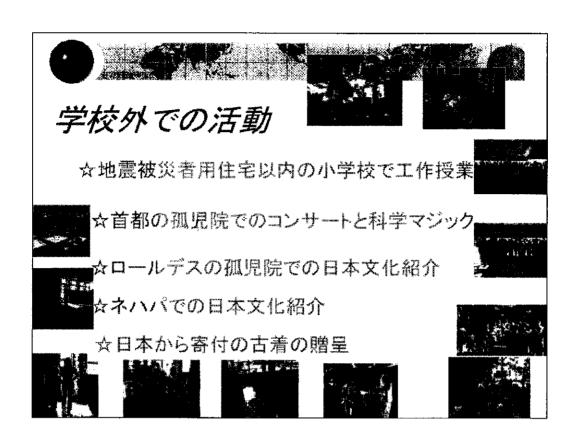




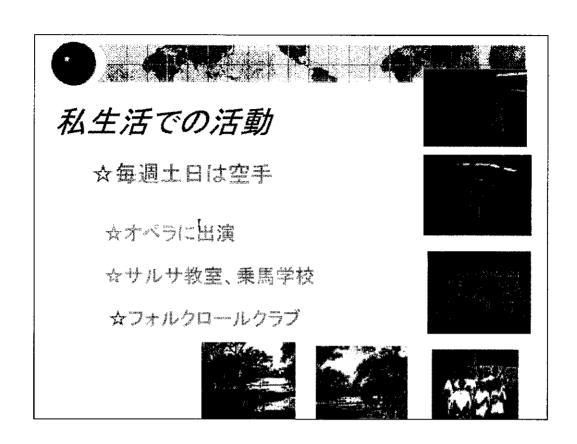
職場は首都の中心にあるこの国の国立高校のなかでは一番優秀だと先生も生徒も自信を持って言ってる高校でした。4つの科からなり、職業教育に力を入れていましたが、2~3割の生徒は大学にも進学していました。ワニがシンボルで実施にもワニを飼っていました。



学校内での活動は画面の5つの項目です。授業は理科の実験実習を行いました。理科の実習担当の先生、理科の座学の先生、そして私の3人で行っていました。その授業為の装置の整備や、前にも述べた視聴覚機器の充実に努めました。また、理科写真ニュースを日本から取り寄せて、それを翻訳して、理科実験室の前に掲示したり、日本の実験書を翻訳して資料の提供をしました。土曜の午前中日本語の授業を希望者に行ったりもしました。



学校外では震災者の小学校や孤児院の慰問に行ったり、各地で日本文化紹介を行ったりしました。日本の学校に頼んで、古着を送ってもらい孤児院に寄付したりしました。



プライベートでは空手を毎週土日に習いに行ったり、平日の昼休みに学校のフォルクローレクラブと一緒に活動して、笛を習ったりしていました。



長期の休みなどはなるべく各地を見て歩くようにしていました。また学校の試験期間などは学校の先生達にあちこち連れて行ったりもしました。

現職教員の皆さんへ・パラグアイの様子

平成 15 年度 1 次隊 パラグアイ 音楽 永 月 明 子

Ŷ



現職教員の皆さんへ パラグアイの様子

永月 明子 (パラグアイ)

1



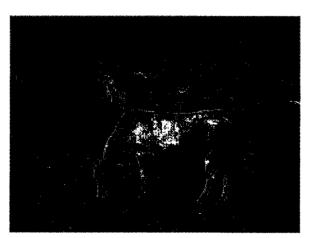
アサード (焼き肉)



時期になるとひきがえるがたくさん出没



人々はのんびりしている



道ばたには牛



任地コロネルボガード



浴衣を着てはしゃぐ音楽仲間



カウンターパートと合唱の授業



私の紹介したカードを使ってカウンターパートが授業



自分のトランペットを生徒に紹介



先生のための音楽教授法講座



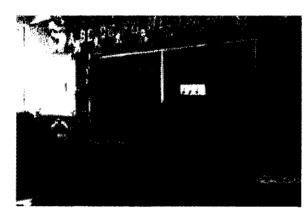
日本から贈られてきた楽器とともに・6年生



日本へのお礼の手紙



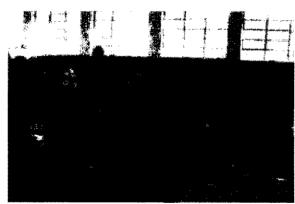
お礼の手紙をもらって喜ぶ5年生



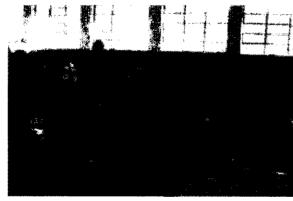
小学校1年の音楽授業の様子(VTR)



クリスマスコンサートに呼ばれてソロを歌った(VTR)



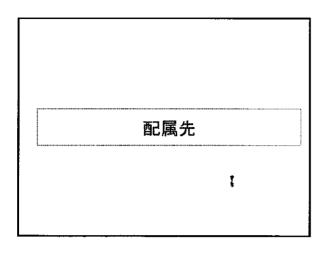
合唱団を作った/合唱団の練習/合唱団本番(VTR)



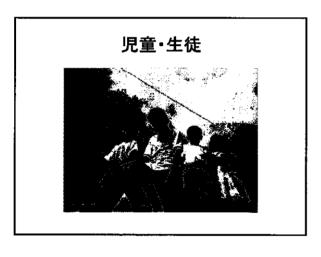
他国における障害児指導の一面より

平成14年度1次隊 エクアドル 養護 秋 山 久 美 子

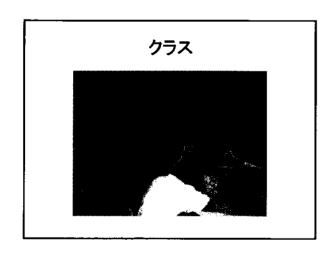


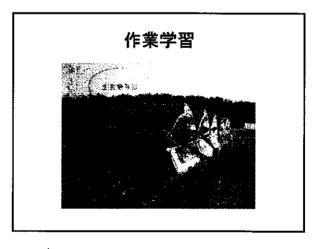


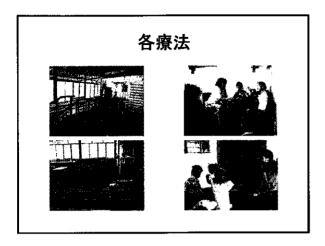




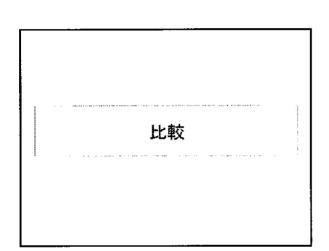


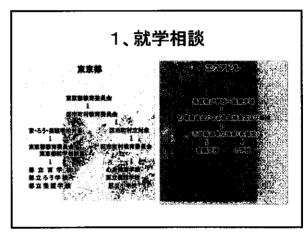


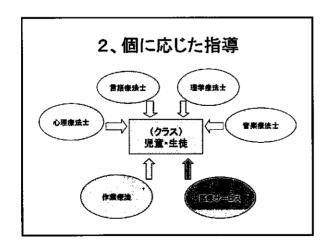


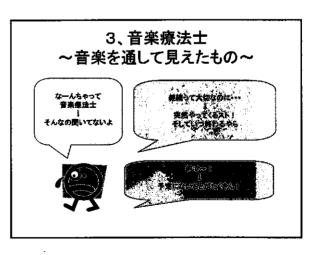












音感を育てよう! 111







日本の学校で

・朝の詩の斉唱 エスクエラ バルドルフ の実際から 母説添って美しい!!

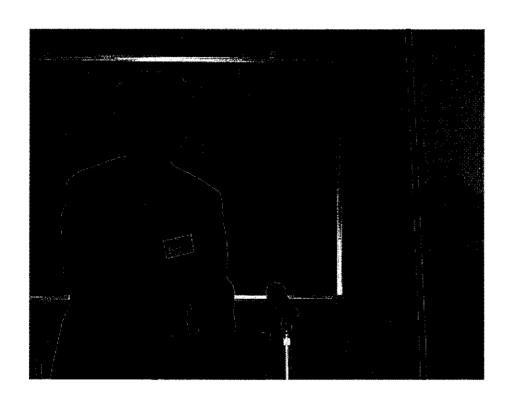
・質の高い声かけ T-TUN-EC、単いとC 単純的な常珠と開始的な情味・・

***異文化体験** %-18-66 かった は異味がいっぱい! *

協力隊に参加して

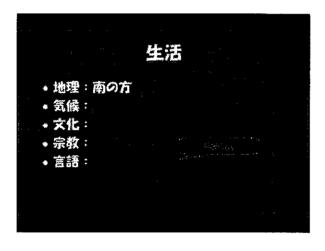
平成 15 年度 1 次隊 バヌアツ 小学校教諭 関 野 貴 之

Ŷ

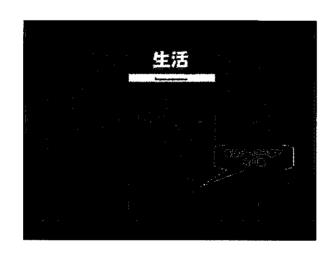




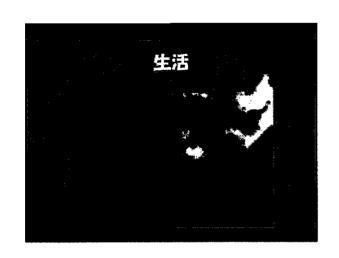


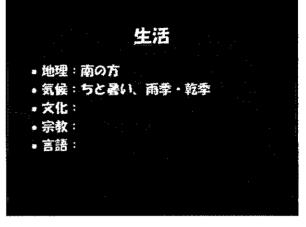




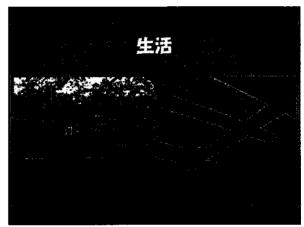












生活

・地理:南の方

• 気候: ちと暑い、雨季・乾季

• 文化: イギリス・フランス共同領地

• 宗教:キリスト教

• 言語:英語、フランス語、ビスラマ語

現地語

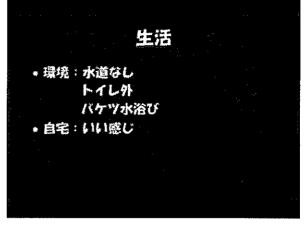
生活

• 環境: 水道なし

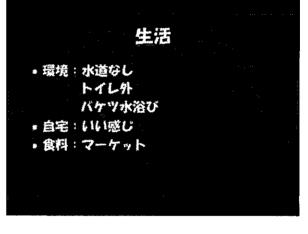
トイレ外

バケツ水浴び





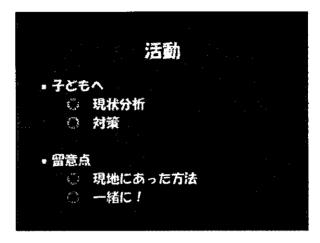


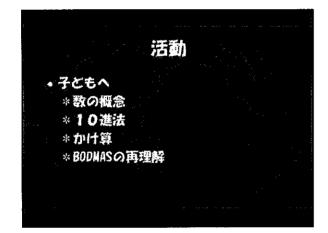




生活
・環境:水道なし
トイレ外
バケツ水浴び
・自宅:いい感じ
・食料:マーケット
・病気:たくさん

活動 ・子どもへ ・教師へ ・全国へ







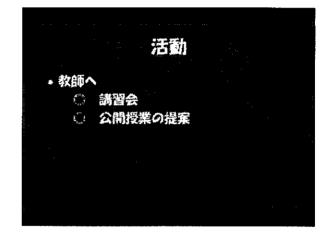


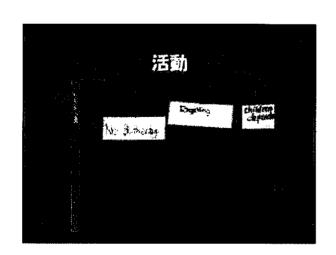


活動 ・子どもへ *数の概念 * 1 0 進法 * かけ算 * BODMASの再理解

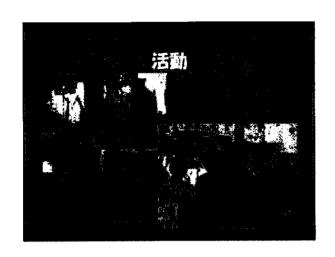


活動		
Bracket	()	
Of	Qf	
Division		
Multiplication	×	
Addition	+	
Subtraction	-	
8-6+2=		

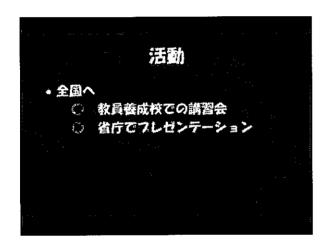
















活動・課題 ■ 技術移転 ⇒ 続く活動を目指して ● 任期を考えて ⇒ 思ったよりも短い ● 引継ぎ ⇒ 点でなく、線で

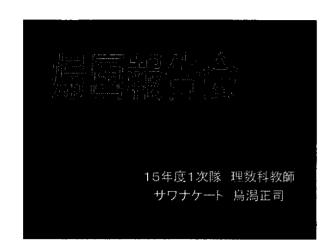
みなさんへ しゃべりまくれ! ・訓練所: 語学のために! ・派遣国: 異文化理解のために! 病気になっても! ・帰国後: 帰国しても!



帰国報告会

平成 15 年度 1 次隊 ラオス 理数科教師 鳥 潟 正 司



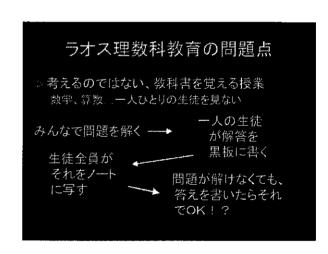


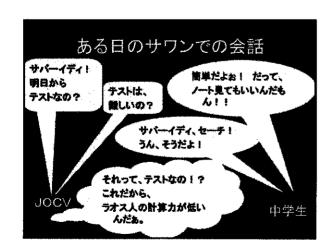
TTCの授業見学

- ※専門教科は日本の大学一般教養の物理・生物・化学に似ている。
- 学生は日本の中学1、2年レベル

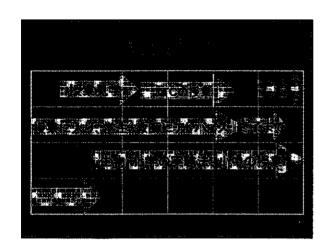
学生のほとんどが授業を理解していない 教師も理解していない

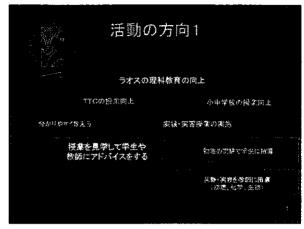
小中高等学校の授業見学 身の回りの世界・・・生活科。ほとんどが社会や 道徳。理科は20%ほど。教師がしゃべるだけ 理科・・・自然現象を教えるのではなく、教科書 を教える授業、教科書の丸写し 物理、生物、化学・・・教科書は無い、生徒の10 0%が授業を理解していない、使われていない 実験器具











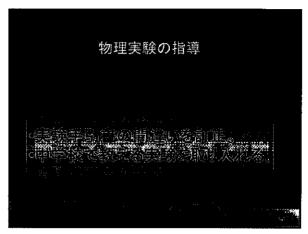
















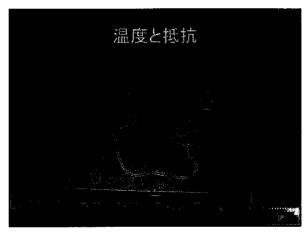


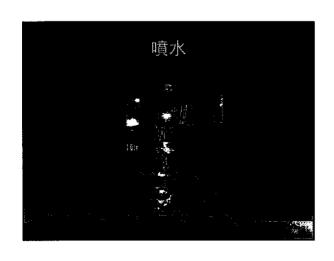






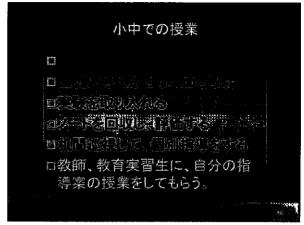






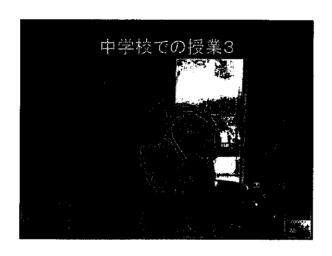


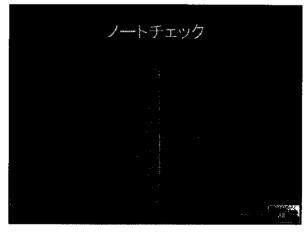


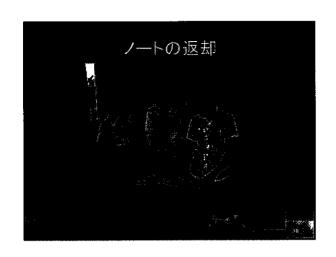










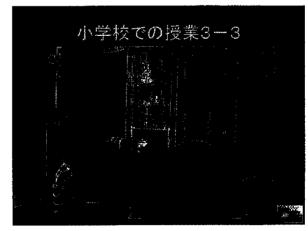








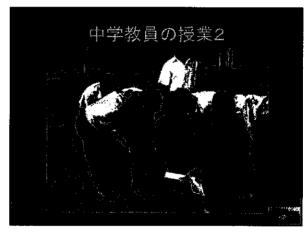




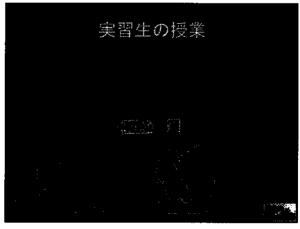






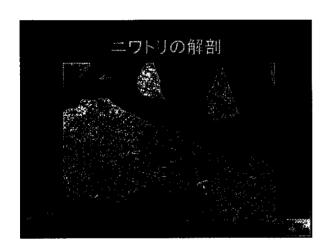






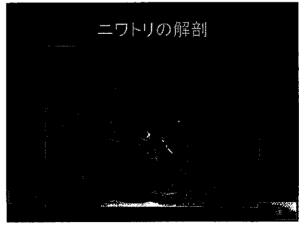




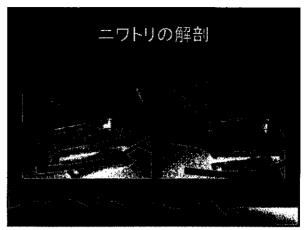




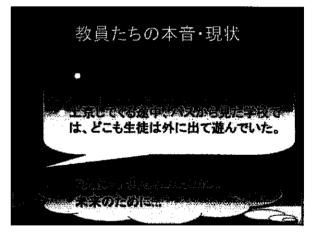


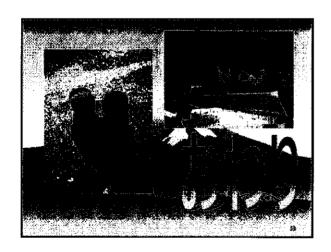






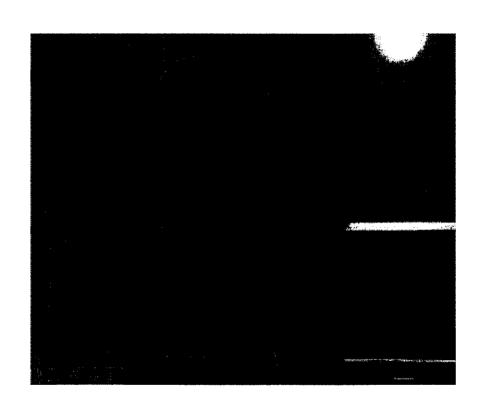






教室の笑顔は世界共通 --ベトナムドンナイ省立養護学校での美術指導---

平成 15 年度 1 次隊 ベトナム 養護 牧野智恵子



教室の笑顔は世界共通

―ベトナム・ドンナイ省立養護学校での美術指導―

牧 野 智 恵 子 15 年度 1 次隊 派遣国:ベトナム 職種:養護

青年海外協力隊募集要項に載っていたドンナイ省立養護学校の活動要請は『聴覚、視覚障害を持った児童教育に関する先進国の知識・経験の導入を望んでおり、日本人をいれることで教育の拡充と質の向上を目指している。音楽体育美術の授業を担当する。図画工作に秀でている生徒が多いため当該分野が得意な人材を求めている。』ということだったが、職種が『養護』であったせいか着任前、配属先は「看護師」が来ると思っていた。しかし私が美術が専門の教員だと知ると「よかったわ!学校に看護婦はいるけれど、美術教員がいなかったのよ。」と歓迎され「?!・・・まぁ、良しということだ。」と思いながら活動開始。新規隊員だったため、受け入れ側も隊員も何から何まで手探りのスタートだった。毎朝のラジオ体操や日本の童謡を歌ったり盆踊りなどもしたが、活動のほとんどは美術教育を通して生徒の可能性を引き出すことにつくした。

ベトナム手話をコミュニケーション手段とする聴覚障害児、ほぼすべてをベトナム語の 音声のみでコミュニケーションする視覚障害児、不器用な子、やんちゃな子、さまざまな 生徒とそれを取り巻くベトナム人教職員と共にすごしたベトナムでの教員生活は、私にと って、かけがえのない経験となった。

一番印象的なことは、『教室に生徒がいることの幸せ』。これは世界共通の『幸せのかた ち』なのだと思う。 ベトナム・ドンナイ省立ドンナイ養護学校 Trung Tâm Nuôi Dạy Trè Kuyết Tật Tính Đồng Nai

ドンナイ省立の盲聾学校。ベトナム南部にあるホーチミン市から約 30km のビエンホア Biên Hòa 市にある。ビエンホア市は日本企業など海外資本の企業も多い工業都市。

ベトナムにおける特殊教育は教会立等の海外資本による施設が多かったが、近年公立特殊教育施設も各地で開設されてきている。現在ハノイ、ホーチミンの二大都市には公立の盲聾知肢各特殊教育学校が複数あり、地方でも幾つかの省が盲聾学校を開設している。現在政府がすべての生徒が学校教育を受けられるよう統合教育を奨励し各地で障害児教育研修が活発になり本校も研修協力を行っている。ベトナムにおける特殊教育校はこの10年間で開校されたところが多く今後の発展が期待される。

設立:1997年8月

管轄:ドンナイ省教育局

生徒: 視覚障害児(約20名)と聴覚障害児(約120名)

教職員:校長1名、教頭1名、教員13名、舎監7名(教員との兼職あり)、事務職2名、給食調理員1名、守衛2名、時間講師数名2005年現在

教育課程:小学校(盲教育 5 年制、聾教育 7 年制、ベトナムの通常小学校教育は 5 年制)中学校 (4 年制・2004.9 開設)の課程がある。留年あり。当校開校以前は障害児教育校が無かったため過年児が多く、現在校生は 6 歳~20 歳。

学級編成:中学部:盲聾合同学級。各学年1学級15名前後。各教科の時間講師来校。

小学部:各学級、生徒約12名前後、担任1名。盲学級:複式学級、聾学級:1,2年課程は各2年間、計7年制。

教育内容:普通教育と同じ。教科書も共通。

進路指導:職業教育は本校の今後の重点課題。2003年小学部卒業学年の5年生に対しドンナイ省 立職業訓練センターの協力で縫製、電工の職業教育を行った。しかし2004年9月より中学部課程が開設されたため小学部で職業教育をする必要性が低くなり継続されなかった。しかし、中学部卒業を見通し職業教育・進路開拓は必要不可欠である。予算や設備環境等課題は多い。

就学前教育:地域の1才~5才の幼児対象。教員が家庭に赴き保護者に対し指導方法を教える。教員体制が不充分なため僅か。

寮: 盲1棟、聾6棟、各棟約20名。各棟舎監1名弱。通学生もいるが、省内唯一の省立養護学校 のためほとんどの生徒が寮生活。

寮費:食費として月80,000 dóng(約600円)入学時に判定があり、ドンナイ省以外からの入学等の場合220,000 dóng。養護学校がある省はまだ少数のため、親戚宅などに籍を置くなどして入学する生徒も多い。

学費:無料

施設: 教室兼寮、事務室、講堂、食堂の平屋13棟。

事教育: 設備、機材、人材等不足の理由から補聴器の使用環境が整っておらず手話によるコミュニケーションが中心。高学年の全生徒は海外から寄付された中古補聴器を配布されているが、性能不充分、本人が口話よりも手話を好む、補聴器用電池を買う経済的余裕がない、学校の敷地に線路が隣接しており約1時間毎に通る列車の騒音が激しい等の理由で通常はほとんどの生徒が使用していない。ベトナム統一手話(ベトナム語の指文字と手話)を使用。日本手話と較べ語彙数は少ない。またベトナム国内で使用されている手話はまだ統一されておらず、アメリカ

手話などを使う学校もある。

盲教育: 視覚障害児は6点点字を使用している。

年間予算:850,000,000 đóng(約 600 万円)

週時程表 (2003年度 聾2年生)

益刑性数(2000 →	X FOT-				
	月	火	水	木	金
(5:30~6:00)	Thể đục、Chạy 体操、マラソン				
1 (7:00~7:40)	Chào cờ 朝礼	Thể đục 体育	Tập đọc 読み	Thể đục 体育	Chính tả 書取り
2 (7:40~8:25)	Tập đợc 読み	Toán 算数	LT-Câu 会話	Tập đọc 読み	Toán 算数
3 (8:25~9:10)	Tập đọc 読み	Chính tả 書取り	Toán 算数	Tập viết 書き	T.L.V 作文
(9:10~9:40)	Ra chơi 中休み				
4 (9:40~10:20)	Toán 算数	TN-XH 理科社会	Kĩ thuật 技術	Toán 算数	Kẻ chuện
5 (10:20~11:00)	Đạo đức 道徳	On tập 復習	補習	Mỹ thuật 美術	NN KH 手話
	昼食、昼寝				
1 (14:00~14:30)	Tập đọc 読み		Tập đọc 読み		T.L.V 作文
2 (14:30~15:00)	Toán 算数		LT-Câu 会話	Nghĩ 休み	On tập 発音練習
(15:00~15:30)	Ra chơi 中休み	Nghĩ 休み	Ra chơi 中休み		Ra chơi 中休み
3 (15:30~16:00)	Đạo đức 道徳		Toán 算数		Toán 算数
4 (16:00~16:30)	On tập 復習		On tập 復習		Sinh hoạt 生活
(16:45~17:00)			Thể đục、 体	操	

TN-XH: Tự nhiên-xã hội LT-Câu: Luyện từ-Câu T.L.V: Tập làm văn NN KH: Ngôn ngữ ký hiệu



写真1

ベトナムドンナイ省立養護学校内。2003年8月~2005年3月約2年間暮らした自室窓から。全寮制のため窓を開ければ、いつもそこに生徒がいる。後ろに校庭と教室棟が見える。ビーズの猫は生徒作品。



写真2



写直 3

聾学級授業。1 クラス 10 名前後。担任 1 名。ベトナム統一手話と口話の両方を併用して指導している。

写真2:教員がボードで示している単語を指文字と発声で読む。

写真3:教科書を読む。教科書は普通教育用とおなじもの。

次ページは、訪問者と聾生徒が交流するための自作簡単ベトナム手話図。ベトナム共通手話の冊子が数冊発行されているが数が少なく校内でもあまり普及していなかった。

《 ベトナム語 手話 》 初めての出会い :《Vietnam Go Syuwa》Hajimete no Deai

《Ngôn ngữ ký hiệu Việt Nam》 Lần đầu tiên gặp

JOCV 15-1 ドンナイ省養護学校 牧野智恵子 Trung Tâm Nuôi Dạy Trẻ Khuyết tật Tình Đồng Nai Makino Chieko

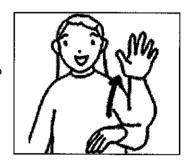
Xin chào: こんにちは Konnichiwa

Trê em chảo người lớn : 子どもが大人に対し

てするあいさつ



Chào bạn bè, đồng nghiệp : 大人同士のあいさつ



Rất vui được gặp Bạn: お会いできてとても嬉しいです。Oai dekite Ureshii desu.



Tổi tên là ☆☆☆: 私の名前は☆☆☆です。Watashi no Namae wa ☆☆☆ desu.



Bạn tên là gì? あなたの名前は何ですか?: Anata no Namae wa Naini desuka?



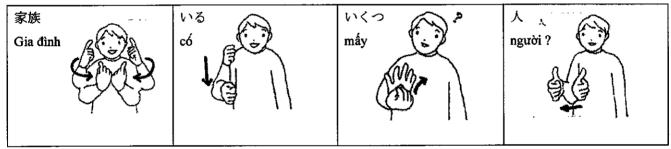
Tôi tuổi: 私は☆歳です。Watashi wa ☆Sai desu.



Bao nhiêu tuổi?:何歳ですか? Nan Sai desuka?



Gia đình có mấy người?:家族は何人ですか?Kazoku wa Nan nin desuka?



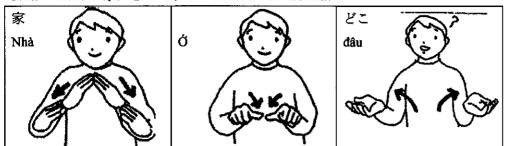
家族8人で、お父さん、お母さん、お姉さん、お兄さん、私、弟、妹です

Gia đình có 8 người, Ba, Má, Chị gái, Anh trai, Tôi, Em trai, Em gái

8nin Kazoku de Otousan Okaasan oneesan Oniisan Watashi Otouto Imouto desu.

数 Số ký hiệu ngón tay 別表参照	người	お父さん Ba	お母さん Má
お姉さん	お兄さん	弟	妹
Chị gái	Anh trai	Em trai.	Em gái

Nhà ở đâu?: 家はどこですか? Ie wa Doko desuka?



Da ,phải: はい、そうです: Hai soudesu…





Không: いいえ Iie



Hiểu chưa?: 分かりましたか? Wakarimashita ka?





Ăn:食べる Taberu



Hiểu rồi : 分かりました Wakarimasita





Chưa hiểu:分かりません wakarimasen



Ngon:美味しい : Oishii



Không ngon:美味しくない Oishikunai/



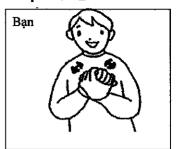
Việt Nam: ベトナム Vietnam



Nhật Bản: 日本: Nihon



Ban: 友達 Tomodachi:



Thích: 好き Suki



Yêu: 愛している Ai shiteiru



Không thích: 好きではない: Suki dewa nai



Đẹp:きれい Kirei



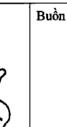
Tốt:良いYoi



Xấu:悪いWarui/



Vui



Vui:楽しい: Tanoshii Buồn: 悲しい Kanashii Đen: 黒い kuroi



Trắng: 白い shiroi /



Cám on: ありがとうございます: Arigatou (gozaimasu)





写真5 ベトナム指文字



写真6



写真7



写真8

写真6~8

盲学級授業風景。生徒が少ないため複式学級。1 クラス 6 名前後。点字教科書はホーチミンから取り寄せる。



写真9





写真 10

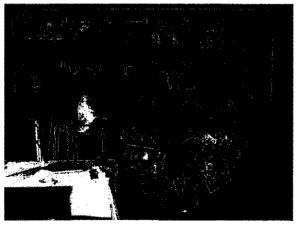


写真 11

ベトナム盲人協会製点字板と点筆。

写真 10

日本の勤務校である都立養護学校の元同僚か ら寄付された日本製点字機カニタイプ。手で 打つよりも断然早く、またベトナムに入って いるアメリカ製の点字機よりもコンパクトで 使い勝手がよいと生徒たちは喜んだ。この後、 地元のベトナム味の素株式会社からも寄付し ていただき、最年長クラスの授業でこの点字 機を使用できるようになった。

写真 11

聾 4 年生美術作品完成記録。生徒 1 0 名担任 1名と隊員本人。



写真 12

写真 12 美術室。『養護学校教員として音楽・美術・体育の指導を』という活動要請だったが、隊員の専門が美術であり美術の授業を中心に受け持つことになった。『上手にできる生徒だけにきれいな作品をつくらせる』のではなく、『みんなが制作に参加できる方法を考え、生徒が喜んで参加するような実践をする』ことで、『教員や管理職が、指導方法によって生徒みんなの可能性を引き出せるのだと実感すること』をめざすよう心がけた。

ベトナムの美術教科書は本来毎時ごとに一つの課題をこなす設定だが、ドンナイ養護学校では隊員に自由に課題設定をさせてくれた。 生徒の創造力を伸ばす課題、作業学習的な要素を取り入れ協力し制作に参加できる課題など中心に設定し、生徒本人、教職員、保護者、一般の人達に、『すべての生徒に可能性があることを、実際に目で見てもらう』ことを目指した。そのための指導方法を考え、大人を納得させるためにある程度の完成度の高い作品をつくること、画材購入のための作品販売、多くの人の理解を得るための展覧会の設定などをしていった。

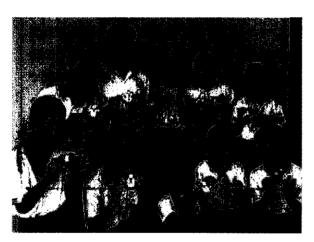


写真 13

写真 13

響4年生技術作品完成記録。ベトナムでは美術で絵画、技術で工作や技術家庭科的なことを学ぶ。ベトナム人教員は見本と同じ作品を作ることを評価の対象としていたが、隊員としては教科書の題材をアレンジし創造力も育てられるような指導をすることを心がけた。

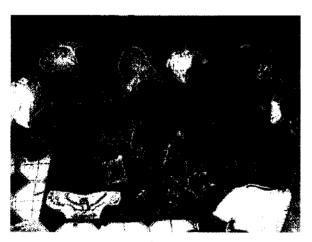


写真 14

写真 14

響4年生美術。初めに学校からもらった教材 は質の悪いコピー紙と鉛筆だけだった。ベトナムでの授業はまず画材道具を集めることから始まった。水彩絵の具で三原色からの色作りの学習をかね菩提樹の葉の描写、校内に迷い込んできたハトの鉛筆スケッチ、水彩による鳥の自由画をコピー紙に描いた。水彩画を切り抜き着彩したボール紙に貼って展示した。隊員活動開始後初めての共同制作品。



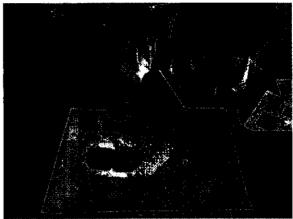


写真 15

写真 16

写真 15, 16

画用紙を購入するのは困難だったため、仏具などを作るための紙細工材料店で箱を作るために 売られていた全版の黄ボール紙を購入、生徒と裁断しマスキングをして使用した。比較的安価 で絵の具の乗りもよくおおいに活用した。絵の具は市販されているものをいろいろ試し、比較 的安価で発色の良いものを見つけた。また少ない色数でも生徒が自分で美しい色を作り表現で きるような指導を心がけた。初めは材料や道具を校費で購入してもらうのは難しく自腹を切っ たが、徐々に生徒が適切なものを使うことで力を発揮する様子を実際にやって見せ校費で購入 することを納得してもらったり、生徒作品売り上げで購入できるようになった。また東京の中 学校から絵の具の寄付がありそれも重宝した。



写真 17

写真 17

日本では『すべての子に体験させる』のが当り前の共通認識だが、材料の少ない所では『少ない材料で上手な子に良い結果を出させる』というのも一つの常識となる。「それならば。」と、『誰でも良い結果が出せる方法』を考え『みんなが参加することをみんなが納得する方法』を考えた2年間だった。



写真 18

活動1年目は盲聾3、4、5年生の美術、技術の授業と、課外の美術特別選択クラスを受け持ったが、途中から特選クラスはやめ希望者全員を対象とした造形教室として人数制限をしながら平日夜と土日の教室開放をした。希望者が多く結局は常時、美術室は絵画制作、自室はビーズ制作室として開放することになっていった。



写真 19

写真 19

美術室の奥が自室だった。通勤一歩。生徒も 全寮制で敷地内で暮らすため、授業時間より も余暇の時間での関わりが濃くなっていく。 『プライベート』という発想のない状況は始 めはストレスでもあったが徐々に肌がなれて いく。

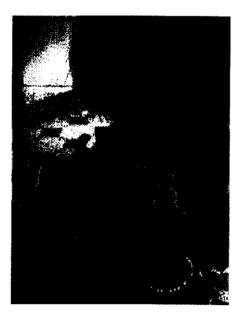


写真 20



写真 21



写真 22

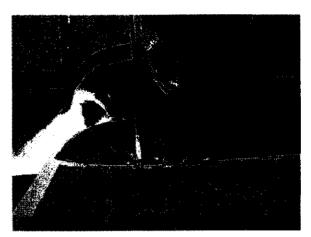


写真 23



写真 24

写真 20~24 盲クラス。盲クラスでは技術の授業を受け持ち担任がサブで入った。授業はそれぞれの教室で行った。盲クラスは『会話』で勝負することになるが拙い語学力を生徒たちの聞き取り能力と想像力が助けてくれた。

写真20:粘土作品。2年目、粘土が寄付され授業に取り入れることができた。

写真 21: 折り紙。「日本の折り紙」は有名で当初の活動要請に「折り紙を教えてほしい」とあった。 盲クラスの技術は折り紙を中心に教えた。 初めは紙を半分に折るのも難しかったが 2 年間の中で『鶴』はもとより『ユリ』なども折れるようになった。

写真22:豆の殻、木の枝などを利用したレリーフ作品

写真 23:初めて持つ筆。みな絵を描いた経験がなかったので、筆を持った瞬間「これは何?」 と聞いた。イメージの世界が広がり話が弾んだ。

写真 24:「先生の日」のプレゼント作り。行事の展示物など「盲の生徒は作れないので聾の生徒が代わりに作る」傾向があったが、技術での制作体験を通して自他共に「盲の生徒でも作れる」という意識が根付いていった。「担任の先生にプレゼントを作りたい」と 夜美術室を訪れ担任にこっそり制作しサプライズプレゼントした。

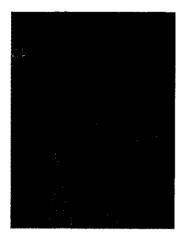


写真 25

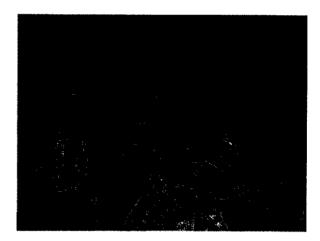


写真 26

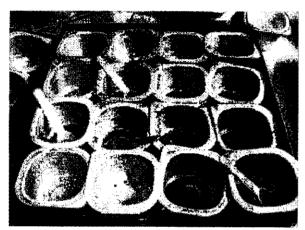


写真 27

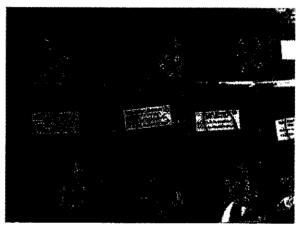


写真 28

写真 25~28 障害児施設のため、いろいろな団体から寄付が多い。しかし「いつも寄付される立場」であることが気になっていた。「一方的にお礼を言う立場」から互いに相手を喜ばせるような事をし「感謝しあえる対等な立場になって欲しい」と感じた。そういう思いもあり、プレゼントしたり販売できる作品作りを始めた。

写真 26: ビーズ製品制作。ビーズ制作は全校生徒の熱狂的なブームとなり、授業の合間の休憩時間、昼寝の時間、起床から就寝時間まで生徒が部屋に押しかけてきた。6歳から20歳くらいまでの生徒たちが足の踏み場もないほどひしめき合い制作に没頭した。手指の巧緻性、数の計算、観察力、理解力、創造力、他者との協力する力などを育てることもでき、多様な生徒に合わせた課題設定をしやすい、材料を比較的安価で手に入れやすく、出来栄えが美しく万人うけする、など作業学習的にも適していた。制作にあたり、細かく私が指導するのではなく、生徒の中でリーダーを養成するよう心がけ、生徒が相互に援助しあい、私はリーダーを援助する姿勢をとった。聾児は日ごろ少ないベトナム語学力で情報を収集し理解する能力に長けているため、日本語のビーズ制作本などを理解する能力も高かった。

写真27:ヨーグルトの空きケースなどをリサイクルして作った整理箱。

写真 28: 初めての製品。JICA 経由できた日本の高校生見学団体来たことをきっかけに制作。 日越の友情を記念して、ベトナム国旗の星の黄色と日本国旗の赤の色で作った星のストラップをプレゼントした。写真は販売用に作ったもの。



写真 29

写真 30

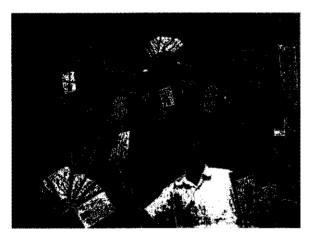


写真 31



写真 32

写真 29~34

カード制作。初めての製品づくりはカードだった。学校から省人民委員会や教育省など外部に贈るために管理職が市販のカードを買ってきたのを見て、「生徒自身がドンナイ省養護ならではのカードを作る事ができます。」と提案。はじめは「ではあなたが作りなさい。」「私が作っても意味がない。生徒が作れます。」「では器用な生徒に作らせなさい。」「いいえ年長クラスの生徒みんなで作れます。」という会話で始めたカード作り。教職員は「生徒が美しいものを作れるの?」と不安に思い、私は「受けたからには、みんなが納得する出来のものを、生徒みんなで作らねば。ここから始まる。」と思い、アイデアを練り、初めてのことに生徒たちは熱中し、結果として校内のみならず外部の人たちも感心するカードが出来た。ここから、みんなが喜ぶ、みんなが参加できる作品作りが始まる。

写真 29~31:お正月カード作り。ベトナム版画(ドンホー版画)用の和紙に中華街で購入した墨汁の吹流しでマイの木(お正月の花)を描き、割り箸ペンで黄色い花を点で表現。お札として小さくきった赤や金の紙を木の間に貼る。輸入色画用紙を全版で購入し裁断、内側に印刷屋であいさつ文を印字、表にマイの絵を貼り、字のきれいな生徒が手書きで表書きを書く。分業制にし生徒の能力に合わせて分担。ただし美術作品ではなく、人に贈ったり販売するものなので、製品の完成度は高いものとするための心構えを指導する。始めは年長クラスが制作、2年間の活動の中で、生徒たちは先輩の姿から学び年少の生徒も参加できるようになってきた。

写真32~34:クリスマスカード作り。『飛び出すカード』形式は珍しく販売に適していた。



写真 33

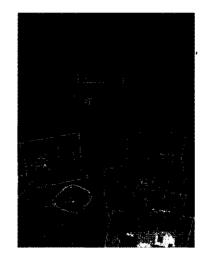


写真 34



写真 35

生徒による初めての製品販売。完売。これ以前は私が人づてに販売し、校内に報告していたがみんなにとって販売の実感がなかった。 しかし日本の見学団隊が訪れた際に、校内で生徒と教員が販売。学校の教職員にとって生徒作品が飛ぶように売れた事は衝撃的だった。みんなが生徒の可能性を目の当たりにするきっかけとなった。



写真 36



写真 37

写真 36, 37

クリスマスカード売り上げによるクリスマス会。カードを製作した 5 年生(この時点では最年長)がサンタに扮し、100人分のケーキをみんなにプレゼントした。



写真 38 同年代のベトナム人高校生訪問の際、本校生徒が制作中作品のモデルになってもらった。描画力に高校生たちが感心した。



写真39 訪れた寄付の人にお礼として作品を プレゼントする。



写真 40

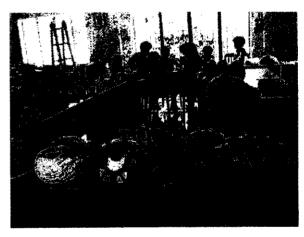


写真 41

写真 40、41 ドンナイ省越日文化祭り展覧会準備。

ドンナイ省養護学校の作品制作・販売をし好評なことが省人民委員会に届き、省情報局主催で本校生徒作品展を含む越日文化祭りが企画された。ドンナイ省には日本企業工場が多いこともあり、その社員や日本語学習者なども多く、そういう日本に関連する、日越の人たちが参加する催しとなった。20m×28mという大きな会場内の装飾はドンナイ省養護学校生徒作品を中心にホーチミン領事館による日本紹介や日本企業の展示もされた。本校の活動としては①水彩画 50点(テーマ日本とベトナムA3)②お面(竹ザルにトイレットペーパーを木工用ボンドで貼り付け盛り上げペンキで着彩)③豆絵(大豆、お米、トウモロコシなど穀類っを砂絵と似た要領でボンドで貼りつける)④粘土画(着色粘土でレリーフ)⑤ノンラー(三角帽子に日本とベトナムをテーマにペンキで描画):②から⑤については日頃から協力してくれる地元の美術講師 Loc 先生が中心となり指導 ⑥和凧(日本の勤務校である都立養護学校の元同僚が来越し生徒指導) ⑦カード⑧ビーズ製作 ⑨折鶴や灯篭(ペットボトルのリサイクル)による会場装飾 ⑪日本人生徒作品(埼玉の中学校、絵画教室、ホーチミン日本人学校から出品)⑫ 両国国歌手話斉唱。⑬踊り⑭合唱「幸せなら手をたたこう」(盲生徒と若手教員日本語で合唱)⑮ 盆踊り「炭坑節」「走れマキバオウ」を行い、ほかに他校の踊りやファッションショー(ベトナム日本人材協力センターVJCCから浴衣を借り、地元大学生が行った)などもおこなわれた。

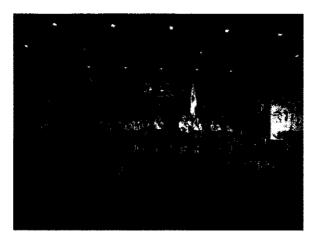


写真 42 手話による両国歌斉唱

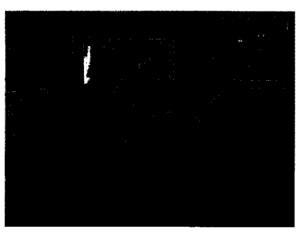


写真 43

中心になって企画してくれたドンナイ省副主席。 絵画はオークション形式で販売された。生徒絵画作品 を販売するなど日本では経験した事がなかったので カルチャーショックだったが、展覧会はテレビでも生 中継され多くの人が生徒作品を求めて訪れ、絵画販売 もひとつの社会とのつながり方なのだと納得した。こ の展覧会の後、テレビ放送の影響もありドンナイ養護 学校の活動は一般の人たちにも知られるようになり、 画材の購入などもしやすくなった。



写真 44 ビュッフェ形式でベトナムと 日本の料理も紹介された。



写真 45 製品販売

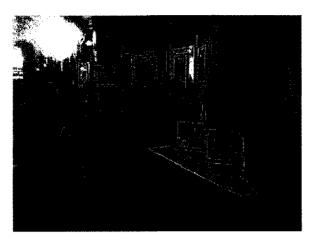


写真 46

写真 46 日本の生徒作品紹介。日本の児童作品の子供らしい奔放な絵、中学生の色使いの美しさなど、ベトナムの生徒作品とは一味違う様子は何よりもベトナムの生徒たちにとって新鮮だったようだ。そして大人たちにとっても自分の「常識」とは違う事が刺激になったようだった。ドンナイ省越日文化祭りはドンナイ省養護学校の教職員にとって生徒の活動が一般の多くの人たちに高く評価され画期的だった。しかし、この時点では①省の援助②日本の協力隊員による生徒指導、という『特別な事』があったから可能になったというのが教職員の認識だった。



写真 47



写真 48



写真 49



写真 50

写真 47~50

ビエンホア市障害児展覧会。2005.3.5~3.13 ドンナイ省省都ビエンホア市カフェコイグオンにて。ドンナイ省日越文化祭りが一つの成功をおさめながら①まだ学校教職員が主体的に参加できていない。生徒の可能性には気づいても自分たちの指導者としての可能性に気づいていない。②多くの生徒たちが作品制作という形で参加できたが、場所時間的に限られていたため当日会場に行けた生徒は一握りで、そのほかの生徒は学校でテレビ中継を見ただけだった③同じビエンホア市にあり協力隊員が派遣されている知的肢体不自由児のための施設(ビエンホア孤児養護センター)の生徒は参加できなかった。という点が心残りだった。

しかし隊員活動も残り 3 ヶ月となった頃、ビエンホア市にギャラリースペースやステージのある大きなカフェを見つけ、離任間際にもかかわらず、どうしても改めて「みんなの手によるみんなの展覧会」を開きたくなり、カフェのオーナーに相談するとドンナイ祭りでの本校の活躍を知っていたこともあり、快く会場使用や展示全般を含め援助してくれる事になった。時間的条件などからも教員みんなが協力しあって初めて可能な企画だと本校教員に相談し、ビエンホア市孤児養護センターとも合同で展覧会を行う事を決めた。二施設の教職員が中心となって企画を考え、施設や会場オーナーを含んだ実行委員会形式で実現する事が出来た。多くの人たちのボランティアによって実現できた展覧会だった。

この展覧会での成果は①各施設のベトナム人教職員が主体的に企画実行した。②ベトナム人教職員が生徒の力を信じて指導し制作した。(本校は教員が折り紙や造花、ビーズ、カード制作指導。私が絵画指導。弧児センターは教職員がちぎり絵、水彩画、折り紙、カード制作指導。私も協力し両施設共同制作指導)③同じ市内にある公立障害児教育施設でありながらほとんど交流のなかった教職員が協力し、上からの指導ではなく教職員が主体となって企画し、多くの人の協力をえながら実現できた。④期間が長く、生徒全員が会場に行き多くの人が自分たちの作品喜んで見たり購入する様子を実際に見ることが出来た。⑤製品の大口注文がいくつか入りそれを受けた教員と生徒たちだけで制作・販売が出来た⑥作品展示だけではなく、各施設や障害、手話・点字についての紹介も展示し、生徒と手話で話をするなどを通して一般の人たちの理解のを深めることが出来た。⑦次年度も、隊員帰国後も継続して展覧会を行う事が会場オーナー、本校校長の提案によって決定し、この活動がベトナムの人たちの手によって引き継がれていく事になった。などである。

離任間際に「Chieko の活動は私たち青年団が引き継いで行くからね。」という同僚の言葉は、「まだこれからやれる事がある。これからがスタートなのに。」と思いながら展覧会終了 10 日後に活動を終了し帰国した私にとって、何よりも嬉しい記念の贈り物となった。



写真 51



写真 52

写真 51~54

生徒の踊り。聾の生徒たちの中で特に踊りが得意な選抜チームがあり、催し物があるとしばしば踊る。



写真 53



写真 54



写真 55 ドンナイ川



写真 56 校門



写真 57

学校敷地内。もともとは戦争で後遺症の残ってしまった人たちのために建てられた施設だった。居住に適した建物が13軒(教室兼居室)と食堂棟、講堂、事務室棟がある。



写真 58 食堂



写真 59 スコールと水浴び



写真 60 草刈



写真 61 水やり

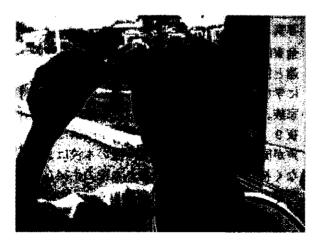


写真 62

火炎樹の花の蝶。火炎樹はベトナムの学年度 末6月に咲く燃えるように赤い花の木。多く の学校に植えられており、日本の桜のように この花を見るとベトナム人は懐かしく学校を 思い出すという。



写真 63

サソリ。何か見つけると生徒が嬉しそうに持ってきて見せてくれる。サソリに刺されて死ぬ事はないがひどく腫れ熱が出るのですぐ病院にいかねばならないとのこと。見つけたら危険なのですぐ潰すか熱湯で退治する。ベトナムでの生活は日本と異なり驚くことも多かったが、基本的に必要なものは何でも手に入り生活に困る事はなかった。ベトナム生活のことを聞かれると「でもベトナムも日本も同じアジアだからね。」という一言がぴったりする。



写真64 修学旅行。教職員家族も 含んだ職員旅行を兼ねた。

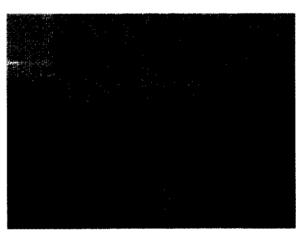


写真65 夕暮れ。夕食を涼しい外で食べることも。 夕食後から夜の宿題の時間前は長閑なひと時。



写真 66

写真 66

全寮制のため生徒たちは生活に必要な事を友達と協力し合いながら身につけていく。ともに学び、遊び、食べ、寝て。まさしく130人家族。朝5:30からのラジオ体操に始まり夜9:00の就寝時間までたえず子供たちの声が聞こえてくる。開校9年目の本校はまもなく初めての卒業生がでる。本校の生徒たちが将来社会にどのように参加していくかはドンナイ省の今後の課題でもある。

水彩画指導の基本

<材料>

- 水彩絵の具…Công ty Bút bi Thiên Long HCM 社 (Tel84.8.7505555) の水彩絵の具 Màu Nước colo kit Waco-03 8colors 15ml 14.0004が一番使い勝手がよい。ビエンホア市内では同じくらいの値段で発色の悪いものや色数が多くても量が少ないものが出回っているが、上記の商品は量質値段等一番妥当で生徒数の多い本校に適しており、ビエンホア市内の文具屋 (Nhà Sách Đường Sáng) で取り寄せ購入が出来る。
- 描画用紙…一般的にベトナムでは美術の授業では方眼紙状のノートの紙、もしくは薄いコピー用紙を使用するが、水彩画には適さない。市場の仏具用紙細工販売店で紙細工の材料も販売しているところがあり、そこで日本の馬糞紙似のリサイクルボール紙を購入し、裁断、使用する。全判一枚3.0004でA3が5枚取れ、比較的安価な事も心強い。
- マスキングテープ…画用紙の4辺をマスキングする。制作完成後、マスキングをはがすことで、生徒にとっても完成の意識付けがしやすく、見映えも良く、画面保護にもなる。塗装店で購入、3.0004

<道具>

タオル又はトイレットペーパー…筆の水分を調節する。

- 筆…ベトナム国内でも様々な質のものが購入できる。画材屋で購入できるが、ペンキ等塗装材料販売店で品揃えがあり、安く購入できる所もある。私の場合、初め自費で日本の児童がよく使っているペんてるの筆を購入し(ベトナムでは専門家用高級筆)、子どもの表現技術が躍進する実態を示した後、活動一年目に、校長が私の自室のカーテーン等新しいものに買い換えるというので、「そのお金で筆を買って下さい。」と提案したところ、その希望が通り、生徒のために学校費で高級筆(日本の小学生が使っているペンテルの筆)を買うことが出来た。生徒の学習材料費になかなか予算が下りない中で、これは大変画期的だった。以前はHCMで購入していたが、BHの塗装材店で品揃えがよく安い店もあり、日本製でなくても、中国製等でも安く使いやすいものもある。
- 水入れ…日本の様に既製品を用意するのは難しいので、ヨーグルトの空きカップなどを利用。ヨーグルトカップはビーズ製作やカード製作等で細かな材料の分類や、盲児の指導の際に各児童に材料を分かり易く分配するためなどに大変重宝した。2年間毎日食べたヨーグルトカップや牛乳パック等は全て製作道具としてリサイクル使用した。
- バケツに水…個人のカップの水が濁ったらすぐに新しい水に交換できるように、全体用に一つ用意する。

く資料>

写真、画集、日本の教科書等…安易な資料提供は模倣に陥りやすい(キャラクターイラストなどは自由な発想に繋がりにくい)が、様々な資料から刺激や情報を得る事は創造力を膨らませられる。参考資料については、渡越時に、日本の小学校から高校までの美術の教科書を 2,3 の出版社分(日本の教科書はベトナムで改めて見直すと参考資料としての内容も、製本技術も大変優れている。)アサヒグラフ等数冊日本の画集、日本の美術館などで買い集めた世界の絵画の絵はがきや、日本の風景等の絵はがきをもってきており、それに加え、渡越後ホーチミン等に行くたびに、ベトナムの風景等写真絵はがき、ベトナム人画家の画集、ベトナム民族等の写真集、大変出版数は少ないがベトナム語で出版されているベトナムの伝統美術などのセット画集、外国製の絵本等を買い集めた。

作品を作る際に観察力と想像力、創造力を養うことが大切なので、生徒の選んだ題材によって適した資料を選び利用できるようにする。資料はもちろんのこと、実際のものを観察し感じ取ることが一番なので、日頃からものを観察する力を養うように働きかける。

・指導の基本

水彩画のツボは水のコントロール

<ポイント>

- ①初めに、必ず上記の道具を準備する。
- ②重要:筆とカップの水は常にきれいな状態にする。筆洗が不十分だと色が濁り、思い通りの表現が出来ないので、常に筆を洗う習慣をつける。筆洗時には筆を丁寧に扱うよう促す。
- ③重要:水分コントロールがポイント。これが身につけば飛躍的に進歩する。筆の水分量:筆の水分量が多いと思い通りの描線が出せないので、トイレットペーパー等で筆の水分を調節し、一番発色しやすい状況にする習慣をつける。絵の具の濃度維持:描画中パレットの絵の具が少なくなった際に、水を追加し色を薄めるのではなく、絵の具を追加し絵の具の濃度を維持する習慣をつける。
 - ④描画時、常に筆先を見られる状況になるように画面と筆の位置関係を調節する習慣をつける。
 - ⑤重要:混色で色幅をひろげ自分独自の色をつくる。
- ⑥馬糞紙の特質上、絵の具の塗り重ねの表現がしやすく、簡単に画面に変化をつける事が出来る事 を伝える。
- ⑦画面上、風景であれば遠いところから順に近いところへ、物体であれば奥から外に向かって(例: 人物の場合肌を塗った後、服、目鼻髪等を描く)着彩する。
 - ⑧基本的に明色から暗色の順で着彩し、黒は一番最後に入れる。
 - ⑨下描き
- ・鉛筆の場合:極力消しゴムを使わない。「消しゴムは使えない。」と思うことで、一本一本の描線を描くのに集中力が増し、画面の力が増す。
- ・割り箸ペン:割り箸の先端をペン状に削り、墨汁(仏具屋で購入可能)をつけながら描画。割り箸ペン画の場合は鉛筆の下描きはしない。直接描くことで描線の魅力が生きるのであって、鉛筆線をなぞり描きでは線が死ぬ。割り箸ペンは生きた線を描く練習にも最適である。鉛筆画と同じ要領で割り箸ペンで描画後、簡単な着彩のみでも素朴な味わいと魅力が出、特に水彩画初級にむいている。(ベトナムの児童画では、着彩画の最後に安易に全てを黒で縁取りをする習慣がある。画材の発色の悪さから発展した描画方法かもしれないが、画一的な画面になり魅力が半減する。しかし縁取り信仰は簡

単にはぬぐいされない。しかしこの割り箸ペン画はベトナムの"縁取り信仰"と絵画の魅力を両立させることが出来る。)注意点は、着彩後、必要があれば墨汁を差しても良いが、ただのなぞり描きのように縁取りを入れないようにする。

⑩描画

- ・対象を自分の目でよく見て(色、形)描く。『"見て"、"描く"。"見て"、"描く"。』の繰り返し。
- ・愛を込めて描く。ゆっくり丁寧に。

< 水彩画の導入時の題材例>基本的な絵の具の扱い方が身に付けば自由に絵を描けるようになる。 例A 絵の具の混色

- ① 三原色もしくは白の中から好みの一色を選び、その色を他の絵の具セット上の色と混色する。 例えば黄を基本に他の色と混色をするとする。画面上に黄色と各色のグラデーションの帯が色 数分できるようにする。
- ② A4の紙に左上に黄色で約直径2cmの丸を描く。
- ③ 例えば、まず第一に混ぜ合わせる色を赤とすると、黄色にほんの少し赤を入れ、二つ目の丸を描く。
- ④ その要領で、少しずつ赤の濃度を増やしていき、最終的に赤い丸になるようにする。すると一行目は黄色から赤ヘグラデーションで丸が並ぶ。
- ⑤ 2行目以降も同じ要領で他の色と順に混色する。

<ポイント>全ての丸が異なる色になるようにする。出来るだけ多くの丸を描くことを目標とする。この課題を通して、混色する際の微妙な色の調節技術とわずかな色数でとても多くの色を作れることを実感できる。色の変化に合わせて筆を洗う習慣、水分調節、きれいな円を描くための運筆方法などを習得できる。丸のサイズなどはあくまでも例であり、生徒の好みにまかせると、短順作業の繰り返しの中にも個性が出て面白い。

例 B 色相環

- ① 直径約 20cm、幅約3 c mの環を描き、1 2 分割し色相環を作る
- ② 着彩はまず、3原色を塗り、次に各三原色の間の中間色を塗る。例えば、青と黄の間であれば 緑を塗り、その後緑の前後の青緑、黄緑を塗る。同じ要領で、赤ー黄間、青ー赤間も着彩する。 <ポイント>色の名前や混色の際の各色の相対関係、筆洗の習慣、運筆方法を習得できる。

例C 葉の写生

木の葉や草などを一人一枚用意しそっくり同じ色を作りながら描写するのも、色作りと観察力を養える。

エクアドルでの小学校教育

平成 14 年度 1 次隊 エクアドル 小学校教諭 横山かおり

エクアドルでの小学校教育

横山かおり

昨年、ある日の天声人語で協力隊が紹介されていました。その中に、人類学者、中根千枝さんが出した本の中の、「がんばりすぎると、落胆や不満も大きくなる」という一節が出ていました。私たち、現職教員の多くがこの言葉に納得してしまうのではないでしょうか。さらに、「厳しい環境の下では、学歴や職業と関係なく、全人格的能力がおのずと現れる」とあり、まさにこのことが私の1年9ヶ月の活動の中で試されたことでもありました。

私が任地についた日は 8 月 30 日。ホームステイ先の家族に連れられて学校を見に行きました。学校はまだ、夏休み中で、玄関の脇の教室では住み込みの用務員さんがじゃがいもを干していました。本当にここで 2 週間後、授業が行われるのだろうか、というような散らかりようで、静かな衝撃が走りました。村に初めて入ったときもそうでした。村の光景を目にしたとき、どこか寂しい気持ちがしました。私は、この村で好きになるものは何かないかと一生懸命に探したことを今でもよく覚えています。

第一印象はとても大事だと思います。私は、一度抱いてしまったこの寂しい気持ちと以後、 戦っていかなければなりませんでした。

最初の職員会議は、給食を食べながら行われました。まず、今年1年どんな行事をするか、 の確認でした。もちろん、スペイン語で、ナチュラルスピードで、私がまだ、言葉になれて いないという認識は先生方の中にまったくありませんでした。行事の名称は初めてのものば かりで、なかなかイメージがわいてきませんでした。そして、次に担当が決められていきま した。私の担当は、ヒデヨ・ノグチの誕生日に何かをやる、集会で音楽発表会をする、こと を必死に聞き取りました。でも、集会がいつ行われるのかはわかりませんでした。職員会議 が終わると先生方は、わたしに声をかけることなく自分の教室に戻っていきました。

学校から要請があってから隊員が派遣されるまで、1年以上かかってしまうこともあり、 その間に学校の事情が変わり、任地に到着したらすでに仕事がなかった、仕事の内容が要請 内容と違っていた、などということもあります。同僚の先生方のどこか冷たい雰囲気に一抹 の不安を抱えながらも、仕事があってよかった、などと思ったことでした。

このあたりは、昨年春に行われた中南米地区の調整員会議で話し合われ、要請から派遣まで の期間が短くなっていくだろうということでした。

さて、お手元の資料の1にあるように、ヒデヨ・ノグチ小学校は300人の中規模校ですが、1クラスの人数が50人前後のマンモスクラスでした。45分の中で、一人一人の子供が十分に学習活動を行えるような授業の組み立てをするのは至難の業でした。しかも、私は、音楽を8クラス、16時間、体育を8クラス、8時間受け持っていましたので、学年に応じたカリキュラムを立てなければなりませんでした。

さらに、このマンモスクラスの中に、肢体不自由児や、脳性まひの子供がいますから、体

育では安全と障害児への配慮もしなくてはなりませんでした。

校庭はバスケットコート1つ分のコンクリートの中庭で、この中では大勢の子供の運動量が十分に確保出来ないと思い、ジョギングや陸上運動のときは、外にでて行っていました。ところが、外に出ると近くの店へ駄菓子を買いに行ったり、どこかへ消えてしまう子供がいたり、さらに苦労が増えました。それでも、なんとか続けていましたが、ある日、子供とジョギングをしていた私は、犬に襲われて噛まれてしまいました。野良犬だったので狂犬病の注射を5本打つ羽目になりました。でも、子供が噛まれなくて良かったと思いました。エクアドルには野良犬が多くて、犬に噛まれた隊員が結構いるのです。

資料 2 に時程がのっています。日本と同じ 45 分授業です。ただし、4 時間目だけが 30 分です。けれども、給食の朝食時間が延びて多くが消滅していました。国立の小学校では、豆やキヌアと呼ばれる穀物、お米、そして飲み物による給食がありました。多くの子どもが朝食はもちろん、普段も十分に食事をとっていないので栄養状態が悪く、国から給食の食材の一部が支給されていました。

校全体が時間にルーズで、定刻に子供が集まったことがありません。少しでも、子供たちに活動時間を確保しようと活動案を工夫しても、それを実行できませんでした。時間が守られるのは、下校時刻だけでした。12:30にチャイムが鳴ると、たとえやっていることが途中でも、教室を出て行ってしまいます。スクールバスの出る時間もあるので、こちらも授業時間を延ばすわけにはいかず、予定したことを消化できずに終わってしまうことがほとんどでした。

こんなことが毎日続くので、日に日にいやになっていくのですが、このいやになる気持ち と毎日戦っていかなければなりませんでした。最初に述べた「人格」が日々試されていたわ けです。

資料 3 は日課表です。週 24 時間の授業を受け持っていました。授業と授業の間に休み時間が入っていないので、教具の準備は結構大変でした。子供たちもよく手伝ってくれました。最初、時間節約のためにその日に使う教材を予め出しておきましたが、気がつくとなくなっているので驚きました。用務員さんから、使うときに出さないと誰かが持っていってしまう、という話を聞きました。日本から持ってきた文房具や縄跳びの縄などがなくなりました。日本製は質もよく人気もありました。すべてに番号をふり、使い終わると数を確認しなければならないのがとてもいやでした。

なくなったことを、校長先生に言うと、用務員さんの子供がとった、と用務員さんに文句を言いに行くので私は困りました。用務員さんから「ものがなくなるとみんな、私の家族が犯人扱いされる」という話を聞いていました。私は、以後、物がなくならないように気をつけました。

ヒデヨ・ノグチ小学校では清掃指導はしません。清掃は用務員さんの仕事、ということになっていました。私の任地は乾燥していて、風が強いところなので、毎日埃との戦いでした。 普通教室の窓にはほとんどガラスが入っていませんでした。一度割れてしまうと、新しいガラスを入れる余裕がないからです。ですから、どの教室も埃だらけでした。音楽室は窓ガラ スが割れていなかったけれども、それでも、子供が使う椅子や机はいつも埃をかぶっているので、私は始業前にそれらを拭いていました。ある日、校長先生が、私が音楽室を掃除しているのを見て、とんできました。「それは、かおりの仕事ではない、すぐにセニョーラ・ニエベス(用務員)を呼んでくるから」と言って戻っていきました。セニョーラ・ニエベスは、自分の仕事をやめてすぐに雑巾を片手にやってきました。始業前に用務員さんが一人で学校全部の雑巾がけをするのは無理ですし、担任が指導をして子供を使って自分たちの机をふけば用務員さんはもっとほかの仕事ができるのです。私がその話をすると、用務員さんも同感で、「学校も自分のものは自分で掃除をするという教育しなければならない」といっていました。でも、先生方は絶対に掃除をしませんでした。先生自身がこぼした給食のスープさえ、用務員さんを呼んでふかせているのでした。この妙な役割分担がエクアドルのやり方なのだということでした。

私が、校庭に落ちているごみを子供に拾いなさい、と言ったときも、子どもは絶対に拾いませんでした。ごみ拾いは用務員さんの仕事だもの、と言われたときは、驚きました。一度、このことを、校長先生に話しましたが、かおりは余計なことは言うな、と言われました。

私は任地に来てから教育に関することだけでも、多くの衝撃に遭遇してきました。この衝撃に対する正直な気持ちを何とかしたいと思いました。けれども、この校長先生の考え方と、自分の短い任期を考えて、音楽と体育の授業をしっかりやることに専念したほうが良いと思いました。生徒指導上問題があったり、先生方の用務員さんに対する態度が目に余るものであったりしても、見ないふりをしました。用務員さんにはこのことを了承してもらいましたし、かおりの考えは賢明だとも言われました。この用務員さんは私のよい相談相手、グチを聞いてくれるたった一人の同僚でした。

私が時間割を作るときに校長先生にアドバイスを受けました。それは、体育は朝早いうちが良いということでした。その理由はまもなくわかりました。私の任地は赤道直下、標高 2200 メートルのところにありました。標高のおかげで朝夕は涼しいのですが、日中の太陽は強烈でした。暑さで子供たちはすぐにばててしまいます。

マット運動をしたときでした。ビニールで覆われたマットは、太陽の熱でみるみる熱くなってしまい、肌がマットに直接触れると火傷をしてしまいます。長袖、長ズボンで運動させたり、マットに水をまいたりしました。

私が初めて音楽室に入ったとき、壁に張り紙がしてありました。前任者の方が書いて張ったものでした。それには、1. ものを食べない 2. ごみをすてない 3. おしゃべりをしないと書かれてありました。それを見たとき、隊員がこれまでに3人も入ってこのレベルなのだろうか、と正直思いました。私は、それを一度ははがしましたが、まもなくまた、掲示しなければなりませんでした。

なぜ、同じことが何度もくりかえされるのだろう、しかも低レベルなことなのに改善されないのだろう、としばらく疑問に思っていました。

資料 4. をご覧下さい。私は、子供たちへの教育が定着しないひとつの理由に資料にある 数字に原因があるのではないかと思います。この数字から子供たちの中の多くは、きちんと した家庭教育が行われていない、しかも、虐待を受けていたり、なにか障害を持っていても 適切な治療を受けていないことがわかりました。この数字は、臨床心理の先生が行った個別 の面接ででてきたものです。学校全体の7割の子供が年齢に合った精神面の正常な成長を遂 げていない。これは、本当に、大きな衝撃でした。

資料 5 にあるように、多くの子供たちは、家庭でいろいろな問題に囲まれて生きています。 学校に来るだけでも、音楽室に入ってくるだけでもよしとしなければいけないと、そのとき 思いました。音楽の目的も、技術的レベルをあげることよりももっと別のものにしたほうが いいのではないだろうかと思いました。たとえば、音楽療法的な役割を持たせることです。 でも、これは私の専門外で困り。ました。その後の音楽は、音程が多少ずれていても、楽しく たくさんの歌を歌う、簡易楽器を使ってリズムを楽しむ、ことに重点をおきました。

さて、私の活動期間についてお話します。私たち、現職派遣は3ヶ月の国内訓練を含めて2年間の協力隊活動になります。ですから、実際に任国にいるのは1年9ヶ月となります。 この期間すべてを活動に充てられるかというとそうでもないのです。

資料 6 をご覧下さい。いろいろな事情があって、私が要請どおりの仕事が出来たのはわずか 1 年 1 ヶ月なのです。

途上国は日本では考えられない事情が多くあります。エクアドルは私が赴任した翌年初めに大統領選挙があり、国内が乱れていました。長期間によるストライキはそのせいです。教員の給料は安い上に遅配されていました。それも2ヶ月3ヶ月は当たり前でした。30歳の教員の給料は220ドル程度、私たちの現地手当ての330ドルをはるかに下回っています。私たちでさえ、きりつめて330ドルで生活するのがやっとで手当てを上げてもらえるように頼んでいたのに、家族を養いながら働く教員の給料がこの金額で、しかも、遅配ときています。生活がかかっているのですから、新しい政府に交渉するのは当然と思いました。ただ、政府にもお金がないものですから、なかなか解決できず、ストライキが長期にわたってしまいました。

また、エクアドルは火山国なので、火山の噴火がありました。私の任地にも降灰がありました。私も灰の除去作業を手伝いましたが、本当に大変でした。しかも断水、停電で汚れた体を洗うこともできませんでした。断水や停電は3日ほど続きました。ライフラインの普及にはとても時間がかかりました。一度、ダメージを受けるとそれらを回復させるのに非常に時間がかかってしまうのが途上国の現状です。

教育経営も整備されていないので、何か行事を行うのに、無駄な時間がたくさんありました。行事ひとつ行うのに授業が削られました。ここは、私がとてもストレスを感じた部分です。先にお話したように、私は音楽と体育以外のことでは、口を挟まないようにしていたので、ひたすら我慢でした。

私が、子供たちと向き合って仕事が出来ない時間、トータルで8ヶ月もあったわけですが、 これをどう過ごすかが私の任地での大きな課題となりました。

任地に向かう前から、空いた時間は、教材研究の他に、体を鍛えることと、スペイン語の 勉強に充てることに決めていました。けれども、それはあくまでも、学校から帰った午後の 時間のことでした。長期間のストライキがあるなんて予想もしませんでした。

任地の近くにエクアドルの首都、キトがあります。この旧市街と呼ばれる植民地時代の地域が世界遺産に指定されていたので、まず、私は、この町のガイドブックを作りました。

また、任地に動物園があったので、スペイン語で書かれた動物の紹介文を訳して「動物園ガイド」を作りました。私の活動とはあまり関係がありませんでした。けれども、エクアドルにきた新隊員には役立ちました。

また、この時間で私は千羽鶴を折りました。帰国前に、千羽鶴を使って平和のメッセージを残そうと思ったからです。子どもたちに千羽鶴を見せる前に、全員に鶴の折り方を指導しました。高学年はこれまでの隊員に少し折り紙を教わっていましたが、低学年は経験がなかったのでかなり苦労しました。でも、きれいな紙で何かを作ることは初めてだったので必死に折っていました。少々形が悪い鶴でも、大事に持って帰る姿を見てうれしくなりました。その後、朝会の時間を少しもらって広島、長崎の原爆の話をしました。千羽鶴を見せながら話をしました。子供たちはとても興味深く私の話を聞いていました。授業中おしゃべりしていた子供も真剣に聞いていました。私の話の後、校長先生が補足をしてくださいました。長期のストライキによって得た時間で意外なことができました。

苦労して余った時間を使ってみましたが、できれば、この時間、もっと自分の活動に役立つ使い方をしてみたかったです。ストライキ中は基本的に自宅待機、任地は小さな村で小さな店が数件あるだけで他にはなにもないので、自分の家の中での過ごし方を工夫しなければなりませんでした。

また、安全上の問題から、任地を自由に離れることができない事情がありました。私たちボランティアは国の代表で来ています。無責任な行動で万が一、事故や事件に巻き込まれては、多くの方々に迷惑がかかってしまいます。ですから、特に理由がない場合は、任地にいることになりました。実際、ストライキ中はあちこちで道路が閉鎖されたり、暴動が起きていたりしました。

学習態度は悪かったけれど、子どもたちは、人なつっこくて、私を「かおり、かおり」と呼んで慕ってくれました。また、私が帰国する時にくれた手紙に、「かおりは、私がちゃんと勉強しないから帰ってしまうのね。ごめんなさい。」なんて書いてありました。

ヒデョ・ノグチ小学校の職員も日本人のものの考え方や習慣に触れて、意識が少しは変わったことと思います。田舎のあまり刺激のない村に日本人ボランティアが入ったことで、異文化に目を向けるきっかけができたのではないでしょうか。

今、私は、浦安の小学校で自分の任務に励んでいます。でも、多くの厳しい条件から思いのままにならないながらも教育活動を続けている元同僚のことは忘れずにいます。ヒデヨ・ノグチ小学校の校長先生にたまに電話もしています。音楽室を取り上げられてしまうきっかけになった新校舎の建設はいまだに、資金不足から再開されていません。体育は近所の保護者にボランティアで指導してもらっているけれど、音楽は指導者がいないので授業が行われていないそうです。

帰国した現職教員が途上国の教育の実態を報告して、これからどのように援助活動をして

いったらよいかを考えていくのはとても大切なことだと思います。それぞれの場所に適した 人材の配置、必要な資金や教材などの援助をして、より多くの子どもたちが、よりよい教育 を受けることができるようになってほしいと願っています。そして、この報告が少しでもそ のお役に立てればと思います。

\$

-100-

ヒデヨ・ノグチ女子小学校に関する資料

1. 児童数 約300人

学年	人数(人)
1 年	49
2 年	57
3 年	50
4 年	51
5 年	50
6 年	43

※1, 2年は各学年2クラス、 3~6年は1クラス

※1,2年は学級担任制、3~6年は教科担任制。

国語、算数、理科、社会の4教科。音楽、体育は協力隊に頼っていた。

2. 時程

1時間目	7:30~8:15
2 時間目	8:15~9:00
3 時間目	9:00~9:45
朝食・休憩	9:45~10:30
4時間目	10:30~11:00
5 時間目	11:00~11:45
6 時間目	11:45~12:30

3. 日課表

時間 / 曜	月	火	水	木	金
日					
1時間目	G -6	G-2A		G-5	G-3
2 時間目	M-1A	G-2B	G-1B	G-1A	M-1A
3 時間目	M-1B		G-4	M-2B	M-2A
4 時間目	M-4	M-2B		M-1B	
5 時間目	M-6	M-3	M-5		M-3
6 時間目		M-5	M-6	M-2A	M-4

G-体育 ₩-音楽

4. 児童の実態

	1年	2 年	3 年	4年	5 年	,6年
感情未発達	5	13	18	9	9	5
精神障害	12	19	15	13	14	8
言語障害	2					
行動障害	3					
鏡文字		5	14	10	2	
運動障害		7	2	8	2	2
心配性		,	1	7	1	
臆病さ			2	1		
感情形成完成	26	11	17	15	15	26

単位:人

- ※ 感情形成完成 30%、精神・感情障害 70%
- 5. 精神障害・感情障害の原因
- ① 家庭内のもめごと
- ② 家庭内暴力
- ③ 身体的、精神的扱いの悪さ
- ④ かわいがりすぎ・過保護
- ⑤ 放任·愛情不足
- 6. 活動期間(1年9ヶ月)について ※ 実際の活動期間:約1年1ヶ月

現地語学研修	6 週間
夏休み	7 週間
クリスマス休暇	11 日間
学校行事準備のための休	2 週間
校	
その他の祝日	2 週間
火山爆発による休校	6 日間
大統領選挙による休校	3 日間
ストライキによる休校	51 日間

7. 45 分の流れ(音楽)

時間(分)	学習内容
2	- 挨拶の歌
10	- 出席の確認
1	- めあての確認
20	・歌、リコーダー、鍵盤ハー
	モニカの練習をする。
10	・次時の予告、次時に学習す
	る歌の歌詞やメロディーをノ
	一トに写す
2	▪終わりの挨拶の歌

〇45 分の流れ(体育)

時間(分)	学習内容 .
1	- 挨拶
10	- 出席の確認
10	・準備体操
1	・めあての確認
20	・主運動
3	・整理運動と挨拶

南アフリカで教育サポートの活動をして

平成 15 年度 1 次隊 南アフリカ 理数科教師 五 味 房 子

į

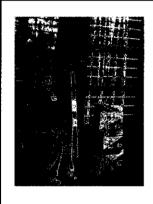


南アフリカで 教育サポートの活動をして

15年度1次隊 南アフリカ共和国 理数科教師 長野県東御市立北御牧中学校 五味房子



まずやったことは、「家職出資」。 学校には少しの薬品や実験器具はあったのですが、 先生方はやり方がわからなかったり、生徒数が多すぎてできなかったりで、授業で実 験をしている先生はほぼ皆無でした。 そこて実験道具や薬品を持って学校へ行き、先生とともに実験をしたのです。 (実験終了後に記念撮影、試験哲をはじめて持った高校3年生たちです。)



ですが、私たちは車の運転が許可されておらず、遠く離れた学校に行くには、教員センターの草を可とか予約して使うか、先生に迎えに来てもらうしかありませんでした。したがって、近い学校や、先生が草を持っている学校に偏ってしまいました。

(先生のお迎えを待つ私。1時間遅れ くらいはザラ。)



生徒たちはとても一生懸命。先生方も、政府から1年で行うべき実験の数が指定されているので、そのノルマが消化できるということで歓迎してくれました。

(力学台車の実験の説明を聞く生徒たち。まさに黒山の人だかり。)



においのある有害な気体の発生する実験は外でやりました。「有害」と聞くだけで おびえてしまい、少しにおいをかいだだけでも倒れてしまう子もいました。 学校中にくさいにおいが流れ、魔女が来たと思われた学校もありました。

(硫化水素の発生する実験を、外で。)



南アフリカでも中和浦定は大人気。でも、実験器具の名前からしてぜんぜん知らず、 やっぱり実際に使って覚えることは大切なんだと実態。 (ホールピペットの使い方の説明。ピペッターがないのでロで吸うのですが、勇気ある男子生徒が失死の覚悟の面持ちで取り組んでいました。)



生徒教がどんどん増加しているのは大きな問題です。このクラスは、語学の授業中 だったとはいえ、なんと70人います。 (後登は校長先生。全校のクラスに連れて行ってくれて紹介してくれました。)



塩れているが3xもそのまま。落ちそうな天井や、屋根がない教室で勉強している 学校もありました。 (放課後の教室、比較的設備がそろっている高校の普通の教室。)



突風で被舎が飛び、とりあえず荷物を運び込んだ職員室の一角。こうなってしまう と度してもらうのは相当先になってしまう。 (かろうじて残った般室にすし詰めで授業は行われていました。)



時には先生や校長先生に頼まれて、生徒相手に冬期諸曹などをやったりしました。卒業試験を抱えて、生徒の皆さんは必死。 (でも基礎学力が低くて、到底入試問題には太刀打ちできていません。)



突然先生が異動されられ、娘えてくれる人がいなくなってしまった学校へ行って 接業をしたりもしました。10割る5すら、計算機を使います。 (オームの注別の練習問題を修く高校2年生たち。繰り返し練習の大切さは、こ の学校の先生には伝わったようです。)



次に力を入れたのは、先生力を集めてのワークショップ。先生方が実験方法を知らない、どころか、指導内容すら怪しい分野がある先生もチラホラ。政府から各地区に配分された実験キットを使ってできる実験を主に紹介しました。 (合力の実験の説明、平行四辺形の書き方から指導。)



さきほどの学校は地区内でも最高級の理科室を持っています。でも、されいな 遠しの蛇口からは水が出ません。水を吸んできて、このように流して実験器具 などを洗います。 (普段も汲んだ水で生活しているので、とても上手に洗っていて感心しました。)



先生たちもとても一生観命。でも、授業を自習にしてきてもらうことは申し訳ないと思ったし、交通手段がなくてこれない先生も多かった。 (上奥天秤の使い方でケンケンゴウゴウの議論。3人とも結構なベテランの先生。)



学校はいくつかを地区ごとにまとめてクラスターを作っていて、そのクラスター ごとにワークショップをしたリテストを共有しあうなど協力し合っていました。 その会議に参加して助賞もしました。 (一番近い地区のクラスターミーティング。リーダーさんによって活動にはかなり 差があった。)



だんだん名前が売れてくると、自分の担当地区内だけでなく、もっと大きなワークショップでのプレゼンを頼まれたりもした。大勢だと実験をみんなにしてもらうわけにもいかず、しゃべりで伝えなくてはならないので大変だった。でも先生たちは熱心に聞いてくれた。

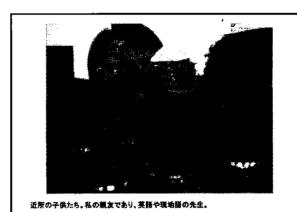
(私の変な英語を必死に聞いてくれている先生たち。)



特に物理の実験にはみんな苦しんでいた。波を視覚的にとらえる実験。 なんとも理解に苦しんでいる様子だった。 (ただですら美語が足りないのに、なんと説明したらよいやら・・・)



配属された教員センターは普教員養成大学として使われてはて、実験室には大量の薬品や実験道具が山と詰まれていました。その中には地域の高校に配られるべきものも多く、全部あけて中身を確認する作業も最初にしました。 (何年も放置された硫酸のふたなどは腐食して危険な状態でした。まさに宝の持ち腐れ状態。)

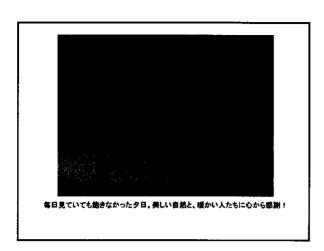












エチオピアでの活動報告: 現職教員・コンピュータ技術隊員と して参加して

平成 15 年度 1 次隊 エチオピア コンピュータ技術 鈴 木 圭



エチオピアでの活動報告

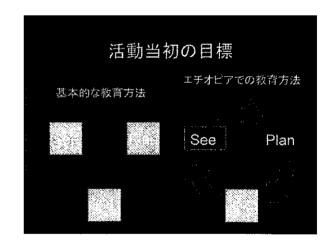
現職教員・コンピュータ技術隊員として参加して 鈴木 圭

任地。エチオピア。デブラブラハン

要請内容

高等学校において情報の授業が始まったが教師の知識・技能不足で教科書をそのまま教えている状況である。

しかし、実際には高等学校での授業をするには十分な知識・技能があった。



その後の目標

生徒への直接指導を通して

- b 学習効率の向上(教材作成)
- 。 学習方法の指導(予習・復習)
- 。その他(整理整頓)

注意事項

- 既存の道具をできるだけ活用する。
 - 教科書、モニターなど。
- □ 勤務校の実情
 - * Preparatory School での一般教養としての情報教育

現職教員として

- 』日本の教育現場と途上国における教育 現場を比較する事ができる。
- 日本で多岐にわたる仕事をしている。 ■分掌部、クラス担任、部活動
- 日本での人脈を持っている。
 - □対教師、対生徒

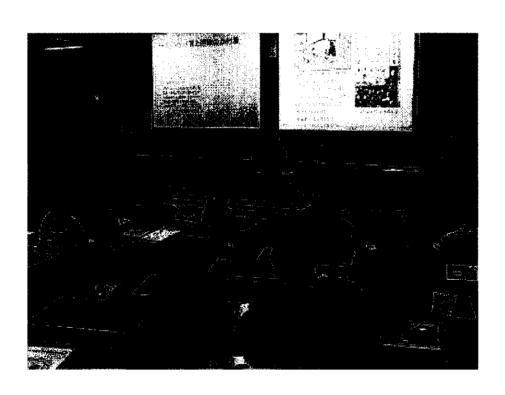
ひけつ

- □無理をしすぎない。考えすぎない。
- □健康に留意。
- 任地でもできる趣味を。
- ※任国、任地、そこの人々を好きになる。

複式学級と授業研究

礒田 正美 (筑波大学教育開発国際協力研究センター)

į



複式学級における授業研究

派遣現職教員支援課題代表者 確田正美

筑波大学教育開発国際協力研究センター

複式学級であることを活かす

- 少人数であることを生かす
- ・異年齢集団であることを生かす
- 子ども同士が協力関係にあることを生かす

水ンジュラスの授業

指導内容の組み合わせ

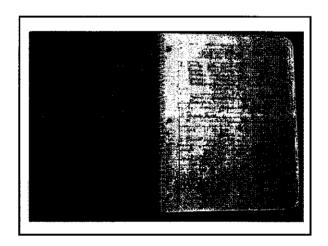
- ・異なる内容の組み合わせ(学年別指導)
- ・類似内容や同一内容の組み合わせ(同単元 指導)
 - 類似な内容の指導
 - 同じ内容の指導
 - 同じ内容の異程度指導
 - 同じ内容の同程度指導

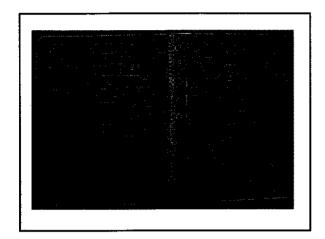
指導方法の工夫

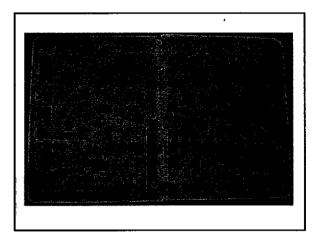
- ・ 直接指導と間接指導を組み合わせること
- 少人数のよさを生かすこと少人数の学び方を工夫すること
- ・ 興味関心を生かすこと
- 算数のよさがわかるようにする
- ・ 問題解決を重視すること

複式学級の指導計画と指導案の特徴

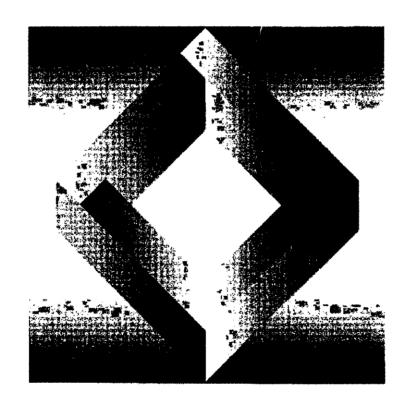
- ・ 異学年を同等に併記
- 何故、そのような指導法を採用するのか;教科の特質
- わたり、ずらしの功罪
 - -機械的な指導薬からの脱却(自ら学び自ら考える)
 - 途中で授業が次の時間になる不思議を越えて
- ・学び方を学ぶ工夫
 - 一人学び・供学び







小学校複式学級指導資料 算数編



平成7年10月
文部省

小学校復式学級指導資料算数編作成協力者 (五十音順) (第力者の報名は平成7年9月末日現在)

伊東 辛子 岩手県新里村立刈屋小学校教頭

井上 裕夫 東京都杉並区立高井戸第四小学校校長

川久保順平 北海道函館市立本通小学校校長

柴田 録治 愛知教育大学教授

清水 静海 筑波大学数青学系助教授

中村 亨史 東京学芸大学附属世田谷小学校教諭

羽中田彩記子 東京都荒川区立第三峡田小学校教諭

向山 宜義 東京都教育庁指導部主任指導主事

山口志保子 富山県氷見市立一朝小学校校長

山戸 歓治 茨城県連絡市立中野西小学校校長

なお、文部省においては、次の者が本書の編集に当たった。

上杉 道世 初等中等教育局小学校課長

西板 昇 初等中等教育局小学校課教育課程企画室長

- 吉武 弘喜 九州大学学生部次長(前初等中等教育局小学校課教育課程企画官)

吉川 成夫 初等中等教育局小学校課教料調查官

藤野 公之 初等中等教育局小学校課長補佐

小学校複式学級指導資料 算数編

目 次

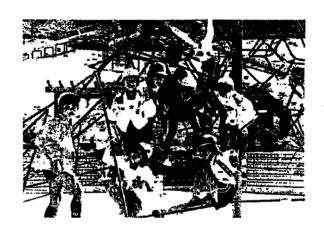
۵àr			<u></u>		44	-	إذا	. 4	TI. #	- 4		1.4	z.		**	-	10	n A	¥.	1.7	10	-24									* > * * *		=
7	1	Lj			7.	(33)	إنتر	- 35	X٠	· €	יכ	13 '	☜.	77-	31. X	· •	TV		5 -1		7 E		7		•								J
第	1	飾	í	鴐	T.	学	及	: *	sij	5	*	野	省司	ţ	***	• • • •	•••	30 y	•••	•=•	••••	***	• * •	***	****	***	***	****	25+4	•••	***		5
	1		襥	3 0	7	嚴	D‡	計價	۲Ł	学	改	硅	Ľ	***	+4+1	••••	***	***	•••	***	••••	•••	•••	•••	••••	***	***	••••		••••	••••	× + # #	5
	2		档	*	内	客	O.	13	e	ゎ	Ą.	ヤj	計画	力	注	K	D)	Ď.	b	6	I;	夫·		***	• • • • •	744	***	****	****	****	••••	••••	7
	3		指	4	Ł	Ø)	77	Č,	ī ··	****	***	**.**	****	***	***	• • • •	***	•••	.+*	• • •	****	**	***			- b #		***	****	••••	• • • • •	•••	10
第	2	賱	1	*	数	PI (クキ	21	排	4	Ø.	I.	夫…	***	*45	.,,	~; • k • •	***	***	• × E	444	• 11		•••		***	• • • •		14 4 4 4	***		+++	12
	1																																
	2		數	¥	Ŕij	Q.	Ħ,	しブ	j O,	育	戍			***		• • • •	***		k 4 A	• * •	****		***	***	+ to + H +	***	***		144 Y P	***		***	15
	3		自	2	実	現	٢.	Εđ	. 3	基	産	4 3	E Z	0.	推	ä	•••	***	***	•••		•••	•••	•••	• • • •	***	••••	***	****	****	****	• • • •	17
裳	3	鮹																													****		
	1																														****		
	2		描	#	H	麗	F	ġ,o)進	本	的	なき	*;	した	ĵ	2>6	***	****	***	461	7444		***	***	4.40 V	***	***	***	****	****		***	22
èn	,	ን ፣			1	ræ.	, 4	i.	n.	₩	3	ı.	滥	m	98		X	•••	***	***	****		•*•							****	* 4 * 4 *		26
-																																	
第	1	Ħ																															
	1																														****		
	2		推																												*****		
		(1)																												*****		
		(2)							-																					****		
		(3	į																												****		
		(4)																												****		
		(5	(4		
		6)	3	•	4	年	ſF	4 }	. 政		盖		١,٦	71.	įį	••			•••		2 6 S	**	***1	****	****	***	****	****	***	****	***	-69

だ、整理の段階で、ノー また、本時では、でき

ころを学年別グループ学習によって教え合い。学び合う仕組みは、そう難しいものではない。しかし、ともすれば学習が安易になりやすく「一人学び」がおろそかになる傾向が出てくるので、リーダーを中心にして、「一人学び」の時間を「共学び」の時間をしっかりと区別して、学習を進めるように、声がけしていく必要がある。

4年生は、前時に3年生と共に学習した「棒グラフ」に表したものを基にして、折れ線グラフにしていくのであるが、この時に使ったOHPのシートがよい効果をあげている。棒グラフと折れ線グラフの関係やその特徴を考察するのに役立つものである。ただ、整理の段階で、ノートにどのようにまとめるか、作成したシートはどのように児童のノートに残せるか、課題である。

また、本時では、できるだけ両学年が学習の上で交流し合う場面を多くするようにした。



指導 用混合

I 単元について

- 1 単元名 3年 円と球
- 2 単元の目標

[3年]

- ① コンパスを用いて、いろいろな大きさの円をかいたり、 模様をかいたりする。(算数への関心・意欲・態度)
- ② 課題に対して、見通しを立てて考えることができる。 (数学的な考え方)
- ③ 与えられた直径や半径の大きさの円を、コンパスを用いてかくことができる。(数量や図形についての表現・処理)
- ④ 円や球について、中心及び半径や底径について知り、その関係がわかる。(数量や図形についての知識・理解)

[目標設定の理由] [3年]

円については、第2学年までに、「まる」という用籍を用い 「角がない」「転がる」「煙突の形」など概形的・機能的な面 4年 垂直と平行

[4年]

- (1) 定規や三角定規を用いて、平行線を調べたり、かいたり する。(算数への関心・意欲・態度)
- ② 2直線の位置関係を角に着目して判断したり、説明したりすることができる。(数学的な考え方)
- ② 2枚の三角定規を用いて平行線や垂直になる直線をかく ことができる。(数量や図形についての表現・処理)
- ② 2 直線について平行や垂直についての位置関係がわかる。(数量や図形についての知識・理解)
- ⑤ 角の関係がわかり計算で角の大きさを求めることができる。(数量や図形についての表現・処理)

[目標設定の理由] [4年]

平面図形については、頂点の数、辺の長さ、角の大きさな どの構成要素を基にして、三角形や正方形・長方形の考察を

२

からとらえてきている。この学年では、円を数理的に見ていくことが中心になる。すなわち、円は1点(中心)から等距離にある点の集合であるという約束(定義)や直径と半径の関係などをとらえさせる。また、円の発展として球についても円と同様のことが言えることを類推し確かめていくようにする。更に、円をかく用具としてコンパスのあることを知らせ、コンパスの機能について理解させたり、使い方になれさせたりすることも大切である。その際、作ったり、かいたり、測ったりなど具体的な操作を通して定義などを発見していく過程を大切にすることが重要である。

ここで学習した内容は、求積を考えるときの基礎になるし、 コンパスは多角形の作図などに用いられる。 してきている。しかし、平面図形の構成要素としては、辺の 位置関係・対角線の長さや交わり方、角の大きさなどがあり、 それらをもとにして考察をより深めていく必要がある。

ここでは、それらの構成要素を理解させるために、2 直線の位置関係の考察を取り上げることにした。2 直線の位置関係としては、交わる場合と交わらない場合がある。交わる場合については、その時できる角の大きさの関係を調べさせ隣り合う2つの角の和が180℃なることや向かい合う角の大きさが等しいことなどを発見させる。また、交わらない場合については同位角や磐角の等しいことを見つけ出すようにする。特にここでは、単なる発見で終わるのではなく、それらが生きて働くことができるよう十分かいたり調べたりする活動を取り入れるようにしたい。

3 単元の指導計画 (「指導上の配慮事項」の中にある①。②等の数字は単元の目標との関連を示している。)

. 3	#	4	年
主立学習内容	指導上の記律事項	主な学習内容	指導上の配線事項
第1次 円·············3時間 1時 円の中心 (本時)	 よく回るコマを作るために、コマ の心棒を適す穴を、どこにすればよ いかを考えたり決めたりさせる。 (②④) 		- 2本の直線をいろいろかかせ、どんな場合があるか分類をさせることによって、2本の直線の位置関係をわからせる。 (②④)

2時	半径と直径	中心を通る直線をかかせて潤ったり、中心を通るように折ったりすることによって、半径と直径の関係を	2時	垂資な直線のかき方	- 三角定規2枚で、30°、45°、60°。直 角に交わる2直線をかかせ、そのか き方になれさせる。 (①②)
3時	円の概念	確かめさせる。 ((⑤)) - 中心から等距離にある点を工夫してたくさんとらせることによって。 円の概念を理解させる。(⑥)		平行3時間 交わらない場合	• 同位角や錐角の位置関係にある角 の大きさの予測や測定から。角の関 係をとらえさせる。 (②③)
4時	模様	 コンパスを用いているいろな円をかかせることによって、コンパスの機能に気付かせる。 一下を用いた模様をいろいろ見せぞれと同じ模様をつくろうとする意欲や関心をもたせ、コンパスを用いて 		平行な直線のかき方	 三角定規2枚で、ある直線に平行な直線をかかせそのかき方になれるせる。 (①②)
第2次	球1時間 球の中心、半径、直		3時	角の求め方	・ いろいろな角を計算で求めること ができるようにする。 ((⑤)
第3次	往 練習問題2時間	り確かめたりさせる。(②④) ・ 円の概念の理解やコンパスの使い 方の習熟を遡る。(①④)	第3次	練習問題 2 時間	・ 二直線の位置関係や書き方。斉の 求め方の習熟を図る。 (①⑤)

II 本時の展開計画

1 子供の実態

[3年]

まとまりのある学年で、中心はY.T(男)である。自分の意見をはっきり述べたり、論理的な意見を出したりするがやや早飲み込みで失敗することもある。A.Y(男)、N.U(女)は、努力型でY.T(男)の失敗を補うことができる。また、活動的

[4年]

最近下級生の面倒を見るようになってきている。特にN.H (女) はお姉さんとしてふるまえるようになり、思いやりのある様子が見られるようになった。そのためクラスの雰囲気も明るくなった。S.I (男) は、運動・学習とも優れ、また性

2 本時での配慮事項

用することにしたい。

[3年]

本時は、円の中心を見つけることがねらいである。来材として各種の大きさのめんこと竹串を準備し、よく回るコマ作りをさせる。試行難誤でめんこに穴を開けていくのではなく。どこに関ければよいか、またそれはどうしてかということを考えさせた上で作業に入るようにさせる。つまり、一人一人が見遇しを立てた上で実証していくという思考の基礎を養うことも身に付けさせたいからである。

また、よく回るコマとしてめんこの中心に穴を開けること になると考えられるが、中心を早く、正しく見つけるにはど うしたらよいかを追求させ中心の意味を明らかにさせたい。 なお、円という用語については円の意味を指導した後で使 格も選和であるため中心となって活動している。T.O(男)は 活動型で思いついたことをばっと出すが理論的な説明に欠け る。M.A (女) は、寡黙で窓志強く選解するまでに時間がか かる。

図形については、3年と同様楽しみな学習となっている。

[4年]

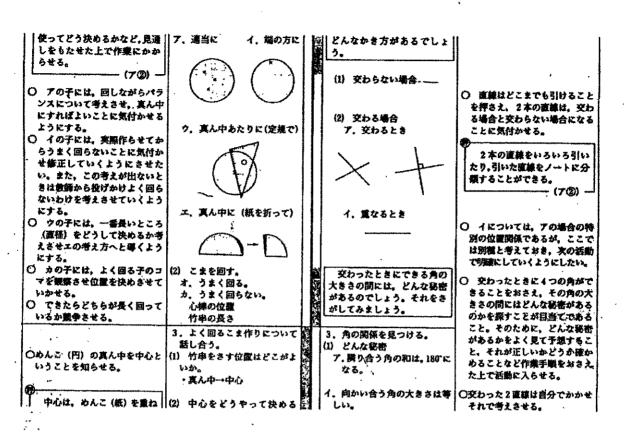
本時は、交差する2直線についての角の大きさを異べることが学習の中心である。そのために、まず2直線の位置関係をかかせ、①交わる②重なる③交わらない(平行)の3つに分類できることをおさえ、それぞれの場合にどんな特徴があるかを調べていくような課題のもたせ方をしたい。

さらに、交わる場合を取り上げ2直線によってできる4つ の角にはどんな秘密が隠されているかを探らせるようにす る。どんな秘密があるかを予想させ、分度器で調ったり計算 で求めたりしながら確かめていくようにする。

- 3 本 時 (各々の目標の後にある①、②等の数字は本単元の目標との関連を示している。)
- (1) 目 標 3年 ア よく回るコマ作りを通して、中心に着目させ、コマ(円)の中心の意味を知ったり、中心を取ったりする 仕方がわかる。(②④)
 - 4年 ア 2本の直線の交わり方を通して、舞り合う角の和が180 になることや向かい合う角の大きさが等しいこと、 直角に交わることを垂直に交わるということなどがわかる。(②②)
- (2) 展 開 (「指導上の資意点」の欄では、評価の手だてを枠に囲んで示してある。ア、イ、ウ等は本時の目標との関連であり、 ①、②、③等の数字は本単元の目標との関連である。)

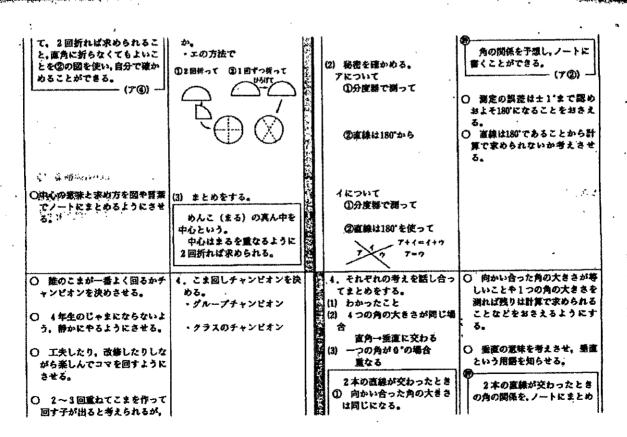
	筝	教師	4	年
指導上の留意点	子供の活動	位置	子供の活動	指導上の留意点
 ○ 準備資料として、数種類のめんこ及び竹串、千枚達しを用意しておく。 ○ 獎問点を出させ、問題点を明確にさせる。 ○ 串を刺す位置を工夫して決めることが課題であることをとらえさせる。 ○ 位置を込む思り切らかにしておくよばよいかない。 	まく回るこまで作りましょう。どんなところをくようしたか書えるようにしましょう。 (1) 疑問点 ・めんこは形を変えない。 (2) 問題点 ・竹串をさす位置をどこに	では、これでは、これには、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これで	 プリントの問題をする。 プリントをする。 分度器で角を剥る。 (2) 答え合わせをする。 	○ 角を分変器で測らせる問題を 5~6 順用意する。 ○ 測定製量はま1 とし、答え合 わせをさせる。 ○ 分度器の正しい使い方を想起 させ、角度を正しく測るように させる。
どこを中心点にするか。何を	2. こま作りをする。 (1) 竹串を差す位置を決める。		2、問題を提示する。 2本の直線をかきます。	○ ノートにいろいろな場合を考えて2本の直線を引かせる。

-119-



7

낦



工夫したこととして認めるよう にする。		② 直角に交わるときを垂直 一に交わるという。	32E#T#8. (7@)
次時の課題を知り、意欲をもって調べたりするなど。主体的な学習業度を育てるようにする。	・ 中心と折った線の間には	2 5、次時の予定を知る。 (を	○ 太時の開題を知り、意欲をもって調べたりするなど、主体的な学習態度を育てるようにする。

は教師の指導位置を示している。

本学級は、3年5名(男3名,女2名)4年4名(男2名,女2名)の9名で構成されている。

3年生のめんこや円の資料については、中心のわからないものを用意する。子供と一緒にめんこを作ったり、プリントに円をか いたりするときには、簡などを用いてかかせるようにする。めんこは画用紙に同じ円をかかせ、ほさみなどで切り取らせ張り合わ せて作るとよい。また中心は、きちんと円を折って決めるようにさせる。

A年では、2直線の位置関係が3通りであることをしっかりおさえる。そのうち重なるのは1直線になることから、交わる場合 と交わらない場合の2減りになることを分析してから学習に入るようにする。本時の角の関係については、分度器で護るだけでな く、麻線が180°になることを使って筋道を立てて説明できるようにし、論証の基礎的な考えを養うようにする。

指導事例7)

-] 単元について
 - 1 単元名 3・4年 分数
 - 2 単元の目標
- ②小分数の計算問題や文章題に興味をもち、進んで解こうとすることができる。
- ②・発通数数立でて計算の仕方を工夫することができる。
- 「黴ゞ問分母分數の計算原理がわかり,それを用いて計算したり,文章類から立式し計算・求答したりすることができる。
- ③点分割も近いくつ分の大きさや、 $\frac{1}{h}$ の3個分など分数の意味がわかり、大きさを分数を用いて表すことができる。

[3年]

- ⑤ 同分母分数の計算は $\frac{1}{h}$ の大きさを基にすると分子どうし の計算でよいことがわかり計算することができる。
- ⑥ 分数を数率線上に表したり、よんだりすることができる。
- ② 量の大きさを、基の量を等分したいくつ分と見たり、 $\frac{1}{b}$ ② 量の大きさを分数を用いて表したり、真分数や仮分数・ のa個分などと見たりする分数の意味がわかるとともに、 分数の用語や表し方がわかる。

- ⑤ 帯分数どうしの計算の仕方がわかり、計算することがで
- ⑥ 分数を数直線に表したり、よんだりすることができる。
- 帯分数等の用語の意味と使い方・相互関係がわかる。

-122-

本書に掲載した写真は、本文の内容とは無関係である。 なお写真は、次の学校から提供していただいた。 北海道上張郡木古内町立釜谷小学校 愛知県鎮田郡学田町立灰谷小学校 愛知県鎮田郡韓田町立形益小学校

MESSC 1 -9511

小学校模式学級指導資料

算数編

平成7年10月20日 初版第1刷 平成12年10月5日 初版第2刷

著作権所有 文 部 省 発 行 者 錦 織 与 志 二

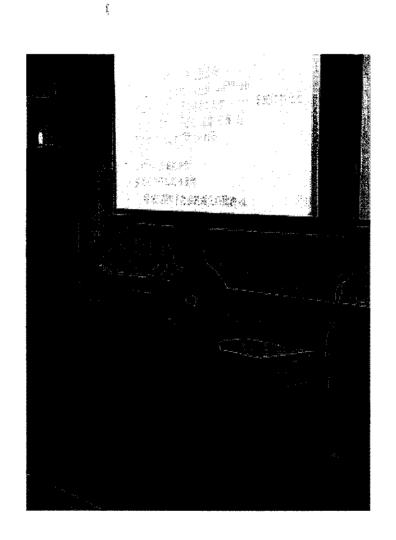
(発行所) 株式会社 東洋館出版社 東京都千代田区神田浅路町2-13 電話東京03 (3253) 8821-4 振替 00180-7-96823

Printed in Japan

ISBN4-491-01219-9

アーカイブへの成果登録の方法

小原 豊 (筑波大学教育開発国際協力研究センター)



平成17年4月13日 於 筑波大学学校教育局

1



青年海外協力隊平成17年度1次隊 派遣前研修



e アーカイブによる 日本の教育協力経験の共有化

小原 豊(Yutaka OHARA) CRICED, University of Tsukuba



はじめに

- e アーカイブとは何か?(what)
- なぜ e アーカイブなのか(whv)
- 誰が e アーカイブを用いるのか(who)
- いつ、どこで e アーカイブを用いるのか(when) (where)
- どうやってe アーカイブを用いるのか(how)
- e アーカイブのもたらす未来の国際教育協力



そもそも アーカイブとは何か?

アーカイブ(archive) とは

- ·文書館《公的·歴史的文書の保管所》。 《文書館の》保管文書.
- ・保管・転送などのため、複数のファイルを(通例 圧縮して) つにまとめたもの。また、一般に保管用のファイルを格納 する場所・媒体》

[研究社 リーダーズ英和辞典第2版]



e アーカイブとは何か?

e アーカイブ=電子アーカイブ

インターネット上で以下のデータベースの登録と検索、閲覧等を 可能とし、拠点システムの情報発信機能を実現するもの

- ■拠点システム事業の成果物
- ■拠点システム事業に活用された各種資料、文献等
- **調その他国際協力資料の所在情報**

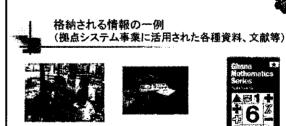
即ち、拠点システムの各事業において得られた成果を集積し、 webサイト等を通じて関係者、利用者が閲覧できるもの。 (拠点システムのハブ機能、情報発信)



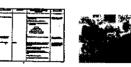
e アーカイブの特色

- * 利用者にとって一元的なアクセスの実現
- *検索可能な形式での公開
- * 文書媒体に限定されない多様なファイル形式

所在情報はもちろん、文章や映像などデータ そのものを確保することができる

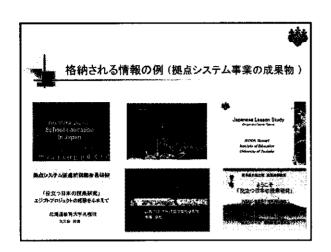


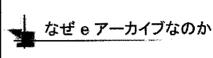






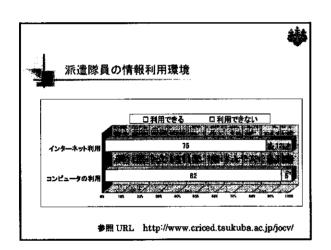


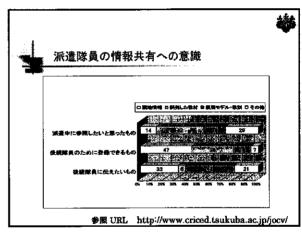


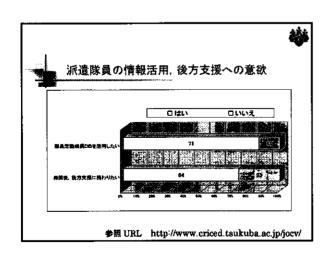


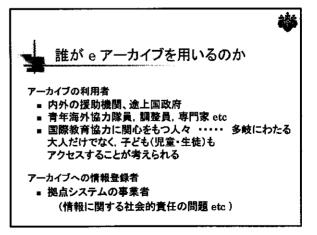
拠点システムの基本的な考え方

- あらかじめ我が国の協力経験やノウハウを体系化して整理しておくことにより、途上国のニーズに応じ教育援助関係者がこれらを自由に参照、活用することを可なる。
- 協力の質的、量的、さらには迅速性の観点からも、 開発途上国の要請に対して、的確かつ体系的に対 応できるようにする。
- → 国際教育協力に関する情報を共有する具体的手段、 拠点システム事業の成果を広く発信する場としての e アーカイブ











いつ、どこで e アーカイブを用いるのか

いつでも!

■特に派遣隊員の場合

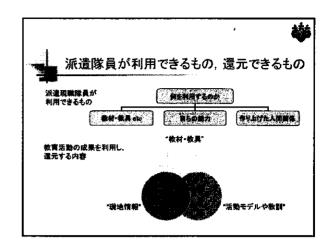
派遣前 ~ 任国の情報などを確保

派遣中 ~ 現地で即使える教材などの確保

帰国後 ~ 教育経験を活かす場として

どこでも!

インターネットが使える環境ならどこででも (ただしデータをダウンロードするにはそれなりの回線が必要)





どうやってe アーカイブを用いるのか

■ 百聞は一見に如かず実際に使ってみましょう。

http://archive.criced.tsukuba.ac.jp/



おわりに

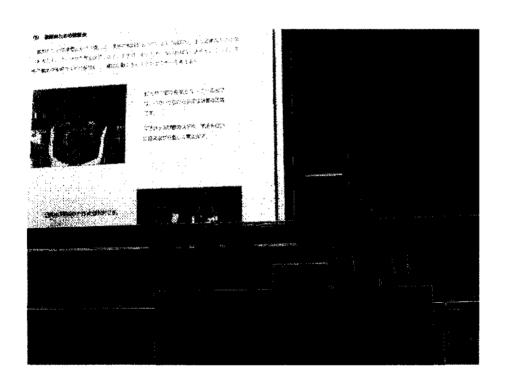
e アーカイブがもたらす未来の国際教育協力

- アクセス解析システムの調査・設計による、適切な資料の拡充 どのようなデータが利用されているかを解析し、より必要とされる データが格納されるように、データが質的に充実していく
- 遠隔情報共有・遠隔教育機能による国際理解教育の実現 データの国際教育協力への利用を促す情報共有・ コミュニケーション環境を設定することで、eアーカイブが学校での国際理解教育の充実を含めた、社会貢献を進めていく

日本の幼児教育紹介コンテンツ

清水 由紀 (お茶の水女子大学)

1



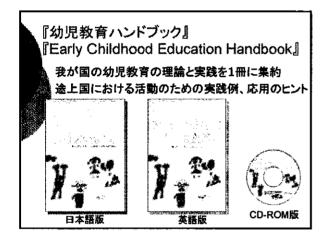
日本の幼児教育紹介コンテンツ

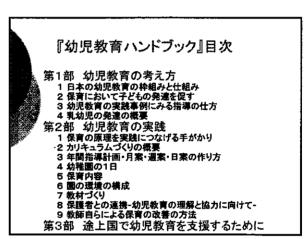
お茶の水女子大学 Ochanomizu University

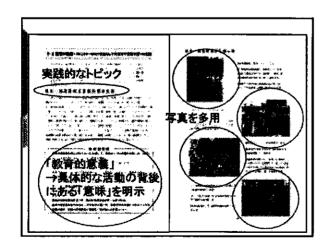
清水 由紀

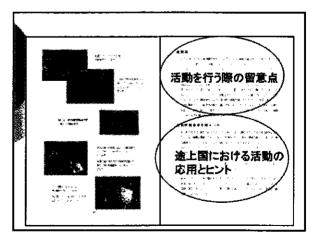
幼児教育分野におけるアーカイブ登 録コンテンツ

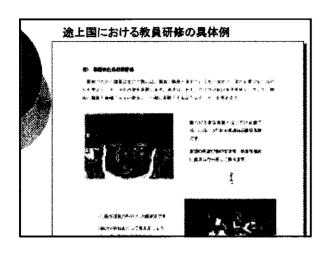
- o 323件の資料を登録済み o 日本全国の幼稚園、大学、文部科学省等による 報告書
- o 『幼児教育ハンドブック』の内容
- 本学における活動報告
 途上国現地調査報告(カンボジア、スリランカ、ネパール、ベトナム、マレーシア、パキスタン)
 JICAやNGO等による活動のヒアリング報告 セミナー・シンポジウムの記録











『幼児教育ハンドブック』活用例

拠点の研修プログラムの資料として

Aシニア海外ボランティア・青年海外協力隊の参考 として

- 。 途上国の政府や教員養成校の参考資料として
- ECDの拡大に向けた政府への働きかけの資料として (UNESCO)

『幼児教育ハンドブック』活用調査

保育のHow to本というわけではなく、教育的意 義や子どもたちの疑問に思う心、不思議がる心、 失敗を機に新たな発見をしていく過程まで丁寧に 書かれていた。

◇ 現地の先生たちに、どうしてこのような活動が大 切なのかと問われたときに、上手く説明できな かったことがハンドブックの中からわかるように説 明できると思う。

『幼児教育ハンドブック』を用いた 教員研修プログラム

日時:2004年9月20日-22日

場所:スリランカ ガンポラ地区・コロンボ地区

対象

現地の幼稚園教諭 計75名

- ◆ 教育省ECD担当官
- JICAスリランカ事務所職員、青年海外協力隊員 方法
- 講義と実技による、各1日間の研修『幼児教育ハンドブック』の一部を現地語(シンハラ語) に翻訳して配布

『幼児教育ハンドブック』を用いた 教員研修プログラム

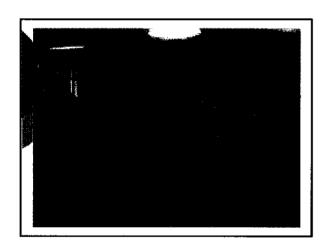
研修プログラム

- 1. 幼稚園の1日(講義)
- 2. 伝統的な文化活動の指導(講義・実技)
- 3. 言語・数量・環境の指導(講義・実技)
- 4. ディスカッション

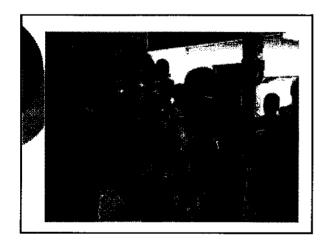










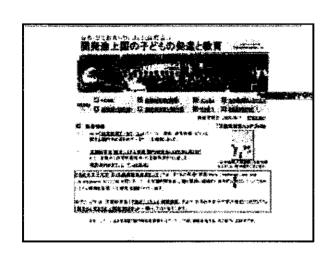


『幼児教育ハンドブック』を用いた 教員研修プログラム

研修から学んだこと> 日本とスリランカの幼稚園には多くの類似点がある 教師と子どもの間につながりを築く必要を感じた

を歌や踊りの導入を工夫して、習慣や言葉の習得を助けること

- 幼稚園を子どもたちにとって魅力的な場所にすること
- 子どもたちのために清潔で健康的な環境を作る
- →明日から始められる具体的な応用を、どこまで引き出せるか



青年海外協力隊隊員が利用できる CRICED 電子アーカイブコンテンツ紹介

鎌田 亮一 (筑波大学教育開発国際協力研究センター)



コンテンツの名称1:

『日本の教育制度と教育実践-研修のためのヴィジュアル教材 (日本語版)』

1部:教育制度の概説 (3領域)

2部:学校の教育運営 (5領域)

3部:学校の生活と文化(1領域)

(520 スライド, 約 250MB)

特徴:図・表・写真を多用、即使用可、ただし小学校教育が中心。

コンテンツの名称2:

『目的別研修モジュール (英語版)』

Module 1: School System in Japan (29 スライド)

Module 2: School Curriculum (32 スライド)

Module 3: Class Management (18 スライド)

Module 4: Relationship among Parents, Community

and School (34 スライド)

資料②

- 使用目的:日本の教育について紹介を求められた場合に使用できる。(本来の目的=途上国からの教育行政官のための受け入れ研修用教材)
- 使用方法

目的別研修モジュールをそのまま使用する。

目的別研修モジュールを修正して使用する。

教材から目的に応じてスライドを選択する。

- → 地域・目的に応じた使用方法・選択について、相談に乗ります。 電子メール criced-adm@human.tsukuba.ac.jp
- 今後の電子アーカイブへの登録予定

『日本の教育制度と教育実践-研修のためのヴィジュアル教材(英語版)』 『目的別研修モジュール(英語版)』(Module 5 →)

● 教材・目的別研修モジュールの媒体と入手方法:

電子アーカイブ (PDF版) = ダウンロード可。

パワーポイント版 = 隊員か現地事務所に、CD を預けるか送付する。

冊子(モノクロ)版 = 配布は困難。

筑波大学教育開発国際協力研究センター 特別研究員 鎌田 亮一

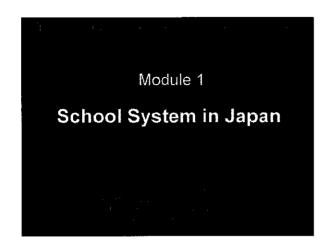
日本の教育制度と教育実践 研修のためのヴィジュアル教材

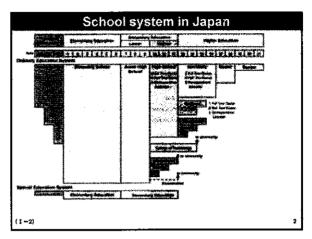
18				
I 日本の学校制度の概要	II 教育行財政	皿 日本の社会教育の報要	1	
堰内 孜	· 连田旗二	・ 1 年 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日		
,			[
1 学校教育体系	1 教育法規の体系	1 社会教育施設1(公民館)		
2 就学前教育制度	2 教育基本法	2 社会教育施設2(図書館)		
3 小学校教育制度	3 教育行政をめぐる改革動向(1)	3 社会教育施設3(博物館)		
4 中学校教育制度	4 教育行政をめぐる改革動向(2)	4 社会教育主幕		*
5 中等教育学校制度	5 教育委員会	5 青年の家・少年自然の家		
6 高等学校教育制度	6 文部科学省	6 社会教育製係団体		
7 高等専門学校制度	7 文部科学省の指導行数	7 社会通信教育		
B 大学教育制度	8 教育財政と負担構造	8 社会体育・生涯スポーツ		
9 障害児教育学校制度	9 法律に定める学校	9カルチャーセンター(民間営利社会教育事業	 }	
10 專修学校·各種学校	10 学校の設置・管理	のカルノヤーセンター(民間呂利社亜収賞学家	Í	
11 日本の近代化と公教育制度	11 学校施設・設備の基準と学級規模等の基準	! •		
THE PROPERTY OF THE PARTY OF TH	12 就学と不豊校	Ī		
	13 学校の自己評価、第三者評価			
	14 教育情報の公開・開示			
	15 学校評議員制度		•	
	16 教科書·補助教材	}		
	17 児童・生徒の懲戒	ť		
	18 特別支援教育制度	· ·		
	19 銀定教学者制度			
	20 へき地教育	[
	21 中学校夜間学級(夜間中学)			
11	22 中学校卒業程度認定試験(中検)			
11 **	22	9		
788 Ⅳ 教育提発値皮と実施	V 学級経営·生徒指導	VI 学校運営	□ 地域・保護者との連携	〒 教員資格・養成・任用・研修
新田範子	*	小島弘道・標林	水本値明	唯 教具其他'爱从'往用'明彦
無四私丁 1. 奈要	200	· • · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	· 个中语句	
1 教育課程の全体構造	1 学級経営計画	1 学校経営	4 007 4 12 12 14	4 # 8 4 24 4
2 カリキュラム開発の過程	2 学級目標	2 学校経営計画	1 PTA活動 2 家庭訪問	1 牧員の資格 2 牧員藩成
2. 教育課程の編成	3 学級活動・係活動・遊活動・日直	3 学校教育目標		
3 教育目標と教育課程	4 学級通信	4カリキュラム経営	3 授業参観	3 教員資格認定試験
→ 秋青田禄と秋青緑在 → 教育課程と学習指導要領	5 集年齡集団活動		4 保護者悪談会	4 教員の任用
		5 職員会議	5 通知票	5 教員研修
3、教育課程の実施	6 不量校	8 校長の職務・力量	6 連絡帳	6 校内研修
5 単元構成と教材研究	7 不登校の対応策	7 民間人校長	7 学校だより、学年だより、学級だより	1スクールリーダーの研修
6 指導計画と指導集	8 家庭訪問	B校務分章	8 学校のホームページ	8 教員給与
7 評価(児童・生徒対象)	8 スクールカウンセラーと「こころの教室格談	**	9 地域の人材活用	9 教員知分
8 授集評価・カリキュラム評価	10 生徒指導会議	10 学校評価	10 職場体験	
9 一斉教授・グループ学習・個別学習	11 学級貴	11 教員評価	11 地域学習	
4. 学習活動の実際例		12 学校の危機管理	12 学校評議員	
10 各教科		13 学校選択制	13 学校開放	ł
11 道徳	ľ		14 複合施設	
12 特別活動1(学級活動・ホームルーム)			15 子ども金	
13 特別活動2(児童会活動・生徒会活動)		18 地蒙教育連絡協議会	
14 特別活動3(クラブ活動)	l		17 子どもの110番の家	
15 総合的な学習の時間:環境・福祉・国際	原理解等の体験活動) -		18 保護者支出の学校教育費	
16 部活動				
16	11	13	18	9
900 ja valta kan kan kan kan kan kan kan kan kan ka	to a succession and the succession of the succession and the successio			
区 学校の生活と文化				
村田賈夫・鐵田亮一				
学校の行事	教師の一日	子どもの一日	学校の生活	
1 (項目一覧)	16 (項目一覧)	29 (項目一覧)	48 (項目一覧)	
2 入学式	17 朝の金	30 集団豊校	47 あいさつ	
3 始果实	18 授業の準備	31 朝の金	48 集団の規律	
4 全校朝礼	19 教える	32 学級の係り	49 名前·名札	
5 進足	20 教えための技術	33 授業の前	50 給食の協働	1
6 運動会 1	21 中体み・昼休み	34 授業中	51 そうじの場所	
	** *	35 中休み・墨休み 1	52 じゅんびとかたづけ	1
7 運動会 2	22 給食の時間 1	no diblinh Which I		
8 持久走	23 給金の時間 2	36 中休み・墨休み 2	53 くつと上ばき	
			53 くつと上ばき 54 掲示物 1	
8 持久走 9 宿泊学習 10 修学旅行	23 給食の時間 2 24 そうじの時間 25 帰りの会	36 中休み・墨休み 2	·	
8 持久走 9 福泊学習 10 修学旅行 11 健康診断	23 給金の時間 2 24 そうじの時間 25 得りの会 26 職員盗	36 中休み・墨休み 2 37 中休み・墨休み 3	54 掲示物 1	
8 持久走 9 宿泊学習 10 修学旅行 11 健康診断 12 避難訓練	23 給金の時間 2 24 そうじの時間 25 得りの会 26 職員盃 27 教育のつくえ	36 中休み・星休み 2 37 中休み・星休み 3 38 遊ぶ	54 掲示物 1 55 掲示物 2	
8 持久走 9 宿泊学習 10 修学旅行 11 健康診断 12 避難訓練 13 音楽会	23 給金の時間 2 24 そうじの時間 25 得りの会 26 職員盗	36 中休み・墨休み 2 37 中休み・墨休み 3 38 遊ぶ 38 始会の前後 40 秘会の時間 41 秘会の献立	54 福示物 1 55 福示物 2 56 福示物 3	
8 特久走 9 褶泊学習 10 修学旅行 11 健康診断 13 音楽会 14 終棄式	23 給金の時間 2 24 そうじの時間 25 得りの会 26 職員盃 27 教育のつくえ	36 中休み・墨休み 2 37 中休み・墨休み 3 38 遊ぶ 38 給食の前後 40 給食の時間	54 福示物 1 55 福示物 2 56 福示物 3 57 揭示物 4	
8 持久走 9 宿泊学習 10 修学旅行 11 健康診断 12 避難訓練 13 音楽会	23 給金の時間 2 24 そうじの時間 25 得りの会 26 職員盃 27 教育のつくえ	36 中休み・墨休み 2 37 中休み・墨休み 3 38 遊ぶ 38 始会の前後 40 秘会の時間 41 秘会の献立	54 福示物 1 55 福示物 2 56 福示物 3 57 福示物 4 58 保健室	
8 特久走 9 褶泊学習 10 修学旅行 11 健康診断 13 音楽会 14 終棄式	23 給金の時間 2 24 そうじの時間 25 得りの会 26 職員盃 27 教育のつくえ	36 中休み・墨休み 2 37 中休み・墨休み 3 38 遊ぶ 38 始会の前後 40 純金の時間 41 純金の献立 42 職員金	54 福示物 1 55 福示物 2 56 福示物 3 57 福示物 4 58 保健室 59 船会接	
8 特久走 9 褶泊学習 10 修学旅行 11 健康診断 13 音楽会 14 終棄式	23 給金の時間 2 24 そうじの時間 25 得りの会 26 職員盃 27 教育のつくえ	36 中休み・墨休み 2 37 中休み・墨休み 3 38 遊ぶ 38 始会の前後 40 総会の時間 41 総会の除立 42 職員重 43 帰りの金	54 福示物 1 55 福示物 2 56 福示物 3 57 福示物 4 58 保健室 59 給食後 80 記錄, 責任	
8 特久走 9 褶泊学習 10 修学旅行 11 健康診断 13 音楽会 14 終棄式	23 給金の時間 2 24 そうじの時間 25 得りの会 26 職員盃 27 教育のつくえ	36 中休み・墨休み 2 37 中休み・墨休み 3 38 遊ぶ 38 粒食の前後 40 粒食の耐菌 41 乾食の敵立 42 戦員室 43 帰りの金 44 下校	54 福示物 1 55 掲示物 2 56 掲示物 3 57 福示物 4 58 保健室 59 給食袋 80 配録, 責任 81 校章-校歌	
8 特久走 9 褶泊学習 10 修学旅行 11 健康診断 13 音楽会 14 終棄式	23 給金の時間 2 24 そうじの時間 25 得りの会 26 職員盃 27 教育のつくえ	36 中休み・墨休み 2 37 中休み・墨休み 3 38 遊ぶ 38 粒食の前後 40 粒食の耐菌 41 乾食の敵立 42 戦員室 43 帰りの金 44 下校	54 福示物 1 55 掲示物 2 56 掲示物 3 57 掲示物 4 58 保健室 58 保健室 50 記録、責任 81 校章-校歌 62 制限	
8 特久走 9 褶泊学習 10 修学旅行 11 健康診断 13 音楽会 14 終棄式	23 給金の時間 2 24 そうじの時間 25 得りの会 26 職員盃 27 教育のつくえ	36 中休み・墨休み 2 37 中休み・墨休み 3 38 遊ぶ 38 粒食の前後 40 粒食の耐菌 41 乾食の敵立 42 戦員室 43 帰りの金 44 下校	54 福示物 1 55 揭示物 2 56 揭示物 3 57 揭示物 4 58 保健室 59 航負接 60 配條, 責任 81 校章-校歌 62 制服 83 国旗-時計	
8 特久走 9 褶泊学習 10 修学旅行 11 健康診断 13 音楽会 14 終棄式	23 給金の時間 2 24 そうじの時間 25 得りの会 26 職員盃 27 教育のつくえ	36 中休み・墨休み 2 37 中休み・墨休み 3 38 遊ぶ 38 粒食の前後 40 粒食の耐菌 41 乾食の敵立 42 戦員室 43 帰りの金 44 下校	54 福示物 1 55 揭示物 2 56 揭示物 3 57 揭示物 4 58 保健室 59 約章線 60 紅線, 責任 61 核章-校歌 62 制服 83 国旗-時計 64 卒業記念	
8 特久走 9 褶泊学習 10 修学旅行 11 健康診断 13 音楽会 14 終棄式	23 給金の時間 2 24 そうじの時間 25 得りの会 26 職員盃 27 教育のつくえ	36 中休み・墨休み 2 37 中休み・墨休み 3 38 遊ぶ 38 粒食の前後 40 粒食の耐菌 41 乾食の敵立 42 戦員室 43 帰りの金 44 下校	54 福示物 1 55 揭示物 2 56 揭示物 3 57 揭示物 4 58 保健室 59 約6發 60 配錄、責任 61 初駁 83 国旗-時計 64 卒棄記念 65 優榜族-賞伏	
8 特久走 9 褶泊学習 10 修学旅行 11 健康診断 13 音楽会 14 終棄式	23 給金の時間 2 24 そうじの時間 25 得りの会 26 職員盃 27 教育のつくえ	36 中休み・墨休み 2 37 中休み・墨休み 3 38 遊ぶ 38 粒食の前後 40 粒食の耐菌 41 乾食の敵立 42 戦員室 43 帰りの金 44 下校	54 福示物 1 55 揭示物 2 56 揭示物 3 57 招乐物 4 58 保赦食粮 60 紀錄,責任 81 校章 · 校歌 82 制服 83 国旗 · 時計 64 年 集除之, 黄杖 66 男女共学	
8 特久走 9 褶泊学習 10 修学旅行 11 健康診断 13 音楽会 14 終棄式	23 給金の時間 2 24 そうじの時間 25 得りの会 26 職員盃 27 教育のつくえ	36 中休み・墨休み 2 37 中休み・墨休み 3 38 遊ぶ 38 粒食の前後 40 粒食の耐菌 41 乾食の敵立 42 戦員室 43 帰りの金 44 下校	54 福示物 1 55 揭示物 2 56 揭示物 3 57 福示物 4 58 保健室 59 納食袋 80 紀錄、責任 81 校章-校歌 82 朝服 83 国旗-時計 64 卒業能-實状 66 男女共学 67 保護物育	
8 特久走 9 褶泊学習 10 修学旅行 11 健康診断 13 音楽会 14 終棄式	23 給金の時間 2 24 そうじの時間 25 得りの会 26 職員盃 27 教育のつくえ	36 中休み・墨休み 2 37 中休み・墨休み 3 38 遊ぶ 38 粒食の前後 40 粒食の耐菌 41 乾食の敵立 42 戦員室 43 帰りの金 44 下校	54 福示物 1 55 揭示物 2 56 揭示物 3 57 报示物 4 58 保健室 59 紀韓 (項目数数
8 特久走 9 褶泊学習 10 修学旅行 11 健康診断 13 音楽会 14 終棄式	23 給金の時間 2 24 そうじの時間 25 得りの会 26 職員盃 27 教育のつくえ	36 中休み・墨休み 2 37 中休み・墨休み 3 38 遊ぶ 38 粒食の前後 40 粒食の耐菌 41 乾食の敵立 42 戦員室 43 帰りの金 44 下校	54 福示物 1 55 福示物 2 56 福示物 3 57 招示物 4 58 保健室 59 配数、責任 81 校章・校歌 83 国旗・時計 64 卒業配念 65 優徐波・賞 67 保健等 68 飼育・環地 69 守きなもの・きらいなもの	項目総数

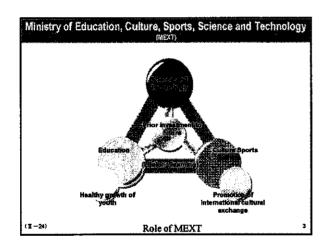
```
I Outline of Japanese School Ed. II Educational Administration & Finance III Outline of Japanese Social Education
    Tartomu Horivohi
                                       Shinii Kubota
                                                                                      Akitoshi Taunhi
                                                                                    1 Social Education Facilities 1 (Citizen's Public Hall )
  1 School system
                                     1 System of Lew
  2 Pre-school Educational Institution 2 Fundamental Law of Education
                                                                                    2 Social Education Facilities 2 (Library)
  3 Establishment of Elementary Schot 3 Movement of the Reforms of Education Administ 3 Social Education Facilities 3 (Museum)
  4 Lower Secondary Education System 4 Movement of the Reforms of Education Administ 4 Supervisor for Social Education
  5 six-year secondary achool system 5 The Board of Education
                                                                                    5 House for Youth & Children's Natural House
  8 System of upper secondary school 6 Milestry of Education, Culture, Sports, Science s 6 Social Educational Organization Concerned
  7 System of College of Technology 7 Quidence Administration by MEXT
                                                                               7 Social Correspondence Education
  & System of University
                                     B Educational Finance and the Burden Structure
                                                                                    8 Social Education & Life-long Sport
  9 System of echool for disabled child 9 Schools Provided by the School Education Law 9 Cultural Center
  10 System of Specialized Training Col 10 Establishment and Management of School
 11 Moornization of Japan & Public 11 Critaria of School Facilities and Criteria of Class Size
                                    12 Enrollment and No-Attendance
                                    13 Salfe-Evaluation / Third Party Evaluation of School
                                    14 Disclosure of Educational Information
                                    15 School Councilor System
                                    16 Textbooks and Supplementary Materials
                                    17 Disciplinary action against children and students
                                    18 Specially Supported Education System
                                                                                            İ
                                    19 Student of Permitted Enrollment System
                                    20 Education of Children in Isolated Areas
                                    2? Evening Lower Secnondary School
                                    22 Lower Secondary Equibalency Examin
                                                                                  VI School Management
IV Organization & Implementation • V Class-room Management & Guidance
                                                                                                                                 WE Cooperation between schools and local communities WE
                                                                                                                                                                                                     Teacher's Qualification, Training, Appointment
                                                                                                                                       Tkuski Mizumoto
    Noriko lida
                                       Hirohumi Hamada
                                                                                       小鳥弘道
    1 Detline
  1 Total Structure of Curriculum 1 Class-room Menagement Plan
                                                                                     1 School Management
                                                                                                                                    1 PTA: Parents and Teacher Association
                                                                                                                                                                                                    1 Teacher's Qualification
  2 Process of Curriculum Develop: 2 Class Objective
                                                                                     2 School Management Plun
                                                                                                                                    2 Visits to children's homes
                                                                                                                                                                                                    2 Pre-service Training of Teachers
   2. Organaization of Curriculum 3 Class Activities, Group Activities, Day Duty
                                                                                    3 Educational Objectives of School
                                                                                                                                    3 Visit on class
                                                                                                                                                                                                    3 Equivalency Examination of Teacher's Qualification
  3 Educational Objectives & Curric 4 Class Newsletters
                                                                                     4 Curriculum Management
                                                                                                                                    4 Parente and Teacher Montine
                                                                                                                                                                                                    4 Appointment of Teacher
  4 Curriculum & Course of Study 5 Group Activities of the Various Aged
                                                                                    5 Teachers' Meeting
                                                                                                                                    5 The Report Card
                                                                                                                                                                                                    5 In-service Training of Teachers
    3. Implementation of Curriculum 6 School Refusal
                                                                                     6 Principal's Duty & Competence
                                                                                                                                    6 Note for Communication Between Temphers and Guardians
                                                                                                                                                                                                    6 School-based Training
  5 Organization of Units & Materia 7 Measures of school Refusal
                                                                                     7 Principal
                                                                                                                                    7 School newsjetter, Grade newsjetter, Class newsjetter
                                                                                                                                                                                                    7 School-leader's Training
  6 Lesson Plan
                                   8 Visits to Children's Homes
                                                                                     8 School Management Duties
                                                                                                                                    8 the School's Home Page
                                                                                                                                                                                                    6 Teachers' Salaries
  7 Evaluation of Study
                                                                                     8 Head-teacher System
                                                                                                                                    9 Utilizing Human Resources of Community
                                                                                                                                                                                                    9 Punishment for Teachers
  8 Evaluation of Class, Evaluation - 10 Guidance Meeting
                                                                                                                                   10 The Working Experience
                                                                                    10 School Assessment
  9 Fermation of Guidance
                                   11 Class fee
                                                                                   11 Evaluation of Teachers
                                                                                                                                   11 Community learning
                                                                                   12 School Risk Menagement
    4. Examples of Curriculum Activities
                                                                                                                                   12 School Councilor
  10 Subjects in Elementary School
                                                                                   13 System of School Choice
                                                                                                                                   13 The Opening Schools for the Public
 17 Moral Education
                                                                                                                                   14 Complex Facilities
 12 Special Activities 1 (Class Activities)
                                                                                                                                   15 Kodomo-kai (Children's Gathering)
 13 Special Activities 2 (Students Council)
                                                                                                                                   18 Local education finison council
 14 Special Activities 3 (Ckib Activities)
                                                                                                                                   17 110 Home for Children
 15 The Period of Integrated Study
                                                                                                                                   18 Education Costs Paid by Guardians
 18 Club Activities
                                                                                   13
                                                                                                                                   18
    Yokuo Murata & Ryolchi Kamada
            School Events
                                                   A Day of a Teacher
                                                                                                  A Day of a Students
  1 (tune List)
                                    16 (Items List)
                                                                                   29 (Items List)
                                                                                                                                   46 (Items List)
  2 Entrance Caremony
                                    17 Morning meeting
                                                                                   30 Attending to school in a Group
                                                                                                                                   47 Greeting
  3 Opening Ceremony
                                    18 Preparation for Class
                                                                                   31 Morning Meeting
                                                                                                                                   46 Collective Discipline
  4 Whole School Marning Assembly
                                    19 Teaching Classes
                                                                                   32 Class-based activities
                                                                                                                                   49 Name, Name Card
  5 School Eventsian
                                    90 Skills to Tasch
                                                                                   33 Before Class
                                                                                                                                   50 Cooperative Work for School Lunch
  6 Athletic Meeting 1
                                    21 Repesses
                                                                                   34 Class Hour
                                                                                                                                   51 Places for cleaning
  7 Athletic Meeting 2
                                    22 School Lunch 1
                                                                                   35 Recesses 1
                                                                                                                                  52 Preparing & Clearing up
  8 Marathon race
                                    23 School Lunch 2
                                                                                   36 Recesses 2
                                                                                                                                   53 Indoor Shoes
  9 Outdoor Study with Ladeing
                                   24 Cleaning Time
                                                                                   37 Recesses 3
                                                                                                                                  54 Notice 1
  10 School Trip
                                    25 Meeting before going back
                                                                                   38 Playing
                                                                                                                                   55 Notice 2
 11 Medical Chack-up
                                    26 Teachers' Room
                                                                                   39 Before & After School Lunch
                                                                                                                                   56 Notice 3
 12 Flee Drill
                                    27 Teacher's Desk at Class
                                                                                   40 School Lunch
                                                                                                                                   57 Notice 4
 13 Music Festival
                                    28 Instruction to Student
                                                                                   41 School Lunch Menu
                                                                                                                                   58 Nurse's Office
 14 Closing Geramony
                                                                                   42 Teachers' Room
                                                                                                                                   59 School Lunch Baz
 15 Graduation Coremony
                                                                                   43 Meeting before going back
                                                                                                                                   80 Recording, Responsibility
                                                                                   44 Getting out of School
                                                                                                                                   61 School Emblem, School Song
                                                                                   45 After School
                                                                                                                                   62 Uniform
                                                                                                                                   63 National Flag, Glock
                                                                                                                                   64 Memorial for Graduation
                                                                                                                                   65 Testimonisi
                                                                                                                                   66 Co-aducation
                                                                                                                                   67 Health Education
                                                                                                                                   88 Keeping Animals, Growing Plants
                                                                                                                                   68 Preference of Students
                                                                                                                                   70 Assistant English Teacher (AET)
```

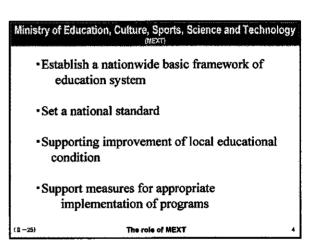
70

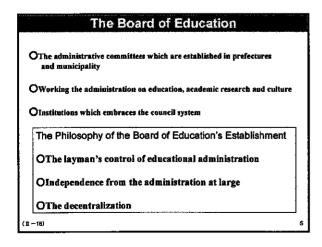
179 項目數數

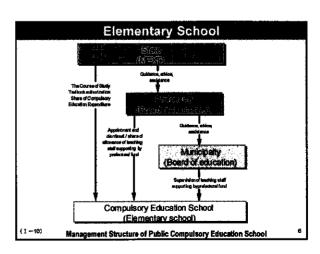












Pre-school Education Kindergartens as pre-school educational

OEducational facilities which is superintended by MEXT

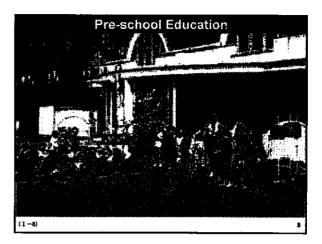
OThey target children of 3 to 5 years old

institutions

Integration of two tier systems of pre-school education

OThe dualism of day care centers and kindergartens

OThe demand of the unification due to the decline in the birth, the change in work situations, administrative and financial efficiency, etc.



Elementary School

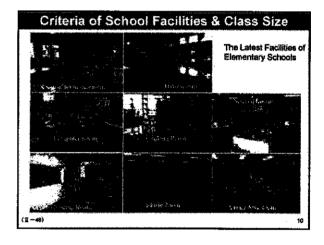
Establishment

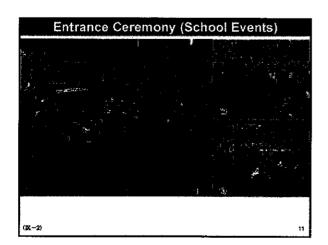
- Establishment by the State, local governments, and incorporated educational institutions
- Compulsary school establishment (municipalities) and compulsory school enrollment (person who has perental authority)

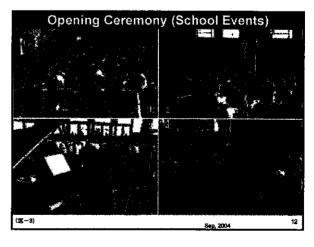
Management

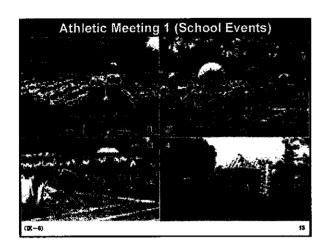
- * Management and burden of the expenses by founder (Principle of management of fonder, expense-burden - the School Education Law, Article 5)
- *System of the National Treasury's Share of Compulsory Education Expenditure
- * System of teaching staff supporting by prefectoral funds
- *Administration by municipel board of education

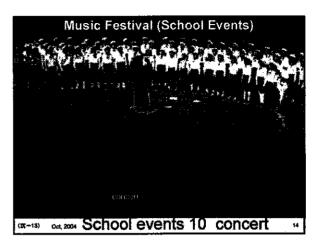
(I —8)

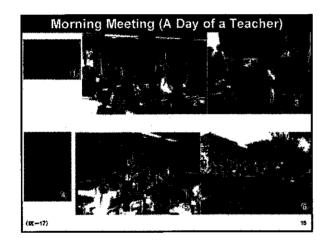


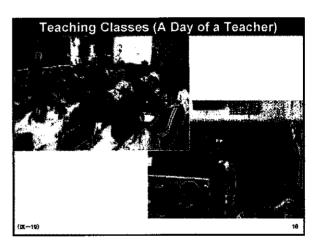


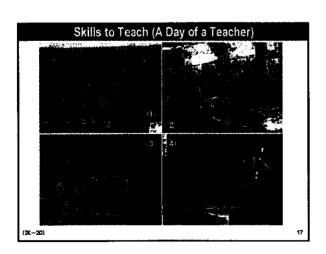


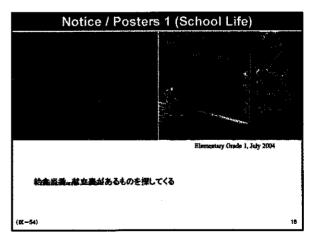


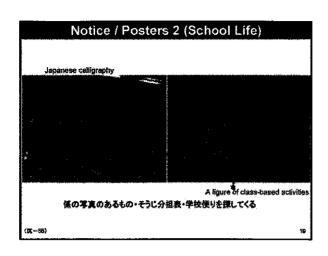


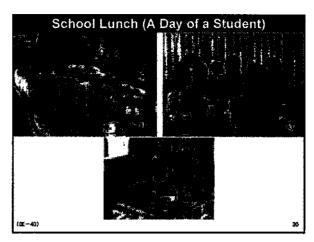


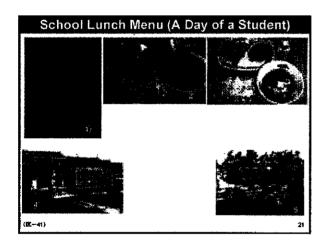


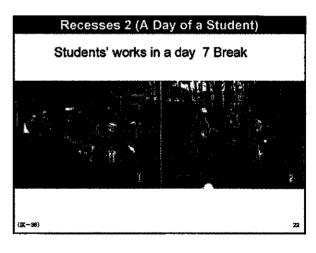


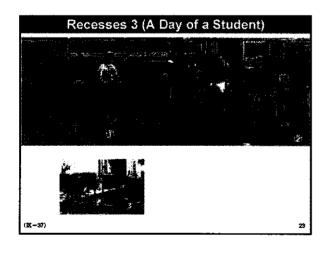


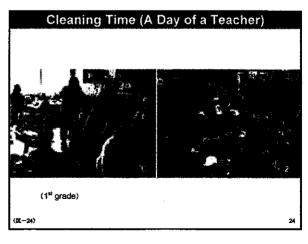


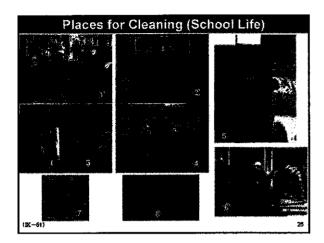


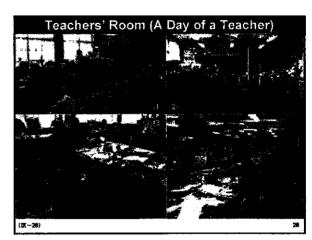












Oladividual lower secondary educational institutions in the single-track 6-3-3-4

Office guarantee on the secondary education as compulsory educational institutions

- Offstablishment by the country or not mornies or educational corporations

 O Municipalities' obligation to establish compulsory school and abligation of a person who has parental authority to enroll children for compulsory school
- O Dualization of compulsory secondary education by making lower secondary schools by prefectures

Administration

- O'Administration and expense-burden by the founder (Principle of management of founder, expense-burden the School Education Law § 5)
- OSystem of the National Treasury's Share of Compulsory Education Expenditures
- OThe system of teaching statf supported by prefectural funds QAdministration of the municipal board of education

System type of upper secondary school:

- OFull-time school
 - part-time course
- correspondence course
- OGrade system credii system O'Ordinary education department
- Specialized education department
- Comprehensive department
- OGeneral education course
- Advanced course Specialized course

Educational Curriculum of upper secondary school:

OSubjects, Special Activity and Integrated Study O'Ordinary autijects and Subject for specialized aducation O'Requirement for graduation; more than 74 credits

Ideas and Institutional Types of University

- Offigher educational institutions Post-secondary educational institutions
- The terriery educational institutions
- OColleges universities graduate schools
- OThe 2-year basis the 3-year basis the 4-year basis the 5-year basis the 6-year basis

Particularities of Universities in Japan

- OQuantitative expansion mass education
- OExamination competition and university stratification
- ORespect for research functions and disrespect for educational functions

Current Reformations of University

- OThe decline in the birth, reorganization and integration of universities
- OThe conversion of colleges into 4-year universities
- O Turning national universities into newly independent administrance Institutions
- Oprofessional graduate schools

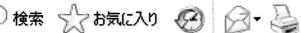
(I **–2**9)

20





















)拠点システム現職ver.1.0¥index.html





点システ 派遣現職教員支援

Project iese Teacher Working Oversea



CRICED University of Tsukuba



c-支援システム Project outline e-support system



国際教育協力 シンポジウム International Symposium

派遣現職教員 メーリングリスト Mailing list for dispatched teachers



国際理解協力 プロジェクト Global Education Project



派遣前研修資料 調査報告書 Document Research Report

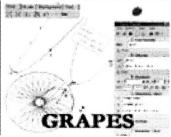


関数グラフ 描画ソフト Function Graphing Software **GRAPES**

作成教材 考リンク集 Teaching materials Links



派遣現職教員 へのアクセス Access to dispatched teachers



Contact us

お問い合わせはこちらまで jocv@criced.tsukua.ac.jp

Copyright (c) 2004, Math Division in CRICED, University of Tsu

OLILIAO (O 4 OOO 4 | LIIII III III III.

ICT 能力拡充研修 資料

青山和裕,茅野公穂,宮川健 (CRICED - University of Tsukuba)



ICT能力拡充研修

筑波大学 CRICED 宮川 健、茅野公穂、青山和弘

ICTって?

Information and Communication Technology 情報 通信 技術

何のための ICT か?

- ・ 教育実践のための Net Meeting, メッセンジャー
 - 情報収集、実践ツール・教具として利用
- 情報発信のための ICT

- 経験の伝達、共有 ホームページ、掲示板、メーリングリスト、etc.

- 海外生活のための ICT
 - 情報収集、<u>コミュニケーション</u>、etc.

Skype, メッセンジャー

コミュニケーション

コミュニケーション=双方向の情報発信

- 同期コミュニケーション
 - 電話
- テレビ電話
 - チャット

Skype MSN メッセンジャー Yahooメッセンジャー, etc.

- 非同期コミュニケーション
 - 掲示板
 - e-mail
 - _ メーリングリスト

ICT を用いた情報発信手段

- ホームページ(電子掲示板 BBS を含む)
- ・メールマガジン
 - E-mail による情報の配信
- ・ ブログ (Weblog)
 - 日記的な Web サイト
 - 掲示板用途にも利用可
- ウィキ (Wiki)
 - 共同 Web サイト、共同での情報発信
 - 時系列の整理を行なわない

情報:どのような?

- 文章(テキスト)
- 画像(写真等のイメージ)
- ・映像(ビデオ) _____

ビデオ編集技能が 必要となってくる

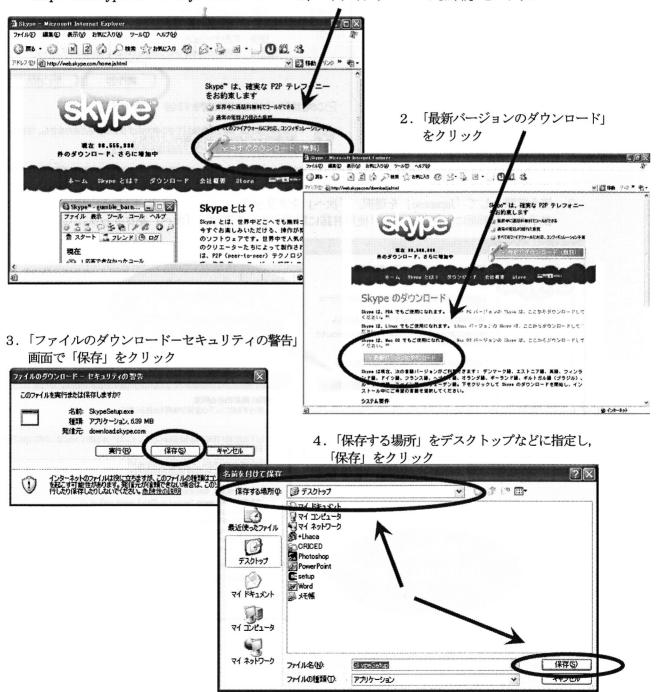


Skype (スカイプ) は、インターネットを使った IP 電話ソフト (ソフト代無料) です。利用者同士なら通話料無料で世界中の 相手と通話ができます。派遣隊員同士や帰国隊員との情報交換・連絡をはじめ、ご家族との連絡にも使えます。

Skype を手に入れよう(ダウンロードしましょう)

http://www.skype.com/intl/ja/ に変更されています ('05.5.13 現在)

1. http://web.skype.com/home.ja.html にアクセスし、「今すぐダウンロード(無料)」をクリック



Skype をインストールしよう

1. (ファイルのダウンロードが完了したら) 「SkypeSetup」ファイルをダブルクリックする。



インストールが始まります。

開いているファイル - セキュリティの警告

発行元を確認できませんでした。このソフトウェアを実行しますか?

名前: SkypeSetup.exe
発行元: 不明な発行元
種類: アプリケーション
発信元: C**Documents and Settings**Administrator**デスクトップ

東行(限) キャンセル

「マンの種類のファイルであれば常に警告する(W)

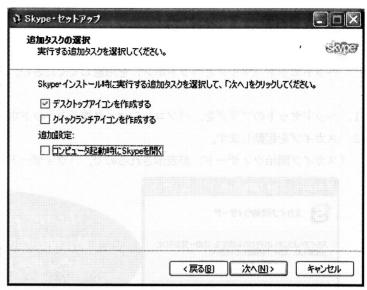
このファイルには、発行元を検証できる有効なデジタル署名がありません。信頼できる発行元のソフトウェアのみ実行してください。 実行することのできるソフトウェアの詳細を表示します。

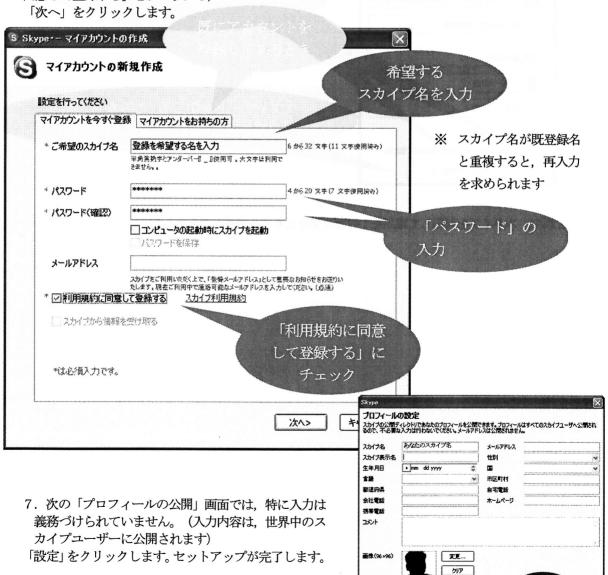
2. 「実行」をクリック。スカイプの

3. 使う言語として「Japanese」を選択、「次へ」をクリック。 表示される画面にしたがって、「使用許諾に同意する」を選び、「次へ」をクリック。



- 4. インストール先が表示されます。 (「C:\Program Files\Skype\Phone」 など。変更可) 「次へ」クリック。
- 5.「Skype-セットアップ」の画面が表示され、必要に応じてチェックを入れたりはずしたりし、「次へ」をクリック。ファイルが展開され完了します。
- 6. 最初にスカイプを起動すると「マイアカウントの作成」画面が表示されます。ここで「スカイプ名」や「パスワード」を設定し、「利用規約に同意して登録する」をチェックし、「次へ」をクリックします





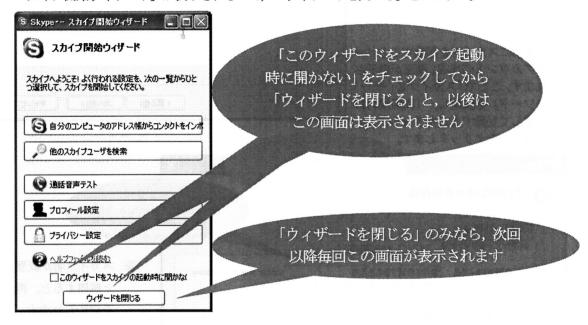
キャンセル

Skype を使ってみよう

ヘッドセット(マイクとヘッドホン)を用意してください。店頭では安いもので二千円程度です。

- 1. ヘッドセットのプラグを、パソコンのマイク端子とヘッドホン端子に差し込んでください。
- 2. スカイプを起動します。

「スカイプ開始ウィザード」が表示されるので、「ウィザードを閉じる」をクリック。



これで、スカイプを利用して電話をかけたり受けたりする準備ができました。

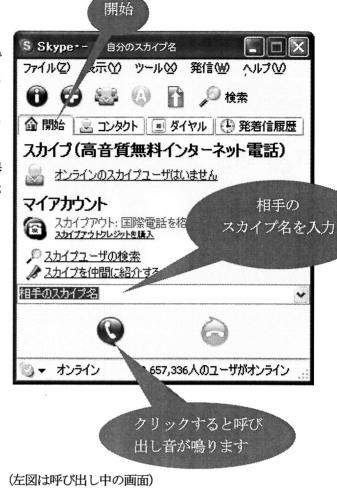
ICT 研修資料

電話をかける

- 1. スカイプ利用者同士の場合は、「開始」で
 - ・下にある欄に相手のスカイプ名を入力する または.
 - ・「コンタクト」であらかじめ登録したスカ イプ名をリストから選ぶ
- 2. スカイプ名入力欄の下にある左側の受話器 マークをクリック。電話同様の呼び出し音が 鳴り、相手が受話器マークをクリックすると 通話ができます。

(相手がスカイプを起動していないとつながり





電話にでる

スカイプを起動してあれば、電話同様の呼び出し音が鳴ります。受話器マーク(緑)をクリックすると 通話ができます。

電話をきる

右側の受話器マーク(赤)をクリック。

註1: 各種設定は、「ツール(X)」から「設定」を選択し行います。

註2: SkypeOut(スカイプアウト)という機能を使えば,固定電話や携帯電話にも電話をかけ ることができます。ただし、有料です。しかも、あらかじめ「スカイプアウトクレジット」を購入し なければなりません。

註3: 最新版を利用しましょう。



Messenger では、テレビ電話のように話をすることができます。派遣隊員同士での情報交換や、帰国隊員との連絡、さらには派遣先の教室と勤務校とをつないで

インターネットライブ授業等も行えます。

Web カメラを使えるようにしよう

以下は, Logicool 社製 Qcam Pro 4000 を使用の場合 (製品番号 QV-4000HS)

1. 箱の中から「ロジクール (Qcam Pro4000)」の袋を取り出し、中の CD をパソコンで読み込んでください。





Logicool

(0-

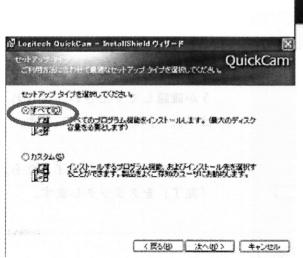
「QuickCam ソフトウェアをインストールまたは変更」をクリックします。

installShawiiFi ウィザー打まご使用のコンピュータへ Luedeshib CuckCambi ラインストールとます。「かへ」ドク リッグして、採行してください。

(果5/8) (次//個) (4+2/セル)

| | Logitech QuickCom - InstallShieldウィリード

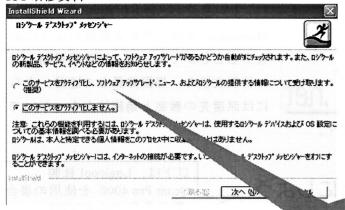
3. 「次へ」をクリックします。次の画面でも、「同意します」を選択し、「次へ」をクリックします。



「すべて」を選択し、「次へ」をクリックします。次の画面では「インストール」をクリックします。

重要な注意

ICT 研修資料

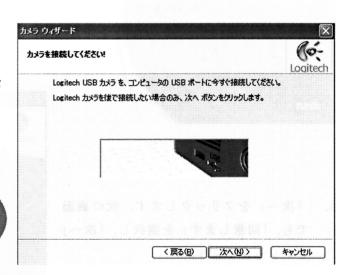


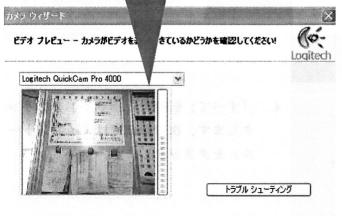
5. どちらかを選択し,「次へ」をクリックします。インストールが始まります。「アクティブ化しない」を選択した場合は,次の画面でも「いいえ」を選択しておいてください。

製品についての情報を常に更新したいときには「アクティブ化」を選択

- 6. インストールが完了したら、「完了」をクリックします。自動的に再起動します。再起 動後、画面が出たら、「次へ」をクリックします。
- カメラを接続してください。
 ※ここでは「次へ」をクリックしないでください。

カメラのフォーカ スは、レンズ周りの 黒い輪で調節



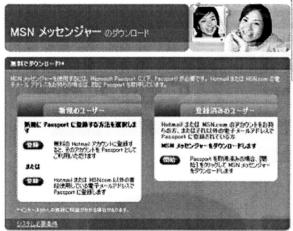


- 自分がきちんと映っているかど うか確認してください。よけれ ば「次へ」をクリックします。
- 9. カメラウィザードが完了したら, 「完了」をクリックします。

ネットミーティング 一2

MSN Messenger を使えるようにしよう

 http://messenger.msn.co.jp/ に ア ク セ ス し,「MSN メッセンジャー7.0 ダウン ロードする」をクリックします。





2. MSN にすでに登録してある方は,「開始」をクリックします。そうでない方は, Hotmail アカウントに登録(無料)するか, すでにお持ちのメールアドレスを登録してください。

Hotmailアカウントに登録



"Ohotmail.co.jp

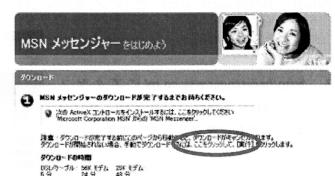
電子メール フドレス (

JT 247 -- 42

メールアドレス登録

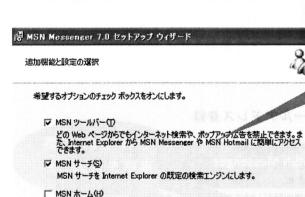
Mi 音译	それぞれ必要 SN Messenger 事項を入力
この24一人を必要 Merosoft® NET と、下に入力する サインインリン	Passport NET Passport NET Passport NET Passport NET Passport
7000	既に別が分介で、NET assport を登録している場合 は、NET Passport のサインイン・デタンをリックしてくだ さい、でっての Astmail または MSN.com の電子メール アドレスは、NET Passport として使用できます。)
例が表示されてい す。	るシャールドの情報が、NET Passport に保存されま <u>ヘルプ</u>
	人は触りかでのように使用されるのですか?
電子メール アドロ	
パスワード	図 次へ以前になる文字記上
パスワードの確認 カ	
生年月日	年(N 1690) 月 *日*週
登録チェック	この会の中に表示されている文字を入力してください(半 角変数字)。文字を入力する理由
	7 70 78C82 Kit
	西伸が見えない場合、音声(英語)と聞い
	was an analysis of the same of
	アルファベットの大文字と小文字を使い分ける必要はあり ません。

3. ダウンロードが自動的に始まらないときは、青字の「ここをクリックして」をクリックします。



- 4. 「実行する」をクリック³ します。
- インストール画面が表示 されたら「次へ」をクリ ックします。
- 6. 使用条件及びプライバシ ーに関する声明は、「同意する」を選択し、「次へ」をクリックします。





Internet Explorer のホーム ページを MSN ホームに変更します。

▼ MSN Messenger へのショートカット(R)

デスクトップとクイック記載が、「-(こ MSN Messenger のアイコンを追加します。

〈 戻る(g) 「次へ(y) ン キャ

オプションを 選択

- 7. 希望するオプションを選択し,「次 へ」をクリックします。
- 8. 「インストールされました」と表示されたら、「完了」をクリックします。



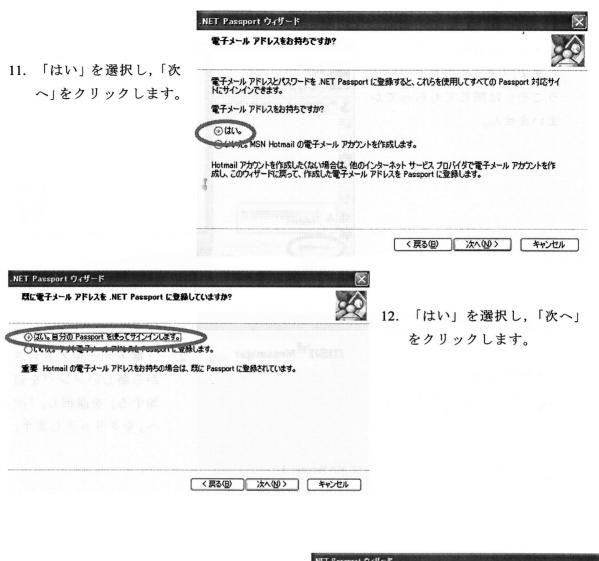
ら、「次へ」をクリックします。

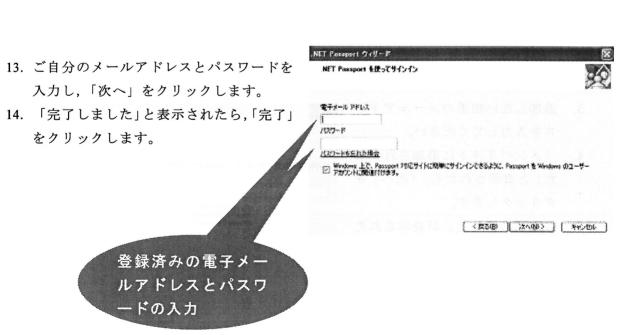
MSN Messenger
ファイル(E) メンバ(Q) 操作(A) ツール(T) ヘルブ(L)

(D) msn Messenger

常に次の状態でサインイン(Q): オンライン・
以下をかりックしてサインインします:

サインイン(S)

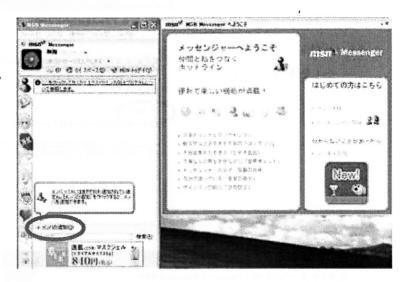


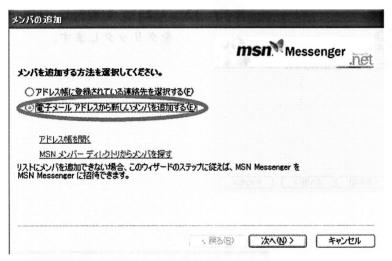


ICT 研修資料

Messenger のメンバを追加しよう

 「メンバの追加」をクリック します。「メッセンジャーへよ うこそ」は閉じてもらってか まいません。





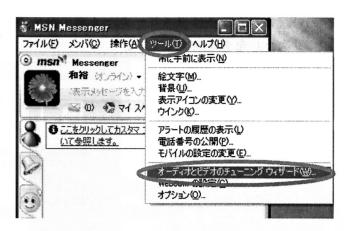
2. 「電子メールアドレス から新しいメンバを追 加する」を選択し,「次 へ」をクリックします。

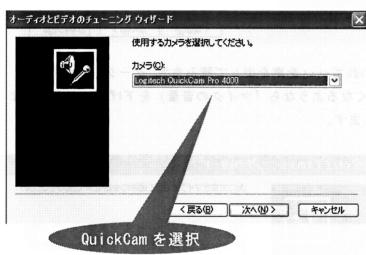
- 3. 追加したい相手のメールアドレ スを入力してください。
- 4. 「メンバリストに追加されました」と表示されたら,「次へ」を クリックします。
- 5. 「完了しました」が表示された ら,「完了」をクリックします。



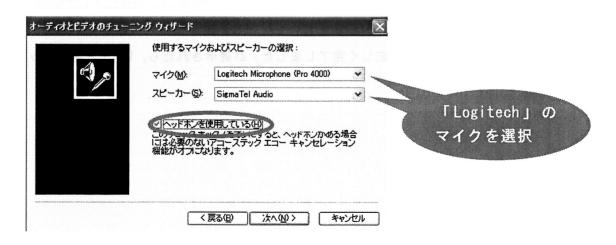
Web カメラ, ヘッドセットを設定しよう

- 1. 「ツール」メニューから「オーディオとビデオのチューニングウィザード」をクリックします。
- 2. 「チューニングウィザード」が開始されたら、カメラ、ヘッドセットを接続し、「次へ」をクリックします。



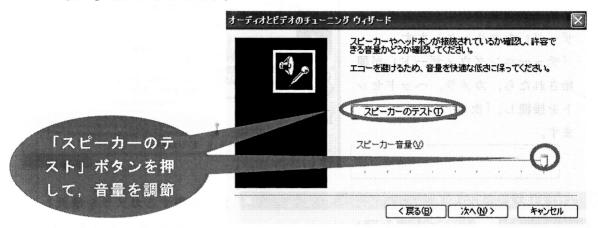


- 3. 使用するカメラを選択し, 「次へ」をクリックします。 (今回は「QuickCam」)
- 4. 画像を確認し,よければ「次 へ」をクリックします。
- 「スピーカーとマイクの配置」についての指示を確認し、「次へ」をクリックします。
- 6. 使用するマイクとスピーカーを選択し、「ヘッドホンを使用している」のチェックボックスをクリックし、「次へ」をクリックします。(今回はマイクを「Logitech」で、スピーカーはそのままで結構です)

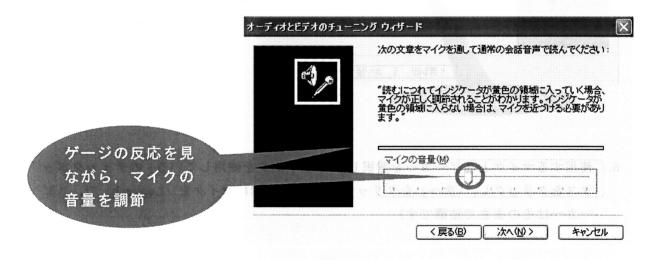


ICT 研修資料

7. 「スピーカーのテスト」をクリックし、ヘッドホンから聞こえる音を確認してください。音の大きさは「スピーカー音量」のタブを動かすことで調節できます。, よければ「次へ」をクリックします。



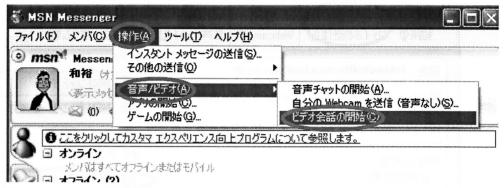
8. 表示されている文章「読むにつれて・・・」を声を出して読みます。ゲージが反応し、黄、 赤になればよいです。常に赤くなるようなら「マイクの音量」を下げてください。よ ければ、「次へ」をクリックします。



9. 「チューニングウィザードが正しく完了しました」が表示されたら、「完了」をクリックします。

ネットミーティングをしよう

- ※2 人 1 組で試してもらいます。ネットミーティングは、片方の参加者がもう片方の参加者を招待する形式で行いますので、1 人の方は Messenger をオンラインにした状態で待機していてください。
- 1. 「操作」メニューの中から、「音声/ビデオ」にカーソルを合わせ、右に表示されるウィンドウから「ビデオ会話の開始」をクリックします。



- 2. 表示されたメンバの中から、相手を選択します。
- 3. 待機している方のウィンドウに下のようなメッセージが表示されたら、「承諾」をクリ



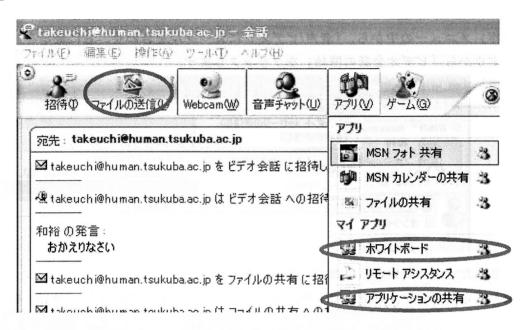
-157-

ICT 研修資料

ネットミーティング上では次のようなことができます。

- ・ファイルの送受信
- ・ホワイトボード
- ・アプリケーションの共有

など



註1:ネットミーティングを行うためには、ファイヤーウォールとの関連から、TCPのポートを設定する必要がある場合があります。

註2:最新版を利用しましょう。

ブログを作ろう!!

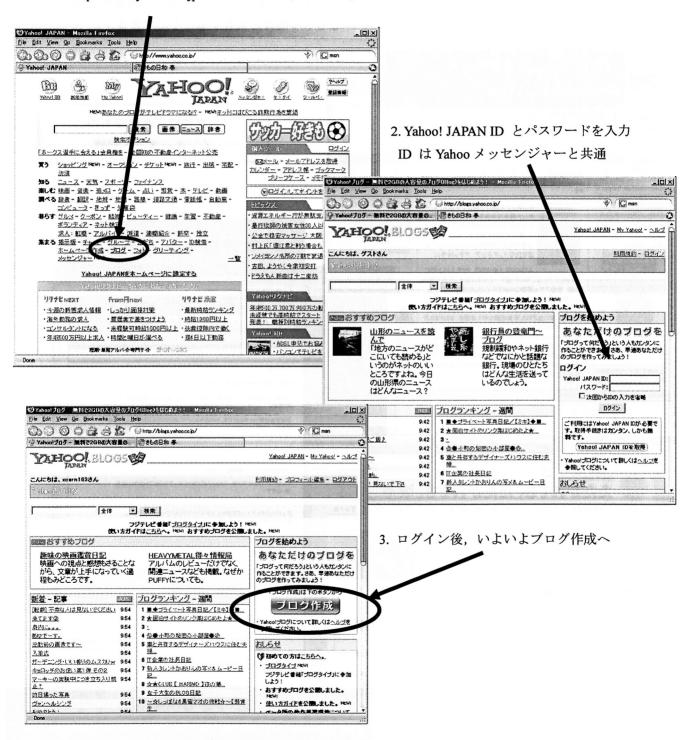
ブログは、インターネット上で簡単に構築できる日記形式の Web サイトです。多くのポータルサイト (Yahoo! Japan, MSN Japan, Livedoor, etc.) では無料で作成できます。任地での経験を情報発信することができ、貴重な経験を派遣隊員同士はもちろん他者と共有することができます。



ブログー1

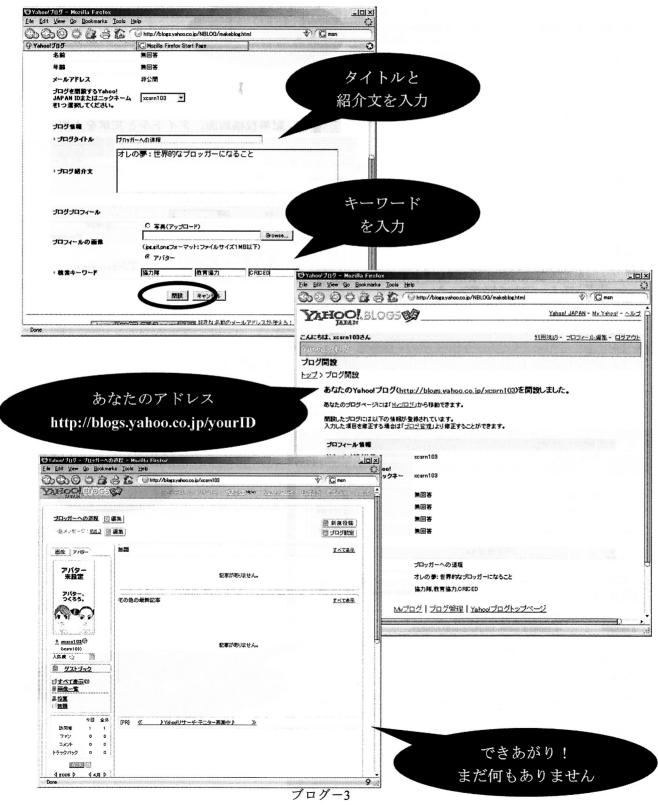
ポータルサイトにログイン(Yahoo! JAPAN の場合)

1. http://www.yahoo.co.jp/ にアクセスし,「ブログ」をクリック



ブログを開設しよう

1. 最低必要事項,「タイトル」「紹介文」「キーワード」のみ入力し開設

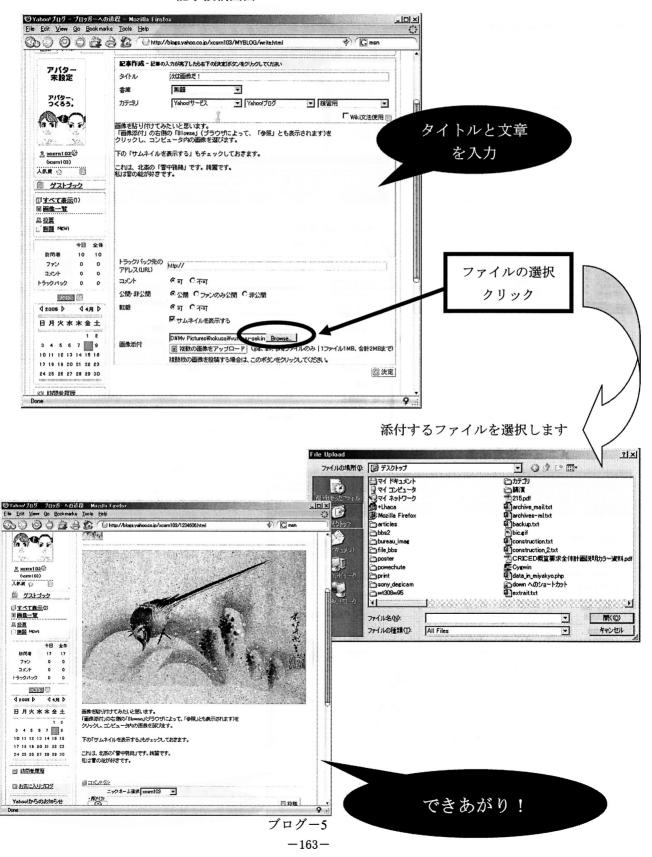


記事を投稿しよう(文章編)

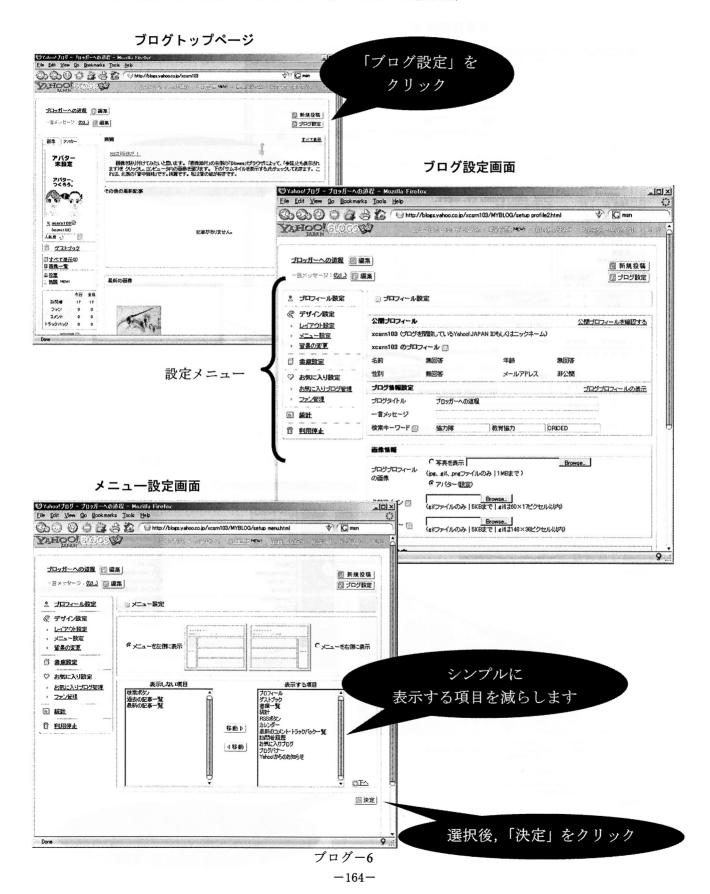


記事を投稿しよう(画像編)

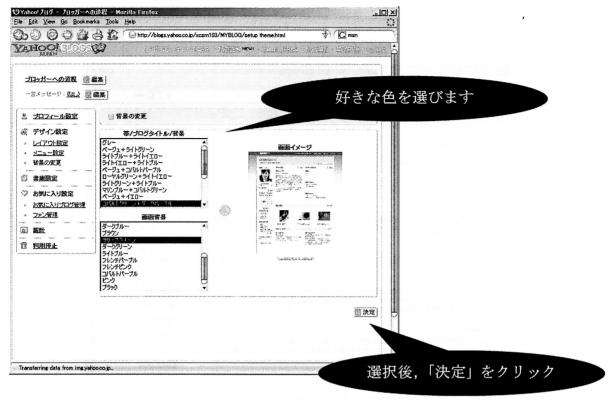
記事投稿画面



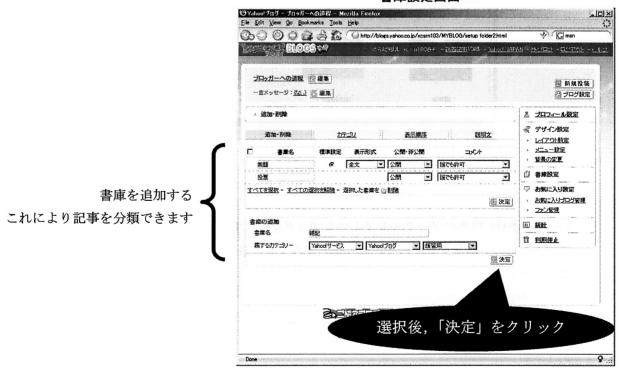
ブログをかっこよくしよう (ブログの設定)



背景設定画面



書庫設定画面



ブログー7

完成!



参考

Yahoo! JAPAN 以外のポータルサイトでもブログを作成できます。サイトによってデザイン等,作成できるものが異なりますので,色々試してみてください。以下,参考までにブログを作成できるサイトです。

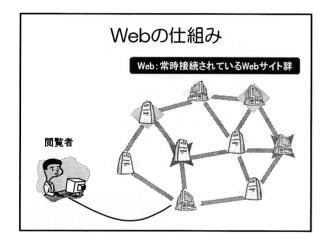
- http://spaces.msn.com/
- O http://blog.livedoor.jp/
- O http://plaza.rakuten.co.jp/

ホームページを作ろう

筑波大学 CRICED 宮川 健

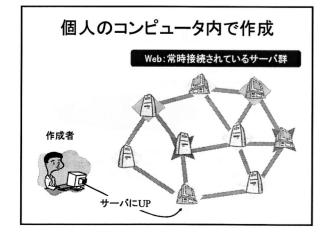
Webの仕組み

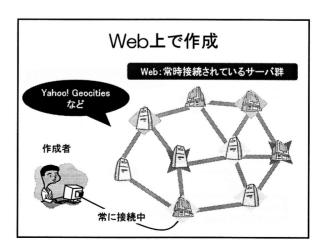
- Webサイトは何でできているの?
 - Webページの集まり
 - Webサイトは24時間起動しているサーバ上に 置かれ、世界中から閲覧可能
- ・ Webページは何でできているの?
 - HTML (Hyper Text Markup Language) と呼ばれるスクリプト言語で書かれているテキストファイルや画像、音声、動画から構成される

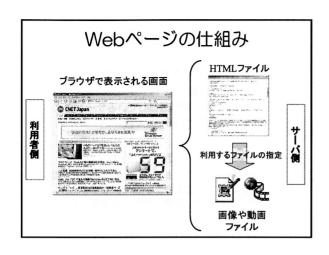


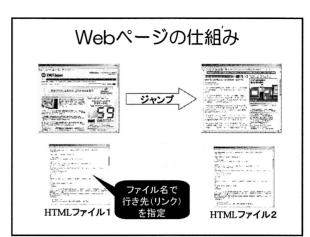
Webページの作成:2つの方法

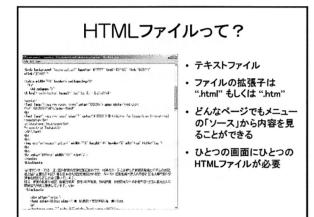
- 個人のコンピュータ内で作成
 - 作成後、UPする
 - UP時以外インターネット接続は不要
- ・ Web上、もしくはサーバ内で作成
 - インターネット接続が必要
 - UPの必要なし



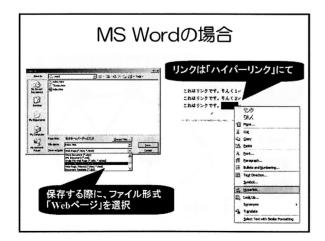


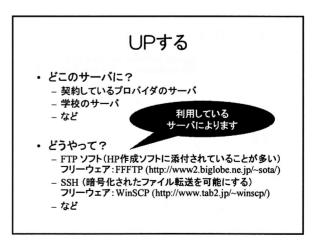


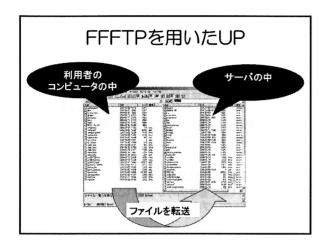


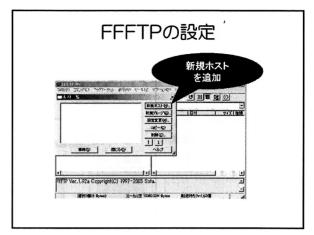












FFFTPの設定



ホストの設定名:好きな名前

ホスト名:FTPサーバのアドレス

(130.158.14.25)

ユーザ名:プロバイダのID (criced1)

パスワード:プロバイダのpassword (1criced)

- ひとつのフォルダで作業する
 - HTMLファイル、画像ファイル等をまとめる
 - 階層が利用者のPC内と異なるとリンク切れの要因に

Webページ作成時の留意点

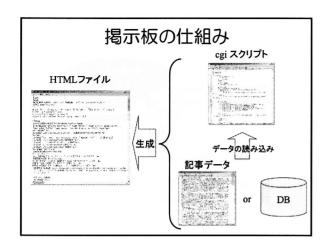
- 相対パス、絶対パスの確認
- ・ ファイル名に注意(リンク切れの要因)
 - できるだけ半角英数を用いる
 - 全角と半角は異なる
 - 大文字と小文字は異なる
- ・ ページをきれいに見せるための留意点
 - ウィンドウの大きさは見る人によって異なる
 - 表(テーブル)を利用する

参考

- ・ ウェブ上にHP作成講座が多くあります
 - とほほのWWW入門(お勧め) (http://www.tohoho-web.com/www.htm)
- 多くのポータルサイト(Yahoo!, Infoseek, など)ではHPを無料でおけます
- 日記形式のHPの場合はブログが便利です

掲示板を設置しよう

BBS = Bulletin Board System



掲示板の設置

- ・ 設置の方法
 - レンタル掲示板を利用
 - cgi や php などのプログラムだけ無料のもの を利用し、プロバイダのサーバに設置
 - 自ら掲示板を作成
- 掲示板設置の注意事項
 - サーバ上で書き込みが必要(このため、cgi 等を置けないプロバイダもある)

掲示板の設置

- ・ 無料レンタル掲示板
 - http://www.ezbbs.net/
 - http://www.tcup.com/
 - etc.

プロバイダ・ポータルサイト が無料提供していることも よくあります

- ・ 無料 cgi, php プログラム
 - Kent web (http://www.kent-web.com/)
 - http://merlion.cool.ne.jp/
 - etc.



ホームページを Web 上で簡単作成!!

多くのポータルサイト (Yahoo! Japan, Infoseek, etc.) では無料で作成できます。 任地での経験を情報発信することができ、

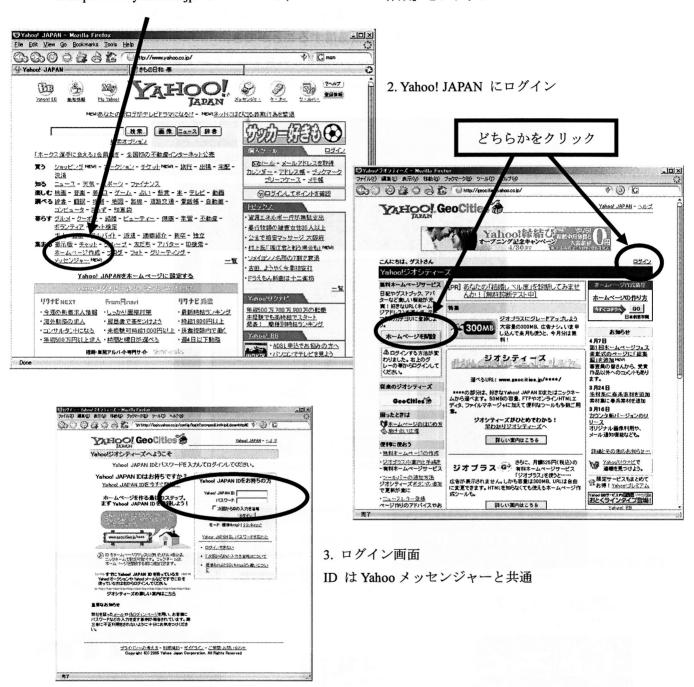
貴重な経験を派遣隊員同士はもちろん他者と共有することができます。 ここでは、Yahoo! Geocities を使って作ってみましょう





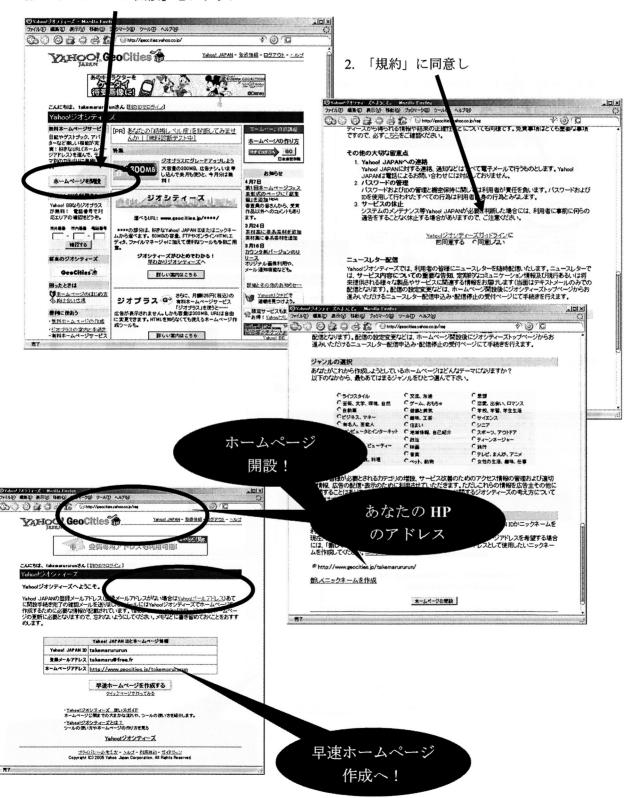
まずログイン

1. http://www.yahoo.co.jp/ にアクセスし,「ホームページ作成」をクリック



いよいよHP開設

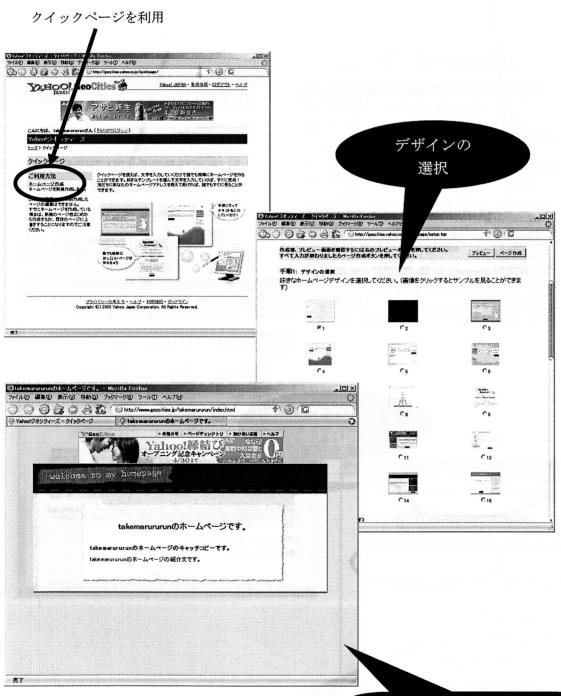
1. 「ホームページ開設」をクリック



ホームページ -3

いよいよHP作成(トップページ)

○ まず、「クイックページ」を利用してトップページを作成しよう



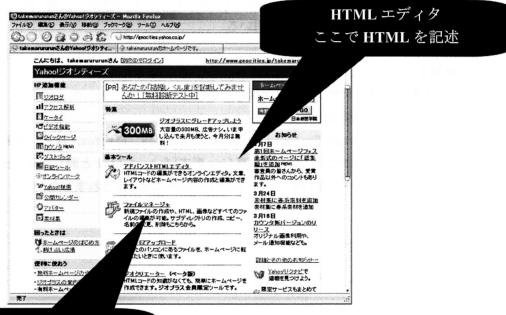
とりあえずトップページの デザインだけできあがり

HP作成 (ほかのページ)

○ ほかのページは HTML エディタで記述。
HTML の基礎知識が必要になる。
わからなくても、とりあえずいろいろ書いてみよう

1





ファイルマネージャ ファイルの階層等を設定



○ ファイルマネージャでは、個人のコンピュータで作成 した HTML ファイルなどをアップすることもできる。

HTML の基本ルール

- 命令はタグと呼ばれる記号で挟む(たまに〈br〉, 〈img〉など例外あり)
- 改行は意味を成さない
- タグを閉じる際はスラッシュではじめる(たとえば、〈/body〉)
- タグは半角英数で記述する
- HTMLファイルの拡張子は, .html もしくは .htm
- HTML ファイルのファイル名は基本的に半角英数文字を用いる
- 色は RGB で 16 進法: 黒 (#000000), 白 (#fffffff), 赤 (#ff0000), 緑 (#00ff00), 青 (#0000ff)
- 画像は GIF, JPG, PNG 形式を用いる

<練習1>

- 1. 以下をテキストエディタ(メモ帳)で書いてみよう。
- 2. test. html の名前で保存しよう。
- 3. ブラウザ (Internet Explorer, Netscape, Mozilla, Firefox, など) で表示してみよう。
- 4. 画像が表示されません。何かの写真(jpg 形式)を test. html と同じフォルダに入れて、ブラウザの「更新」ボタンを押してみましょう。ちゃんと表示されましたか?

test.html

```
<html>
<head>
<title>ホームページの練習</title>
</head>
<body>
私のホームページです。<br>
<b>これは太字です</b><br>
<font color="#ff0000">これは赤です</font>
<a href="test2.html">これはリンクです</a>
<img src="test.jpg">これは画像を張っています。
番号つき箇条書きです
   <1i>番号なし箇条書きです
   <1i>このように入れ子にすることもできます
  <1i>2 行目
</01>
</body>
</html>
```

HTML の基本タグ

基本タグ

<html> HTML 文書を書く HTML のヘッダを書く <head> HTML のタイトルを書く <title> HTML の本文を書く <body> 章の見出しを記述する(1から6まで) <h1> 段落を記述する > 水平線を記述する <hr> 改行する (タグは閉じない)
 中寄せする <center> <div align=center> 中寄せする <div align=right> 右寄せする

フォント (文字)

 文字の大きさを変更する(1,2,3,4,5,など絶対指定と+1,-1
など相対指定)

太字にする

<i>>

斜体文字にする

 文字の色を変更する
 文字の書体を変更する

<u>

アンダーラインを引く

<s>

打ち消し線を引く

背景

<body bgcolor="..."> 背景色を指定する

<body background="..."> 背景画像を指定する

リンク

 画像を貼り付ける (例:)
 リンクする (例: test)

メールアドレスクリックでメーラーを起動する

箇条書き (リスト)

順序箇条書き(type="a" でアルファベットにもできます)

 順序なし箇条書き(type="disc", type="circle", type="square")
リスト項目

相対パスと絶対パス

ホームページ作成時、よくリンクが切れていることがあります。リンクを張る際にはファイルが保存されているフォルダ(ディレクトリ)の階層を考えなければなりません。ここでは、リンクを張るために用いる「相対パス」と「絶対パス」のそれぞれを簡単に紹介します。

たとえば、作成した HTML ファイルと画像ファイルが、以下のようなフォルダ (ディレクトリ) 階層になっているとします。 □ がフォルダを、 ◇ がファイルを意味します。 アドレス (http://www.criced.tsukuba.ac.jp/index.html) が◆を表示します。

☐ http://www.criced.tsukuba.ac.jp/	
⊢ ♦ index.html	
⊢□ criced	
│	
│ ├◇ bbb.html	
│	
│	
⊢□ hoge	
│ └◇ ddd.html	

相対パス

◆ index.html から◆ aaa.html ヘジャンプする相対パス(リンク)は次のように書きます。
aaa ヘジャンプ

index.html のあるところから criced フォルダに入り、aaa.html を指定しています。

♦ aaa.html から◆ ddd.html ヘジャンプする相対パス (リンク) は次のように書きます。
ddd ヘジャンプ

aaa.html のあるところから階層をひとつ上がり ("..."はひとつ上の階層を示す)、hoge フォルダに入り ddd.html を指定しています。

絶対パス

- ◆ index.html から◇ aaa.html ヘジャンプする絶対パス (リンク) は次のように書きます。
 aaa ヘジャンプ
 - 一番上の階層から criced フォルダに入り、aaa.html を指定しています。
- - 一番上の階層から hoge フォルダに入り、ddd.html を指定しています。

参考

HP 作成ソフト

- IBM ホームページビルダー (http://www-6.ibm.com/jp/software/internet/hpb/)
- O Macromedia Dreamweaver (http://www.macromedia.com/jp/software/dreamweaver/)
- O Adobe GoLive (http://www.adobe.co.jp/products/golive/)
- O Microsoft FrontPage (http://www.microsoft.com/japan/office/frontpage/)

HP 作成の有名サイト

○ とほほの WWW 入門 http://www.tohoho-web.com/

無料 cgi, php スクリプト を提供する有名サイト

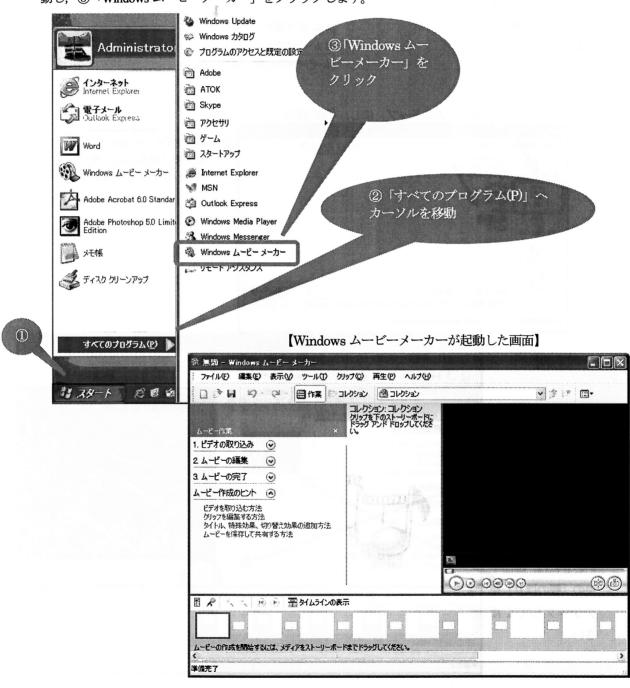
○ Kent Web http://www.kent-web.com/ (掲示板が有名?)



Windows ムービーメーカーは、パソコンにビデオ映像(及び静止画)を取り込み、さらに取り込んだ映像(及び静止画)をつなぎ合わせて1本の映像に編集・保存できます。任地において映像教材を作成したり、任地での活動を映像でまとめたりすることに使えます。

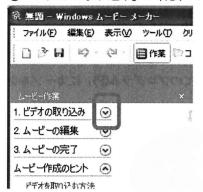
Windows ムービーメーカーを起動しよう

パソコンの画面左下の、①「スタート」をクリックし、②「すべてのプログラム(P)」にカーソルを移動し、③「Windows ムービーメーカー」をクリックします。

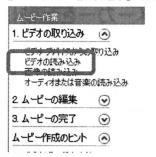


ビデオ映像をつなぎ合わせて編集しよう

- 1. パソコンに保存されているビデオ映像を、ムービーメーカーに取り込みます。
 - ①「ビデオの取り込み」の右横のボタンをクリック



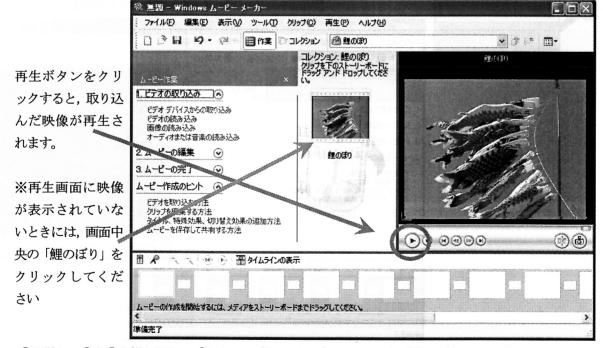
②「ビデオの読み込み」をクリック



③ファイルの場所を「デスクトップ」にし、「鯉のぼり」をクリック



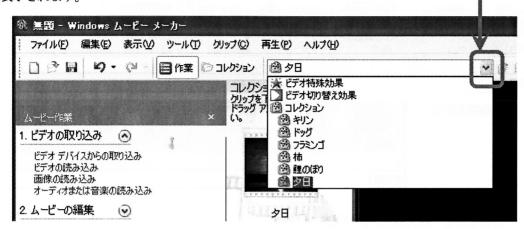
註:「鯉のぼり」を選んで, 右下の「読み込み」を クリックしてもかまいません



④同様に、②と③を繰り返して「キリン」、「ドッグ」、「フラミンゴ」、「柿」、「夕日」を読み込みます。

- 2. ビデオ映像をつなぎ合わせます。
 - ①ムービーメーカーに取り込まれた映像等の一覧は、「コレクション」右横のボタンをクリックすると表示されます。

 ↓ '



②「鯉のぼり」、「キリン」、「ドッグ」、「フラミンゴ」、「柿」、「夕日」の順につなぎ合わせるとします。 まず、①のコレクションの一覧から「鯉のぼり」を選びます。

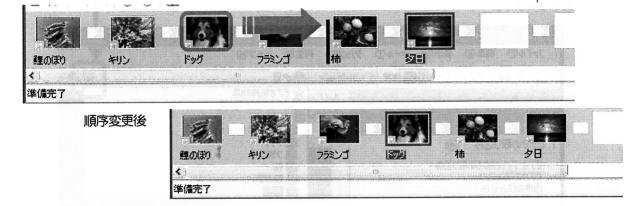
次に、画面中央の「鯉のぼり」を画面左下の枠にドラッグします。



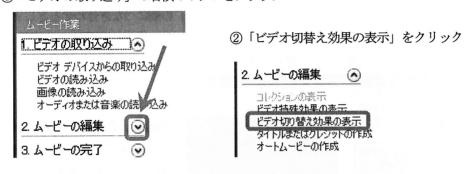
「ドッグ」、「フラミンゴ」、「柿」、「夕日」についても同様に枠にドラッグします。



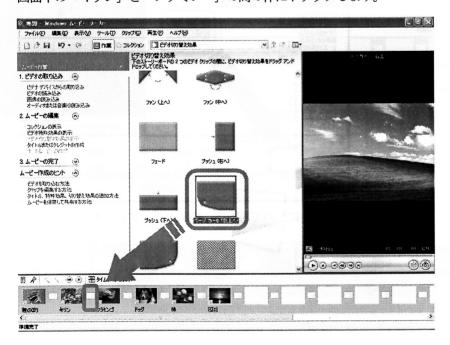
※③ビデオをつなぐ順序を、「ドッグ」、「フラミンゴ」から「フラミンゴ」、「ドッグ」へ変えたいときは、 画面下に表示されている「ドッグ」を「柿」の左横へドラッグします。



- 3. ビデオ映像を切り替えるときの効果をつけます。
 - ①「ビデオの取り込み」の右横のボタンをクリック



③「キリン」の映像を、ページを右上へめくるようにしながら「フラミンゴ」の映像へと切り替えます。 画面中央に表示される「ビデオ切替え効果」一覧の中にある、「ページカール」を 画面下の「キリン」と「フラミンゴ」の間の枠にドラッグします。



④同様に、ビデオ切替え効果「円」を「フラミンゴ」と「ドッグ」の間、 ビデオ切替え効果「スピン」を「ドッグ」と「柿」の間、 ビデオ切替え効果「反転」を「柿」と「夕日」の間、の枠にそれぞれドラッグします。



4. ビデオ映像に特殊効果をつけます。

「鯉のぼり」の映像に、「イーズイン」及び「フェードアウト(黒へ)」をつけます。

①まず、画面下の「鯉のぼり」を右クリック。



②次に,「ビデオ特殊効果」をクリック。

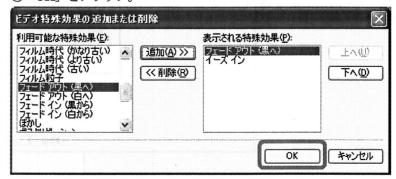


③「イーズイン」をクリックし、「追加」をクリック。



④同様に、「フェードアウト(黒へ)」をクリックし、「追加」をクリック。

⑤「OK」をクリック。



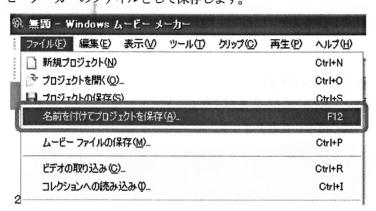
ムーヒ゛ーメーカー **一5** -185-

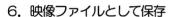
「キリン」についても、同様に、ビデオ特殊効果「フェードイン(黒から)」をつけます。



5. ファイルの保存(Windows ムービーメーカーでは「プロジェクトの保存」と呼びます)

「ファイル」から「名前を付けてプロジェクトを保存」をクリックし、Word 文書や一太郎文書のように Windows ムービーメーカーのファイルとして保存します。





・「コンピュータの最高の品質で再生(推奨)」を選択し、「次へ」。 ・ファイル名を入力し、保存場所を指定し、「次へ」。 1. ビデオの取り込み 🕟 ・「[完了]をクリックしたときに、ムービーを再生する」にチェック ビデオデバイスからの取り込み し「完了」。 3. ムービーの完了 ドデオの読み込み (画像の読み込み オーディオまたは音楽の読み込み コンピュータに保存 、ービーの保存ウィザード 2ムービーの編集 🔥 電子メールで送信 ムーピーの設定 Web (J送信 ビデオ特殊効果の表示 DV カメラに送信 デデオ切り響き効果の表示 タイトルまたはクレジットの作成 ◎ロンピュータの最高の品質で再生 (推奨) (M) 3. ムービーの完了 ムーモーのかっよウィザード **よするムービー ファイル** 保存するムービーのファイル情報を入力してくた ムーモーの保存ウィザード 1. 保存するムービーのファイル名を入力する① ムービーの保存ウィザードの完了 ムービーの保存ウィザードが完了しました。ムービーは、 Test 2. ムービーの保存場所を選択する(2) 設定の詳細 ムービーファイルのサイズ C:¥Documents and Settings¥Adı an.eu.yarhus アケイルの程数 Windows Media ビデオ (WMV) ピット レード 1.7 Mbps 表示サイズ: 720 × 480 ピクセル 級快比 43 フレーム/か: 30 必要な推定領域 7.90 MB / フョン: ☑ [完了] をクリックしたときに、ムービーを再生する(P) ドライブ C: で使用可能な推定ディスク領域 29.56 GB 〈戻る(日) 次へ(小)〉 キャンセル このウィザードを閉じるには、「完了」をクリックしてください。

・「ムービーの完了」から「コンピュータに保存」をクリック。

〈関本学 完了 キャンセル

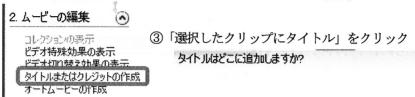
7. タイトルとクレジットをつけます。

「鯉のぼり」の映像に重ねてタイトルをつけてみましょう。

①画面下の「鯉のぼり」をクリック



②「ムービーの編集」から「タイトルまたはクレジットの作成」をクリック



ムービーの緩御に対すりを追加する。

ストーリーボードで選択したクリップの前にタイトルを追加する。

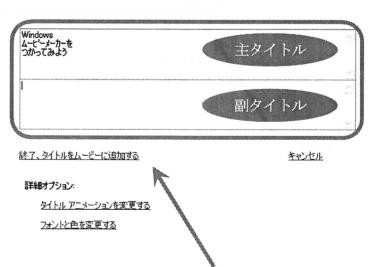
ストーリーボードで選択したクリップにタイトルを追加する。

ストーリーボードで選択したクリップの後にタイトルを追加する。 ムービーの最後にクレジットを追加する。

キャンセル

④タイトルを入力します

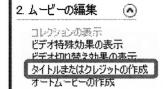
タイトルのテキストを入力 タイトルをムービーに追加するには、[終了] をクリックしてください。



⑤「終了、タイトルをムービーに追加する」をクリック。

クレジットをつけてみましょう。

①「ムービーの編集」から「タイトルまたはクレジットの作成」をクリック



②「最後にクレジット」をクリックタイトルはどこに追加しますか?

ムービーの緩徊に気行りを追加する。

ストーリーボードで選択したクリップの前にタイトルを追加する。

ストーリーボードで選択したクリップにタイトルを追加する。

ストーリーボードで選択したクリップの後にタイトルを追加する。

ムービーの最後にクレジットを追加する。

キャンセル

フォントと色を変更する

③クレジットを入力します

タイトルのテキストを入力 タイトルをムービーに追加するには、[終了] をクリックしてください。



④「終了」をクリック。

8. 全体の微調整をします。

①「タイムラインの表示」をクリック。画面下の表示がタイムラインに切り替わる。



②タイトルを表示する時間帯を変更する

「タイトルオーバーレイ」のタイトル部分をクリック



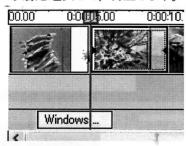


右端もドラッグして 「キリン」の途中で終了に変更 DOLUL 0.00:05.00

Windows 🔼

③映像の中から必要な箇所だけを採用する(トリミング) 「キリン」の先頭部分を削除してみましょう。

映像を選択して、再生します。



再生しながら、「クリップ」から「開始トリミングポイントの設定」をクリック。 (再生しながら、「Ctrl+Shift+I」の方が素早くポイントを設定できます)



これで、開始トリミングポイント設定位置以前の「キリン」部分は編集画面上から消去されました。

- ※ 同様に、映像を再生しながら「終了トリミングポイントの設定」または「Ctrl+Shift+I」を行うと、設定ポイント位置以降の「キリン」部分は編集画面上から消去されます。
- 「5. ファイルの保存」「6. 映像ファイルとして保存」を再度しましょう。完成です!!

動画をムービーメーカーに取り込もう (参考)

- 1. デジタルビデオカメラの IEEE1394 端子とパソコンの IEEE1394 端子を, IEEE1394 用のケーブルで接続します。
- 2. Windows ムービーメーカーを起動し、画面左のムービー作業の「1. ビデオの取り込み」の中から「ビデオデバイスからの取り込み」をクリック。
- 3. 取り込んだビデオファイルにつける名前と保存先を指定すし、「次へ」をクリック。
- 4. 「コンピュータの最高の品質で再生(推奨)」を選択し、「次へ」をクリック。 ※目的に応じて画面に表示される指示に従って選択してください。
- 5. 取り込み方法(テープ全体を自動 or テープの一部を手動)を選択し、「取り込み中にプレビューを表示する」にチェックを入れ、「次へ」をクリック。
- 6. プレビュー表示しながら取り込みが始まる。
- 7. 画面中央のコレクションに、いくつかの映像(「クリップ」とムービーメーカーでは呼びます)が 並びます。

以降は、ビデオ映像をつなぎ合わせて編集しようを参照ください。

補足: Windows ムービーメーカーは、音声についてアフレコが可能です。しかし、テロップを入れたり、 画面を分割したりすることはできません。本格的なビデオ編集ツールとして、「Adobe Premiere Pro 1.5」があります。このソフトでは、テロップの挿入なども行えます。

資料 速報つくば 2005年09号

速報つくば



Staff Bulletin, University of Tsukuba

本号の内容

- 平成17年度生命環境科学研究科先端農業技術科学事攻入学式
- ・宇宙シミュレータ "FIRST" 臨時記 者会見
- 常陽銀行と包括連携協力協定締結
- 途上国に深遠される現職教員研修会 開催
- ・アフガニスタン国の障害児教育協力
- · 田梯主宝碧宝牌

2005

09



2005年09号 (通券1101号) 発行: 筑波大学 編集: 総務・企画部

編集: 総務·企画部 発行日:平成17年5月11日

途上国に派遣される現職教員へ の研修会が開催される

> ーJICA青年海外協力隊 文部科学省 教育開発国際協力 研究センター 主催ー

教育開発国際協力研究センター(CRICED)は、国際協力機構(JICA)青年海外協力隊(JOCV)、文部科学省と共催し、途上国に派遣される現職教員への研修会を4月12日(JICA国際協力総合研修所国際会議場)と13日(東京キャンパス内のCRICED東京分室及びG棟501教室)に開催しました。この研修は、文部科学省国際教育協力のための拠点システム事業「派遣現職教員支援課題」(代表:礒田正美助教授(人間総合科学研究科))として実施するもので、平成17年度に途上国へ派遣される小・中・高等・養護学校の現職教員全84名が参加しました。

今回の研修会では、インターネットを利用して途上国と我が国の教室間を結ぶ国際理解教育、開発教育に関わるセミナー、現職教員特別参加制度による帰国隊員による報告会、複式学級と授業研究に関わるセミナー、CRICEDが開発した国際教育協力アーカイプス内の拠点システム成果活用実習、途上国における教育活動を相互支援するためのICT能力拡充実習を行いました。今後ともCRICEDは、途上国に派遣される現職教員を支援していきます。



集合した青年海外協力隊

筑波大学教育開発国際協力研究センター (CRICED) 派遣現職教員支援課題 代表者 礒 田 正 美 担当者 茅 野 公 穂

1. はじめに

派遣現職教員派遣前研修(青年海外協力隊現職教員特別研修)は,派遣現職教員支援課題の一環として,JICA青年海外協力隊(JOCV),文部科学省,及び筑波大学教育開発国際協力研究センターが共同して計画,実施するものである。その目的は,派遣現職教員が現地でより一層活躍する上で生じうる課題とその解決に向けての準備意識を高め,派遣隊員としての専門性を高めることにある。そのために,日本の教育経験や協力経験,個別協力体験等の紹介を通して,派遣現職教員が教育経験を現地に活かす上での課題の明確化及び,その課題解決や解決を試みる中で得た経験や教訓を日本の教育現場に還元する具体的な方法についての研修を行った。

これまで、講座『役立つ日本の授業研究』(平成 15 年度)及び、講座『日本の教育経験・協力経験の活用と隊員が直面する課題』(平成 16 年度)は、各訓練所に分かれて行われてきた。その都度、アンケート及び派遣現職教員との懇談を通じた反省をもとに、講座の内容・方法を改善して実施してきた。これまでの成果と関係機関、特に青年海外協力隊事務局のご配慮により、訓練所入所前に行われることになった。したがって、本年度の派遣前研修の特色は、時期的には各訓練所に分かれる前に実施した点、内容・方法的には開発教育セミナーやICT能力拡充研修を実施した点にある。

2. 研修の概要

本研修の構成は、大きく5つの部分に分けられる。第1部では、文部科学省大臣官房国際課国際協力政策室長 柳孝様、並びに国際協力機構青年海外協力隊事務局国内グループ長 橋口道代様より激励のご挨拶を頂いた。第2部では、大学教員や関係者を講師として、インターネットを利用して途上国と我が国の教室間を結ぶ国際理解教育に関わるセミナー、及び開発教育に関わるセミナーを実施した。第3部では、任務を終え帰国した派遣現職教員10名(14-1及び15-1次隊)を講師として招き、3つの分科会からなる帰国報告会を設け、現地での活動の実際やそこから得られた具体的な教訓を受講者が共有できるようにした。第3部終了後、受講生と講師(大学教員、関係者、帰国隊員)との懇親会が設けられ、参会者はさらなる情報交換やつながりをもつことができた。

第4部と第5部は、翌日2班に分けて行われた。第4部では、途上国において複数の学年をまとめて編成した学級が多いことを踏まえ、複式学級と授業研究に関わるセミナーが開かれた。また、拠点システム構築事業幼児教育課題、教育経営・教員研修課題、算数・数学課題、アーカイブス課題関係者に発表頂くなどの協力を得て、アーカイブス内の拠点システム成果活用セミナーを実施した。第5部では、途上国における教育活動を相互支援するためのICT能力拡充実習を行った。このICT実習では、Skypeやネットミーティングについては全員が実習し、ブログの作成、HPの作成、ビデオ編集になどについては受講者の希望を基にした選択により実習が行われた。

3. 研修の成果と課題

アンケート結果及び受講者との懇談から、本研修は、受講者に全般的に概ね好評であり、さらなる時間的、内容的充実を望むものであったといえる。各講義も、時間、内容とも概ね受講者から満足頂いている。なお、複式学級と授業研究に関わる講義と拠点システム構築事業に関わる講義に対

する要望は同程度であった。本研修の主な成果としては、以下の2点があげられる。

- ・派遣前訓練が始まるまでに派遣現職教員全員が集まった派遣前研修を開催したことは、人的ネットワークの形成、派遣前訓練の充実、ならびに早めの情報入手による時間の有効利用等の観点から、有効であった。
- ・ICT 能力拡充研修は、受講者の情報作成及び情報発信の手段に関わる技能向上に有効であった。

以下は、こうした成果に係わるアンケートの自由意見記述からの抜粋である。

職員のネットワークができると任国でも、日本に帰ってきてからも、相談しあえたり、教材を共有できたりできます。この研修では、任国も研修所もばらばらな人が集まることができて、ネットワークができました。一堂に集まったのは今年が初めてとのこと。本当にありがとうございました。

たくさんの機関、たくさんの人たちの Back up があることに改めて気付き、そのお礼(という言い方は変ですが)に、自分がこれから体験することをお世話になった方々や子ども達に還元することが自分の任務の1つだと思いました。教員という共通の仕事を持った隊員と出会い、意見交換できるチャンスを作ってくださりありがとうございました。充実した2日間でした。

ありがとうございました。拠点システムや e-アーカイブを教えていただいたので、派遣中の不安が少し減りました。できるだけ使っていきたいと思います。

インターネットは難しそうだと思いましたが、自分でもできそうな気がします。勤務先でもインターネットを通じた情報交換をやろう!!と言われているので、なんとか、その目的を果たせそうです。派遣先からも色々と情報を発信し、活動を理解してもらえればと思います。

(ICT 研修は)素晴らしかった。技術的なことを身につけられただけでなく、Skype 等、任国へ行っても一人ぼっちでがんばらなくてもいいんだという安心感が得られた。

- 一方,今後の研修会に向けての主な課題として,以下の3点があげられる。
- ・派遣前訓練が始まるまでの時期に派遣現職教員全員が集まった研修を開催することは好評であるが、もう少し早めの時期を要望する意見がある。その理由は、今回の研修を受けてさらに訓練前に準備する時間を確保したいという意見に集約される。
- ・帰国隊員による報告会の講義時間を拡充してほしいとの要望が3割強ある。
- ・ICT 能力拡充研修の時間枠の拡充を望む意見が半数を超えている。アーカイブスの実習を望む 意見もあるため、すべての受講者が学ぶ内容をさらに拡充させた指導が必要である。一方で、 ICT 能力拡充研修では、能力差への柔軟な対応が課題といえる。個別対応に好感を抱く受講者 もいる一方で、すべての内容を学びたいとの要望を抱く受講者もいるためである。

以下は、こうした課題に係わるアンケートの自由意見記述からの抜粋である。

今回からできたこの2日の訓練ですが、とてもよかったと思います。このような機会を作ってくださったことに感謝します。この訓練に出る前は1人で不安ばかり多くふくらんでいったのですが、今回志を同じくする隊員の先生方と出会い、情報交換することができ、とても気持ちも楽になり、見通しも持つことができました。できるのなら、このような訓練はもう少し早くやっていただけると、合宿訓練に入る前までに何をやっておけばいいのかが、より明確になり、充実してすごすことができるのではないかと思います。

SKYPE、メッセンジャーなど存在すら知らなかったものを教えていただき、使えるようにしていただき、本当に感謝しています。時間がもう少しあれば HP の作り方も実習したかったです。でも欲張りでしょうかね。

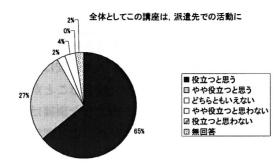
あと1日あればICT研修がさらに充実できたものになったと思う。準備等大変だったと思います。ありがとうございました。

もっと早い時期にこの(ICT)研修があると自分でスキルアップできたかなーと思います。こんなことが自分でもできるんだと分かってよかったです。ありがとうございました。

今後、日本の教育協力経験を踏まえ、より青年海外協力隊隊員としての専門性を向上すべく、これらの課題を解決しつつ中長期的な視野から研修講座を実施する必要がある。

資料:アンケート結果の集計

講座全体



自由意見記述の集約 ※()内の数字は人数を表す。

【時期】

・訓練直前ではないもう少し早い時期に実施して欲しい(3)。

【事前案内】

- ・PC を使うことをもう少し早く知らせてほしい。
- ・案内文の中に具体的に研修内容をいれて必要なソフト等あらかじめ通知してほしい。またそうする ことで、メールアドレスを全員が取得済み、ソフトがインストール済みで研修ができると思う。

【実施方法】

・派遣前に教員という共通の仕事をもつ隊員全員が集まってこのような会議(研修)ができとてもありがたい(10)。

【講座内容】

- ・現職としての自覚、期待、責任をあらためて感じる(7)。
- ・任国に行ってもサポートして頂けることがわかり心強い(10)。
- ・電子アーカイブを是非利用したい(3)。
- 帰国隊員の話が一番印象的。
- ・ICT 研修時間を長く(2)。
- ・インターネットによる情報交換ができるようになりました(2)。
- ・実践できるスキルなので、ICT 研修は今後も続けてください。
- ・養護や特殊教育の体験も聞きたかった。
- ・地域別研修を取り入れて欲しい。

【方法】

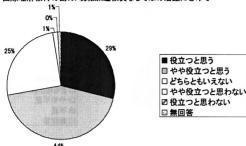
- ・盛りだくさんの内容でしたが講義を聴く側があきない工夫を随所に感じた。
- ・講義形式ではなく参加型の方がよい(2)。
- ・昨年よりも今年の形式の方がよい。
- ・資料をデジタル化してほしい。
- ・終了時間を守ってほしい(2)。

【その他】

- ・一般の先生方にもこの講座を受けて頂いて私たち等への理解を深めてほしい。
- ・2 年間お世話になる中でもしかしたら女性職員にしか相談できないことなど出てきたらどうするのでしょうか。CRICED に女性職員をもっと増やしたり、いるなら前面に出てきてほしいです。

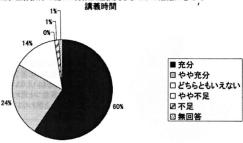
国際理解教育の勧め

国際理解教育の勧め: 現職派遣教員ならではの活躍にむけて

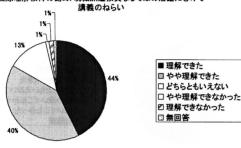


2

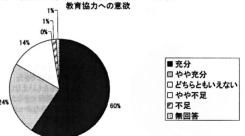
国際理解教育の勧め: 現職派遣教員ならではの活躍にむけて 講義時間



国際理解教育の勧め: 現職派遣教員ならではの活躍にむけて 講義のねらい



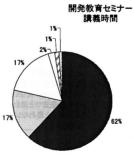
国際理解教育の勧め: 現職派遣教員ならではの活躍にむけて 1km 教育協力への意欲



開発教育セミナー

開発教育セミナー 1%-0%-0% 219 43%

- 役立つと思う
- やや役立つと思う □どちらともいえない □ やや役立つと思わない
- ☑ 役立つと思わない
- 🛭 無回答



- ■充分
- □やや充分 □どちらともいえない
- □ やや不足 図 不足
- □ 無回答





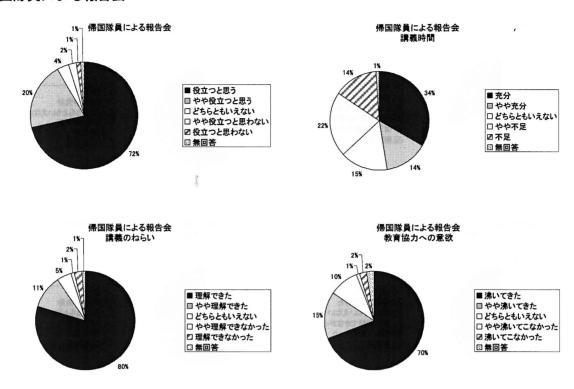
- 理解できた
- やや理解できた □ どちらともいえない
- □やや理解できなかった
- ☑ 理解できなかった
- 🛚 無回答

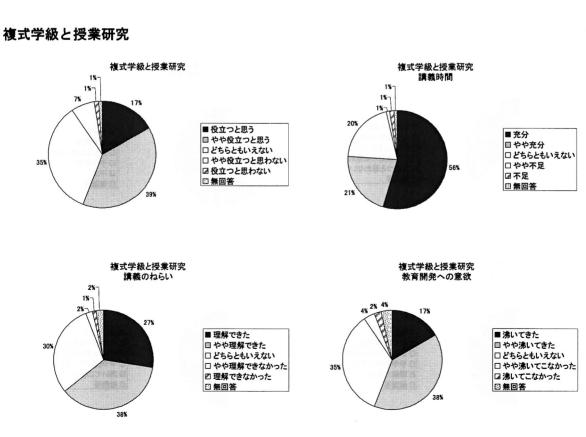


- - 沸いてきた ■ やや沸いてきた □ どちらともいえない □ やや沸いてこなかった

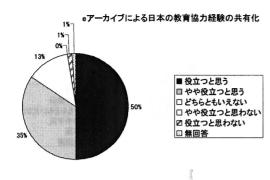
 - ☑ 沸いてこなかった
 - 🛭 無回答

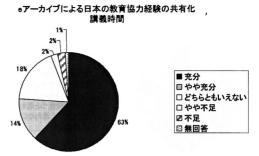
帰国隊員による報告会

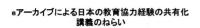


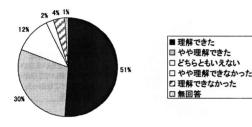


e アーカイブによる日本の教育協力経験の共有化

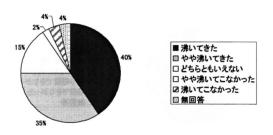






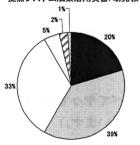


eアーカイブによる日本の教育協力経験の共有化 教育協力への意欲



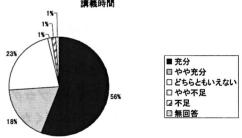
拠点システム成果活用実習

拠点システム成果活用実習: 幼児教育・学校経営・算数数学

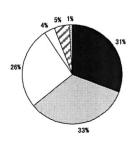


- 役立つと思う □ やや役立つと思う □ どちらともいえない □ やや役立つと思わない
- ☑ 役立つと思わない
- 🛛 無回答

拠点システム成果活用実習: 幼児教育・学校経営・算数数学 講義時間

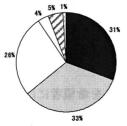


拠点システム成果活用実習: 幼児教育・学校経営・算数数学 講義のねらい



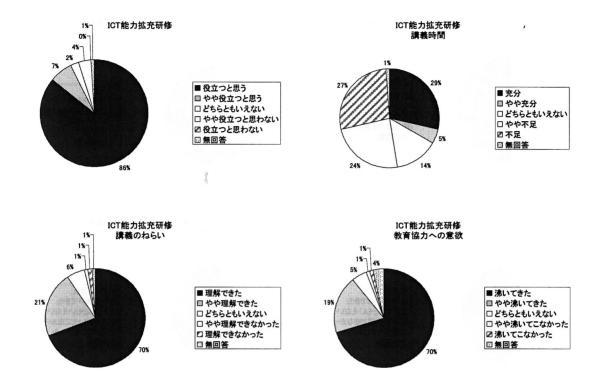
■理解できた □やや理解できた □どちらともいえない □ やや理解できなかった ☑ 理解できなかった □ 無回答

拠点システム成果活用実習: 幼児教育・学校経営・算数数学 教育協力への意欲



■沸いてきた □ やや沸いてきた □どちらともいえない □ やや沸いてこなかった □ 沸いてこなかった ☑ 無回答

ICT 能力拡充研修



自由意見記述の集約 ※()内の数字は人数を表す。

【時期・時間】

- ・もう少し時間枠を拡大して、早めに実施してほしい(個人的にスキルアップする時間の確保)(23)。
- 【事前案内】
 - ・事前に e-mail アドレスの取得が必要と連絡してほしい。
- ・PC 持参, ソフトの動作環境, 必要な機器 (OS, LAN, ヘッドセットなど) を連絡して欲しい (2)。 【内容】
 - ・役立った(16)。
 - ・スカイプ, メッセンジャー, ブログ, ホームページ, 掲示板, VTR 編集, すべてやってみたい (21)。 (含む「1 つにかける時間が短くなるかもしれないが, きっかけにはなると思います」)
 - ・またどこかで実施してほしい。
 - ・任地へ行ってもひとりぼっちではないという安心感が得られた(2)。

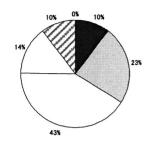
【方法】

- ・資料もよくできていた。
- ・ゆっくりと個別対応して頂きありがたかった(3)。
- ・サポート人数を増やした方がいい。
- ・もう少し少人数の方がよい(3)。

【その他】

- ・Web カメラ、ヘッドセットを希望者にはその場で販売してほしい。
- ・任地のインターネット接続状況を知りたい(3)。
- ・電子アーカイブも実習したい。

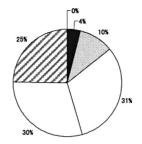
今までの経験から、派遣先で使えそうな教材などの



- 準備がある
- 単端がある □ やや準備がある □ どちらともいえない □ やや準備がない 図準備がない
- □ 無回答

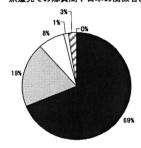
2

派遣先で教育活動を進める上で



- ■情報がある
 □ やや情報がある
 □ どちらともいえない
 □ やや情報がない
 □ 情報がない
- 🛭 無回答

派遣先での隊員間や日本の関係者との間にネットワークを



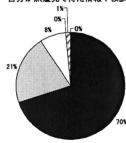
- ■作りたい □ やや作りたい □ どちらともいえない
- □やや作りたくない
- 🛮 作りたくない □ 無回答

日本や派遣先での教育活動を相互支援する体制は



- 必要である □ やや必要である □ どちらともいえない
- □ やや必要ではない
- 図必要ではない 図無回答

自分が派遣先で得た情報や教訓などは、多くの関係者と



- ■共有したい
- 共有したい □ やや共有したい □ どちらともいえない □ やや共有したくない □ 共有したくない
- □ 無回答

文部科学省拠点システム構築委託事業実施報告書

平成 17 年度派遣現職教員派遣前研修報告書

発 行:平成18年2月

発行者: 礒田 正美 (CRICED)

筑波大学教育開発国際協力研究センター (CRICED)

文部科学省 拠点システム構築委託事業

派遣現職教員支援課題

〒305-8572 茨城県つくば市天王台1-1-1

電話 029-853-7287 FAX 029-853-7288

E-mail: jocv@criced.tsukuba.ac.jp

http://www.criced.tsukuba.ac.jp

編 集:茅野 公穂 (CRICED)

印 刷:前田印刷株式会社 筑波支店